

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要	2
① 新設組織の概要	2
② 新設組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	3
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	5
③ 新設組織の主な学生募集地域	12
④ 既設組織の定員充足の状況	12
(3) 学生確保の見通し	13
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	13
ア 既設組織における取組とその目標	
イ 新設組織における取組とその目標	
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	
② 競合校の状況分析	16
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	
イ 競合校の入学志願動向等	
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等	
エ 学生納付金等の金額設定の理由	
③ 先行事例分析	23
④ 学生確保に関するアンケート調査	23
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	32
(4) 新設組織の定員設定の理由	36

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織名	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地
情報デザイン学部 情報デザイン学科 (通信教育課程)	800	200	3,600	新潟県新潟市中央区米山 3-1-46

②新設組織の特色

情報デザイン学部 情報デザイン学科（通信教育課程）（以下本学部）では、教育研究対象とする主たる学問分野を社会への応用を目指す工学分野における情報学とし、情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる人材を育成することを教育研究上の目的としている。「情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる能力を身につけた人材」として、具体的には、情報技術者、技術リーダー、マネージャーとして、「データサイエンスや生成 AI 等の情報技術を活用することによる問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって組織において協調・リーダーシップを発揮できる人材」や、サービス・デザイナー、ビジネスアーキテクトとして、「情報技術の知識とスキルを応用することによりビジネスの課題解決や価値創造ができる、多角的な視点をもって協調・リーダーシップを発揮できる人材」の養成を目指す。具体的な特色は以下の通りである。

1) 実践的な教育課程の編成

情報の基本的な知識と情報技術を基礎力から応用力まで身につけることができるように「専門教育科目」において、情報・工学系科目を段階的・体系的に学修が可能となる教育課程を編成した。また、社会が求める人材が情報学とその周辺領域としての情報社会や経営に関する広い知識を備えた人材であることを踏まえ、身につけた情報の基本的な知識と情報技術をビジネスの課題に対して活用できるように、「専門教育科目」にビジネス系科目を配置し、情報活用場となるビジネスに関する知識などが学修可能となる教育課程を編成する。

2) 情報技術の中心となる DX 活用実践技術、データサイエンスや生成 AI に関する科目を主要授業科目として設定し、教育組織を編制

情報社会における課題解決能力養成のため、「DX プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「データサイエンス入門」や「生成 AI」などを中心に主要授業科目に設定した。また、2023 年 5 月に AI 戦略会議において取りまとめられた「AI に関する暫定的な論点整理」において示された AI 利活用の課題を踏まえ、AI 利活用を通じて経済社会を前向きに変えるために必要な知識とスキルを学修する。このような AI 利活用に関する主要授業科目に対して、実践的な教育が可能な教育組織を編制する。

3) 通信教育による優位性

通信教育は、ロケーションや時間の制約がない学修環境を構築できる。通学の必要がなく、学修時間の設定も学生自身の都合やニーズに合わせて個別最適化できることが最大のメリットであり、多様な学生の受け入れが可能である。学生は通信教育の優位性である効率・利便を享受しながら、自律的に学修を計画、進行できる。

4) グループワークを取り入れた授業により創造力を養成

講義形式による授業に加えて講義により修得した知識を応用し展開するため演習形式の授業を配置する。この演習授業では、通信教育の特性を生かしたテキストディスカッションによるグループ討議を多様な背景をもつ学生同士で行い、新たな視点や考え方の発見、意見交換等を通じて創造力を養成する。

なお、編入学生については、さらに多様な学生の入学が見込まれ、卒業の要件となる単位の区分や数が定まらないことから、固定化した履修モデルについては多数となるものの、その一例として、短期大学・専修学校などを卒業し、本学部で学修する専門知識をある程度有している者、比較的高い専門性を有する職業に就いているがリカレント教育により知識と学術の深化や更新を希望する者、仕事の能力や専門性を磨いて、社会的に市場価値の高い経験を重ねる志向をもった者などを想定した編入学後の履修モデルを作成し、上述の人材養成を実現する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

本学部で養成する人材は、「情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる能力を身につけた人材」である。

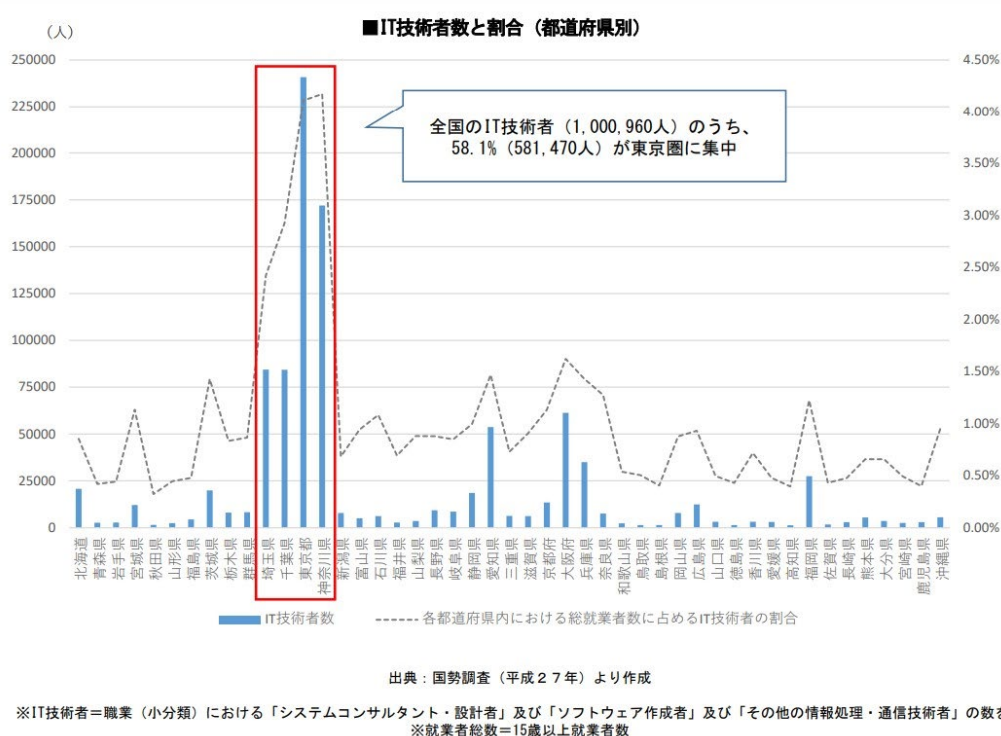
昨今の経済・産業活動においては、IT とビジネスが密接に関連しており、IT や情報ツールの活用によって、ビジネス戦略をより効果的に実現することが可能となっている他、多くのビジネスの様々な場面において先端の IT を駆使した事業の高度化、最適化が図られている。IT とは、Information Technology の頭文字をとった略語であり、コンピュータやネットワークの技術を駆使した情報技術を示し、コンピュータやインターネット等の通信技術を活用して、新たな価値を生み出すための技術として捉えることができる。

この情報技術については、平成 13 年（2001 年）に開設された IT 戦略本部が、同年 1 月に策定した e-Japan 戦略の中で、「情報技術の積極的活用による世界最先端の IT 国家」という目標を掲げており、第 1 期から 4 期までに様々な取り組みがなされている。そして、その直近となる第 4 期においては、その目標が社会のデジタル化の進展を踏まえて「世界最先端の「デジタル国家」の創造」に改正されている【資料 1】。

この「世界最先端の『デジタル国家』の創造」に向けて、内閣府より「Society5.0」の実現が示され「フィジカル空間のセンサーからの膨大な情報がサイバー空間に集積されます。サイバー空間では、このビッグデータを人工知能（AI）が解析し、その解析結果がフィジカル空間の人間に様々な形でフィードバックされます。今までの情報社会では、人間が情報を解析することで価

値が生まれてきました。Society 5.0 では、膨大なビッグデータを人間の能力を超えた AI が解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることになります。」と述べられており、イノベーションによる新たな価値が創造される社会が求められている【資料 2】。

このように、これからの日本社会において情報技術を活用して新たな価値創造ができる人材が求められている一方、情報技術に関連する人材育成に関しては、「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（報告書概要）【資料 3】において、IT 人材（IT 企業及びユーザー企業情報システム部門に所属する人材）は平成 27 年（2015 年）で 17 万人、その 15 年後である令和 12 年（2030 年）には最大で約 79 万人が不足すると予測されており、全国的に IT 人材の確保が急務となっている。さらに詳しく IT 人材の動向を確認するために都道府県別の就業状況を確認してみると、国内の IT 技術者（職業（小分類）における「システムコンサルタント・設計者」及び「ソフトウェア作成者」及び「その他の情報処理・通信技術者」の数を合算）数の約 6 割は東京圏に集中していることがわかる。さらに、各都道府県内における総就業者数に占める IT 技術者の割合も他の地域に比べ東京圏の割合が高くなっており、都市圏へ集中していることが確認できる。



（図 1）デジタル人材に関する調査（「デジタル人材の育成・確保に向けて」令和 4 年 2 月 4 日 デジタル田園都市国家構想担当大臣 若宮 健嗣）

令和 2 年（2020 年）に独立行政法人 情報処理推進機構より発行された「IT 人材白書 2020」【資料 4】においては、企業規模や業種を問わず、すべての企業においてデジタル化の推進は喫緊の課題であるとの報告がなされており、迅速かつ抜本的な対応が求められているとともに、この課題解決を企業独自の活動のみで行うことは困難であるとの報告がなされている。さらには、経済産業省委託事業として平成 31 年（2019 年）3 月にみずほ情報総研より報告された「IT 人材

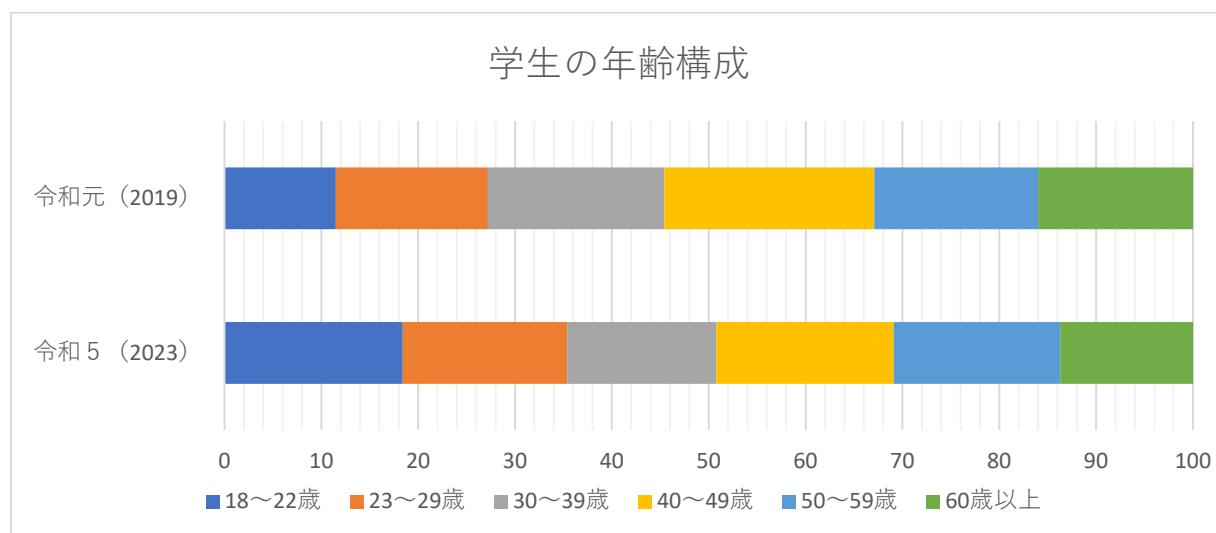
需給に関する調査」【資料 5】においては、AI（Artificial Intelligence：人工知能）やビッグデータを使いこなし、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材の確保が重要であるとの報告がなされている。このような背景を踏まえると、少子高齢化が進んでいる地方部においては、18 歳に限らず、有職者を含めた幅広い人材を対象に教育を提供し、いずれに居住しようとも、地域や地域経済へ貢献できる IT 人材を輩出することが重要であると考ええる。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学部は、通信教育課程の特色を活かし、高等学校卒業後すぐに進学する人だけではなく、幅広い年齢層、職業の社会人にも時間的・空間的に制約のない学びの環境を提供することが可能である。そのため、本学部の入学対象は居住地域に限定されることなく、本法人が設置されている新潟や近隣エリアはもとより、通信制等の高等学校を卒業する者、また学び直しやスキルアップを行う全国の社会人になると見込まれる。

通信制大学への入学者は過去 5 年間で急増している。通信制大学の学生数（正規課程）は 184,735 人であり、5 年前（161,142 人）から比べるとの 15%の増加傾向にある。直近では令和 7 年（2025 年）に新たに 2 大学（東京経営大学および ZEN 大学）が開設されており、今後も通信制大学および通信教育課程は増加傾向にある。

年齢構成は若年層（18～22 歳、23～29 歳）の割合が 27.2%から 35.4%まで増加しており、高等学校卒業後すぐに進学する人（18 歳～22 歳）の通信制大学への進学需要が増加傾向にあることが確認できる。



（図 2）通信制大学学生の年齢構成（文部科学省「学校基本調査」令和元年度、令和 5 年度による 正規の課程のみ）

これを踏まえ、入学対象者として高等学校卒業者と社会人の動向について分析する。

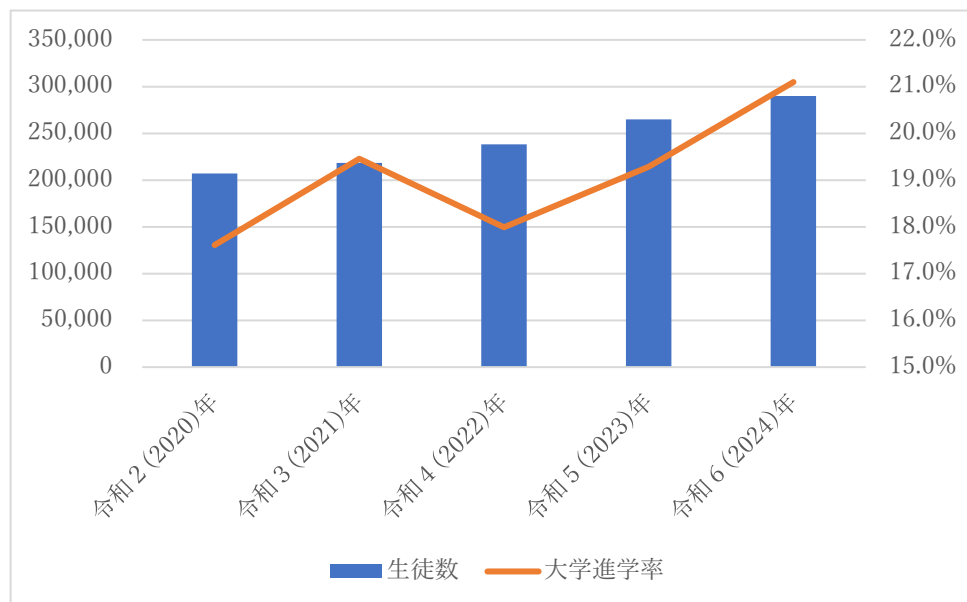
1. 18 歳人口推移と高等学校卒業者の動向と将来に向けた推移

文部科学省の学校基本調査によると、令和 6 年度（2024 年度）の高等教育機関への進学率は 87.3%、大学・短大進学率も 62.3%であり、どちらも共に過去最高を記録している【資料 6】。

また、中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会 配布資料「大学進学者数等の将来推計について」【資料7】によると、今後も大学への進学者数は18歳人口の推移とともに減ってくるものの、大学進学率は右肩上がりとなる推計がなされており、本学部開設後の令和8年～令和12年（2026年～2030年）の大学進学者数は60万人程度で推移し、その後、開設後10年目となる令和17年（2035年）には56万人前後となる予測がなされている。今後も全国的に18歳人口は減少傾向にあるが、大学進学率においては若干の上昇傾向が見込まれている。

2. 通信制高校の生徒数の増加

学校基本調査によると通信制高校の生徒数も増加傾向であり、令和6年度（2024年度）の生徒数は290,087人で、前年比109.5%で過去最高となっている。また卒業後の進路において、令和5年度（2023年度）の通信制高校卒業生数は84,450人だったところ、このうち21.1%にあたる17,917人が大学に進学している。通信制高校生徒数の増加と大学進学率の上昇に伴い、大学進学者数も過去最高となった。



（図3）通信制高校生徒数と大学進学率の推移（文部科学省「学校基本調査」）

このような高校教育における通信制課程の生徒数が増加している主な要因としては、時間の自由度が大きい通信制の教育システムが学業以外の活動に集中したい現代の若者の生活スタイルに合致していることが挙げられる。旧来の通信制高校は経済的な理由、不登校の経験、発達に課題があって通学が困難等の諸事情により通学制の高校教育が受けられない者の学習ニーズに対応することが主目的であったが、現在は多様なニーズに対応し、高校生の約10人に1人が通信制高校の在籍者である。通信教育は少子化の中でニーズが拡大している教育形態であるといえよう。

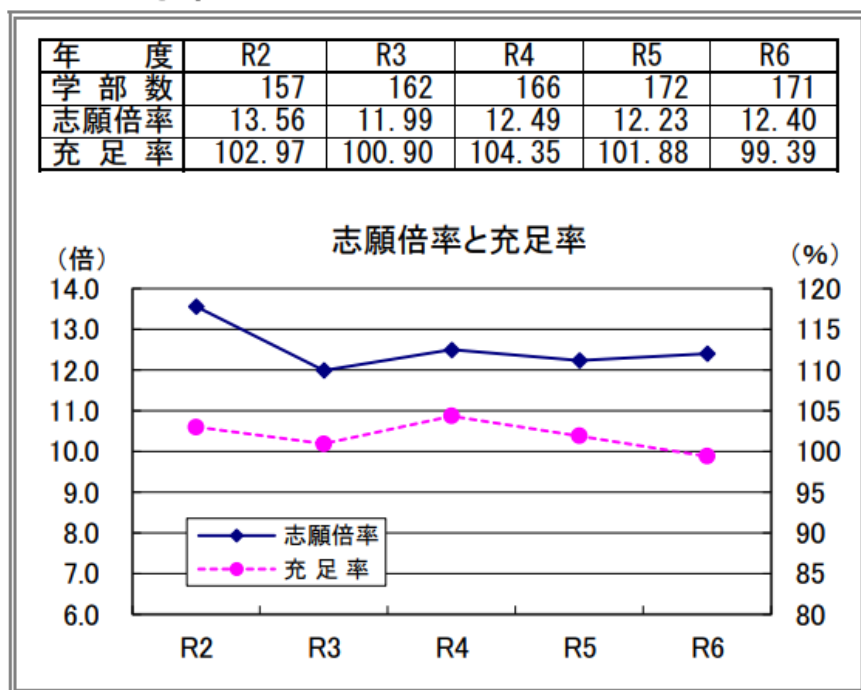
本学部は卒業に必要なすべての単位を通学することなくメディア授業により修得できるため、通信制高校を卒業した生徒の学習スタイルと親和性が高い。また、新型コロナウイルス禍の影響によりオンライン（遠隔）授業の利便性が向上、浸透したこともあり、今後、通学すること

なくメディア授業のみで完結できる通信教育課程へのニーズは継続が予測される。

3. 当該分野における入学志願動向

18 歳人口が減少傾向にある一方で、大学進学率に上昇が見られる中、本学部に関連する分野の学部学科を持つ大学への入学志願動向を、日本私立学校振興・共済事業団による「私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に考察した。理・工学系の分野については過去 5 年の志願倍率を見ると倍率平均 12.53 倍、定員充足率についても 100%前後で推移していることから、他の系統学部に対しても志願者・志願倍率が高く、今後も継続して志願者・志願倍率を維持していく見込みであると考ええる。

理・工学系



(図4) 過去5年間の理・工学系の入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学入学志願動向」より）

さらに、理・工学系の中でも本学部に近い学部が工学部、情報科学部、情報工学部であり、それらの学部のデータを（表1）としてまとめた。情報工学部の動向は令和4年（2022年）からのデータしか公表されていなかったものの、それでも3学部合計の志願倍率は11～12倍前後、充足率も100%前後で推移しているため、今後も維持していくと考えられる。

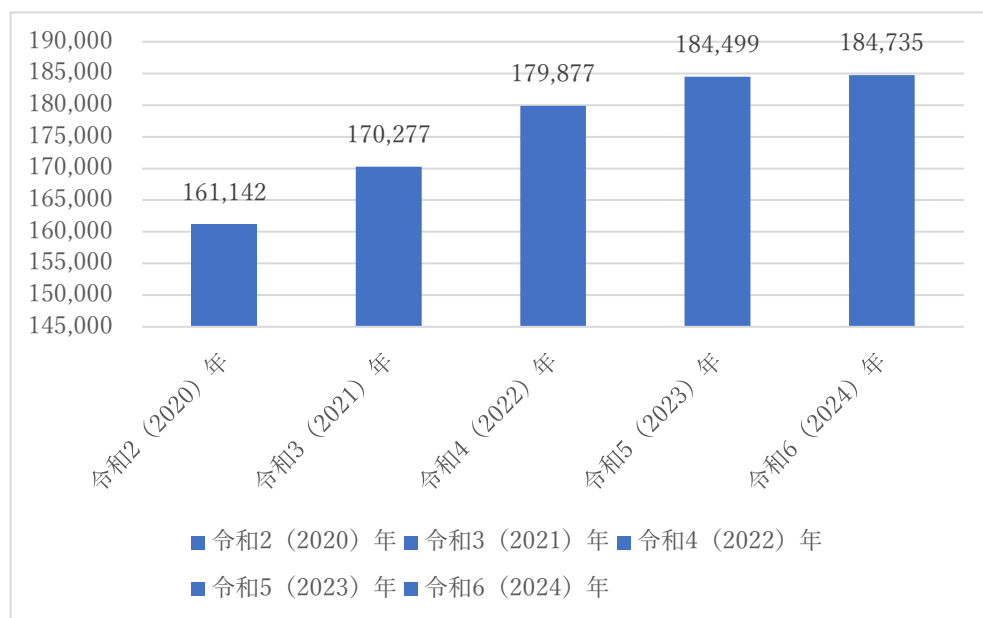
(表1) 理・工学系のうち工学部、情報科学部、情報工学部の過去5年の動向

	年度	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)
工学部	学部数	48	51	51	51	52
	志願倍率(倍)	12.05	10.54	11.15	10.75	10.62
	充足率(%)	106.80	102.08	104.82	100.14	95.91
情報科学部	学部数	4	4	4	4	3
	志願倍率(倍)	26.56	26.72	31.85	31.17	12.34
	充足率(%)	108.60	113.49	105.91	111.91	102.80
情報工学部	学部数			3	3	4
	志願倍率(倍)			19.57	17.98	15.64
	充足率(%)			108.16	110.20	100.00
合計	学部数	52	55	58	58	59
	志願倍率(倍)	12.71	11.28	12.38	11.97	10.88
	充足率(%)	106.88	102.60	104.98	101.03	95.56

出典：(日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より)

4. 通信制大学の学生数の推移

文部科学省の令和6年度(2024年度)学校基本調査によると、通信制大学の学生数(正規課程)は184,735人であり、過去5年の状況を見ると増加傾向にあり、直近は185,000人程度で推移している。(再掲)うち、8割程度は23歳以上の学生であり、一般的な高等教育修了後の年齢層の学生が在籍していることも特徴のひとつである。



(図5) 通信制大学の学生数推移 (文部科学省「学校基本調査」)

公益財団法人私立大学通信教育協会が公表している大学通信教育の現状(データ集)によると、令和6年度(2024年度)における大学通信教育を行う大学数は43大学あるが、その中で本学部と類似の工学分野で高度デジタル・IT人材の養成を目的とする通信教育課程の大学は3大学あり、そのうちメディアを利用して行う授業のみの教育システムをとっている大学は2

大学である。詳細は後述するがこの2大学においては、収容定員に対する大幅な超過が生じていることから、本学部の設置によって、この需要に応えることが可能であると考え。なお、令和7年度（2025年度）は、通信教育課程を有する新設大学は2大学（東京経営大学およびZEN大学）、通信教育課程は名古屋産業大学、近畿大学、岡山理科大学、日本女子大学の4大学で新設されており、大学の通信教育課程の設置が続いている。6大学の入学定員の合計は4,390人となり、この内、ZEN大学は入学定員3,500人の大規模な通信制大学であるが、第1期生のうち令和7年度（2025年度）4月入学生の出願者数は4,371人、入学者は3,380人であり（ZEN大学公式ホームページより）、令和7年度（2025年度）10月入学生を現在も学生募集中である。近畿大学建築学部は「近畿大学建築学部の通信教育課程であるが、1月から募集を開始し、定員を大きく超過する可能性が出てきたため、募集を調整し、上期のスクーリングの受講人数を制限することになった」（近畿大学公式ホームページより、大学教育学会発行「IDE現代の高等教育」2025年5月号を引用）とあり、学生募集状況が好調な様子が窺える。（令和7年（2025年）6月23日現在、募集状況を公表しているのはこの2大学のみ。）

令和7年（2025年）開設の通信教育課程

大学名	学部学科名	入学定員	学位の分野
ZEN 大学	知能情報学部知能情報学科	3,500	文学、経済学、理学、工学
東京経営大学	経営学部経営マネジメント学科	350	経済学
名古屋産業大学	現代ビジネス学部現代ビジネス学科	200	経済学
近畿大学	建築学部建築学科	100	工学
岡山理科大学	情報理工学部情報科学科	200	工学
日本女子大学	食科学部食科学科	40	家政

※大学のみ、短大除く。設置認可、届出案件のみ。定員増の認可申請は除く。編入学定員は除く。

令和8年度（2026年度）開設においても、本学部を含む7大学 入学定員2,000人分の設置、定員増の認可申請が現在審査中である。近年、これほどの大規模な通信制課程の設置が続くことは、大学の通信教育課程の収容力の増加につながり、進学需要を喚起する側面もあると考える。

本学部は特に、成長分野である「デジタル」領域において工学的アプローチから専門人材を養成することを目的に、通信制本来の役割に鑑み、学修者のニーズに柔軟に応えとともに、学生の学びの経済的負担等の軽減を図っていることも特色として、既設の類似学部等の通信教育課程との差別化を図っている。

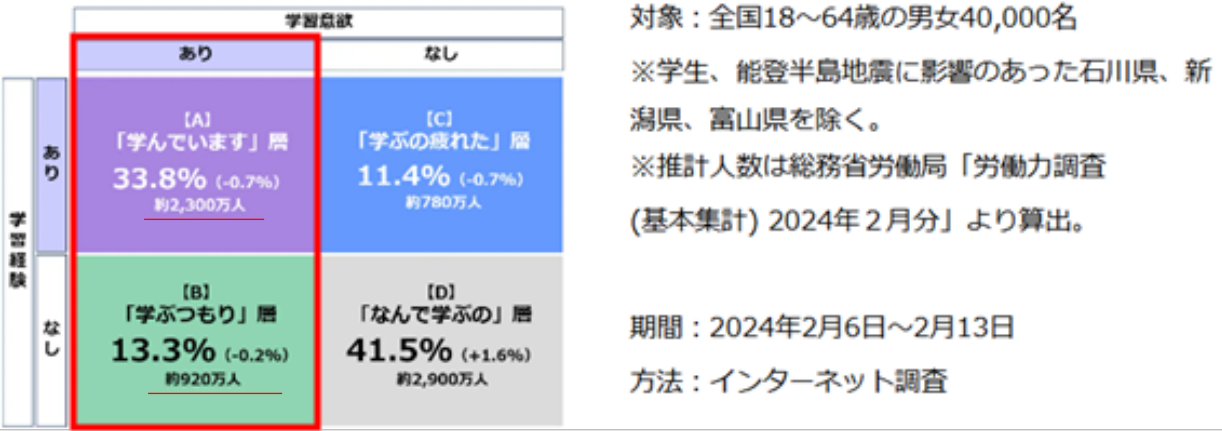
5. 社会人の「学び直し」に関する意向とその目的

加えて社会人の学び直しに対する関心も高まっている。株式会社ベネッセコーポレーションが全国18歳～64歳の男女40,000人に対して実施した「社会人の学びに関する意識調査2024」結果概要によると、「リスクリング（学び直し）」の必要性を感じている方は全体の58%で、2023年（55.6%）からやや増加が見られた、との記載があり、近年の社会人の学び直しのニーズは一定の割合を維持していると言える。また総務省労働局「労働力調査（基本集計）2024年2月分」に基づき、労働人口における学び直しニーズを人口推計すると、学習経験の有

無に関わらず、学習意欲がある層は約 3,220 万人とされており、その内、学習経験は無いが今後「学ぶつもり」層は約 920 万人いるとの推計人数が出ている。学習意欲があり、学習経験もあると回答している層は約 2,300 万人に及ぶが、その規模から推察するに必ずしも高等教育機関で学んでいるわけではない。読書や動画視聴、アプリ等の学習ツールの活用、講座への参加などスモールステップで学習経験を積んでいる層が大半であると考え。そのような学習経験者が、体系だてられたプログラムによる学習機会、発展的な学びの内容、学位を有することを目的に、高等教育機関での学習にステップアップを希望することも期待できる。

このように社会人の学び直しに対する潜在的なニーズは、多様であり、一定規模で存在していることを把握している。

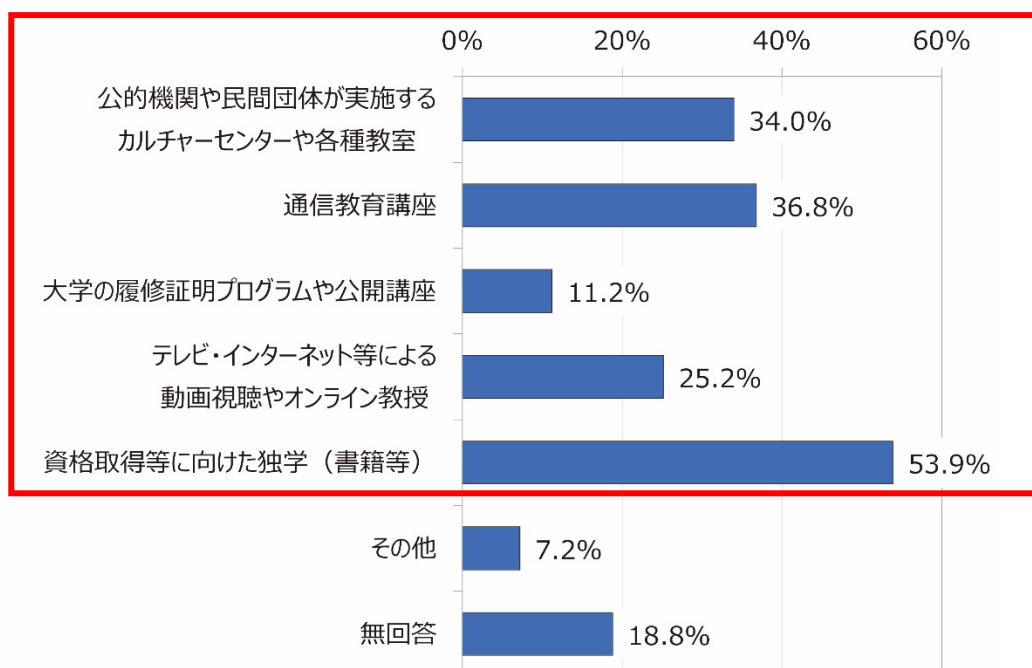
「社会人の学びに関する意識調査2024」



(図6)「社会人の学びに関する意識調査 2024」

(株式会社ベネッセコーポレーション「社会人の学びに関する意識調査 2024」結果概要)

学び直し経験者がその後、高等教育機関へ進学（含む通信制）する期待の根拠として、「4. 通信制大学の学生数の推移」の記載に追加で考察する。通信制大学の学生数は全体的に増加傾向（学校基本調査）である。進学者の8割程度は23歳以上の学生であり、学生数も増加している。「大学通信教育の実態及び教育の質向上等に関する調査研究」報告書によると、通信教育課程へ入学者のうち74%が入学前に何らかの「教育・習い事等の学習経験」を持っている。（全体から「無回答」「その他」を除いた74%が何らかの「教育・習い事等の経験」を持っていると推察。）このことを「社会人の学び直し」に関する調査の結果とあわせて考察すると、学習意欲があって、学習経験ありの約2,300万人および学習経験なしの約920万人いずれもを最大の潜在層として、うち学習経験ありの約2,300万人が次のステップに繋がりがやすい有力な潜在層であると位置づけられる。さらにデジタル化など近年の社会的な環境変化に対応するために、各省庁が就業と並行してリスキリングや学び直しを可能とする施策の検討を進めており、こういった動機付けの可能性も踏まえると、この社会人の学び直しのニーズは今後も確実に増えていくと言える。



（図 7）入学前の教育・習い事等の経験（複数回答）（n=7,959）

（文部科学省「大学通信教育の実態及び教育の質向上等に関する調査研究」調査報告書
令和 7 年 3 月 委託先：株式会社リベルタス・コンサルティング令和 7 年 3 月）

さらに高等教育機関における社会人の学び直しに対する関心についても考察する。内閣府が令和 4 年（2022 年）7 月に全国 18 歳以上の人に対して行った「生涯学習に関する世論調査」によると、学校を出て一度社会人となった後に、大学、大学院、短大、専門学校などにおいて「正規課程で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」「正規課程で学び直しをしたことはないが、公開講座や社会人を対象とした学修プログラムなどの短期の講座で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」「学び直しをしたことはないが、今後は学び直しをしてみたい」と回答した者は 44.4%であり、30 代-40 代ではそれらが 50%を超えている【資料 8】。

その学び直しの理由として 1 番多かったのが「現在または当時の仕事において必要性を感じたため」であり、全体の 49.4%を占め、続いて「人生を豊かにするため」（38.7%）、「就職や転職のために必要性を感じたため」（36.6%）と続き、上位 3 項目のうち、2 項目が仕事に関連する理由となっていることがわかる【資料 9】。前回平成 30 年（2018 年）に行った「生涯学習に関する世論調査」の際、この 1 年くらいの間に「学習したことがある」とする者に、学習した理由を聞いたところ、上位 3 項目は「教養を深めるため」（37.1%）、「人生を豊かにするため」（36.2%）、「現在の、または当時就いていた仕事において必要性を感じたため」（32.7%）の順であり、仕事において必要性を感じて学習をした割合が 13.2pt も上昇している【資料 10】。前回世論調査の「学習をしたことがある」とした回答者と比較しても、現在の仕事に直接的に必要な知識を得ることが学び直しの動機として増えてきていることを確認している。また、正規課程で学び直しをしたことがないが短期講座等での学び直し経験者、今後は学び直しをしてみたいと回答した者をあわせると、回答者の約 4 割に潜在的なニーズがあることがわかった。

6. 当該分野の社会人の学び直しのニーズについて

社会人の正規課程における学び直しに関しては、本学部に関連する分野である情報技術分野において、特にニーズが高いと考えられる。上記記載の学び直しの理由からも、ビジネス活動において、企業内における働き方改革や業務効率化等でクラウド、ビッグデータ、AI、IoT を始めとする情報技術が用いられていることを考えると、当座の仕事に直結する情報技術分野の学び直しニーズが高いことが推測される。内閣府による「生涯学習に関する世論調査」でも今後社会人として学校で学び直したい内容について「デジタル技術や情報通信技術に関すること」が 28.6%を占め、上位 3 項目の中に入っていることから、一般的な学び直しのニーズとして情報技術分野のニーズが高いことがわかる【資料 11】。

また、IT 業務に携わる人材が引き続き活躍していくためにも新しい知識やスキルのアップデートは必須となることが予想される。IPA による「デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進に向けた企業と IT 人材の実態調査」にて、AI 等の先端的な IT 業務に従事する人材（先端 IT 従事者）とそれ以外の人材（先端 IT 非従事者）のスキルアップ意欲についてアンケート調査を実施したところ、「これからも活躍し続けるためには、新しいスキルの習得が必要だと思う」という設問に対して「強くそう思う」もしくは「どちらかと言うとそう思う」と回答した割合は、先端 IT 従事者で 81.4%という高い結果報告がなされており、すでに IT 業務に携わっている人においてもスキルアップデートのための学び直しのニーズが高いと言える【資料 12】。

このような中、本学部と同じ高度デジタル・IT 人材の養成を目的とする他の通信教育課程の大学では、収容定員に対する大幅な在籍者の超過が生じており、編入学においても入学定員充足率が 100%を超えていることから【資料 13】、1 年次入学だけではなく、3 年次編入学についてもそのニーズは高いと考えられる。

本学部では、3 年次の編入についても 200 人の編入学定員を設定しており、このような需要に応えることが可能であり、教育機会の拡大に寄与できると考えらる。

③新設組織の主な学生募集地域

本学部は、通信教育課程の特色を活かし、時間的・空間的に制約のない学びの環境を提供することが可能であり、通学の必要が無いため、入学対象者が居住地域に限定されることはない。よって学生募集地域を限定して設定することはしない。

ただし、前述のとおり入学対象として想定している社会人については、情報技術分野において特に学び直しのニーズが高いと考え、その対象となりうる IT 技術者は首都圏への集中傾向が見て取れることから、学生募集地域として重要視している。いずれに居住しようとも、地域や地域経済へ貢献できる IT 人材を輩出することが重要であると考えらる。

④既設組織の定員充足の状況

事業創造大学院大学は大学院大学であり、現時点において学部は設置していないため、既設組織に該当するものは無い。また、新設組織と関係のある大学等以外の組織についての該当も無い。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

事業創造大学院大学は大学院大学であり、現時点において学部は設置していないため、近接する学問分野を持つ学科に該当する既設組織は無い。また、新設組織と関係のある大学等以外の既設組織の該当も無い。

ただし、後述している本学部と教育内容やその方法、定員規模等が類似している競合校があるため、それらの大学が実施している入学者獲得のための施策や実績を参考に、次で述べる本学部における学生確保に向けた具体的な取組を計画している。

イ 新設組織における取組とその目標

本学部は、通信教育課程の特色を生かし、高校卒業後すぐに進学する者だけではなく、幅広い年齢層、職業の社会人等にも時間的・空間的に制約のない学びの環境を提供することが可能である。

そのため、本学部の入学対象は居住地域に限定されることなく「①全国の高等学校を卒業する者」、また「②学び直しやスキルアップを行う全国の社会人」になると見込まれる。これらの入学対象者①と②に応じた学生確保に向けた具体的な取組については、後述している本学部と教育内容やその方法、定員規模等が類似している競合校が実施している入学者獲得のための施策を参考に以下1～6で述べるとともに、各取組における目標は、競合校の実績を推計した数値を参考に本学部独自に設定した。それらについて以下の(表2)でもまとめている。WEB と印刷物を使い分け、効率的に広報をするとともに、説明会はオンラインとオフライン、それぞれのメリットを明確にしながら両方を活用し、入学希望者に適した対応をしていく。

(表2) 取組ごとの目標と見込まれる効果

		1.公式 WEB サイトや公式 SNS による広報	2.WEB 広告の活用	3 資料請求者に対する資料配布	4.大学説明会/個別相談会	5.進路相談会の活用
主な対象	高等学校卒業生	○		○	○	○
	社会人	○	○	○	○	
見込まれる効果		認知拡大 ナーチャリング	認知拡大 リードの獲得	出願意欲の向上 大学説明会への動員促進 出願アクション	出願意欲の向上 出願アクション	リードの獲得 興味関心を高める 大学説明会への動員促進
目標		WEB サイト訪問数 月間平均 150,000		資料請求数 8,000 件	大学説明会/個別相談会 参加者数 580 人	
入学者の見込み数		高等学校を卒業する者 100 人 学び直しやスキルアップを行う全国の社会人 700 人				

1. 公式 WEB サイトや公式 SNS による広報【対象①・②】

公式 WEB サイトでは、随時最新情報の更新が可能であり、ユーザーが求めるコンテンツの充実を図っていくことが可能である。また SNS では情報拡散による認知拡大のほか、プッシュ配信による最新情報の提供、相互コミュニケーションも可能であることから、ナーチャリングの効果も見込んでいる。なお、WEB サイト訪問数の目標は競合校の令和 5 年（2023 年）11 月～令和 6 年（2024 年）1 月の月間訪問数を参考に、月間平均 150,000 と設定した。

WEB サイトを使って本学部を理解しやすくするために、公式サイト (<https://kaishi.ac.jp/info-d/>) を令和 5 年（2023 年）9 月より開設している。構想中である学部名（仮称）や入学定員数、本学が養成を目指す人材像や実施予定科目の抜粋、学生納付金等、進学を検討する上で必要な情報を公開している。今後はインターネットで学ぶ利便性を体感してもらえるような授業動画の一部を公開するなど、学びへの一歩を踏み出せるようなコンテンツを充実させていくとともに、今後学部開設に向けて決まってくる教員情報など、随時情報を更新していく。

さらに SNS での情報収集は全世代で主流となっていることから、本学部でも公式 SNS を開設し、情報発信をしていく。具体的には LINE、Instagram、X、YouTube を活用するが、各 SNS の年代別利用率を考慮しながら、それぞれの SNS 登録者のメインターゲットを想定し、媒体ごとに訴求内容を変えていく。教員予定者インタビューや大学説明会情報、業界に関するコラムなどの配信を予定し、本学部に興味を持ってもらえるような施策を展開していく。

2. WEB 広告の活用【対象②】

学び直しやスキルアップ、キャリアチェンジのニーズを持つ社会人については、WEB 広告を活用したターゲティングを行い、公式サイトや SNS へ誘導することで、認知拡大やリードの獲得をしていく。その受け皿として、社会人が入学するにあたり不安に思うであろう点を解決できるようなコンテンツを用意する。具体的には、働きながらも継続しやすい学修環境の訴求（時間や場所に縛られないオンデマンド授業等）、他大学と比較しても廉価な本学部の学費についての訴求、初めてのオンライン授業でも継続可能な学修サポート制度の訴求等をしていくことで、多様な生活環境や社会生活にありながらも学びへの意欲がある社会人が、安心して本学部を選択できるような WEB ページを用意する。

3. 資料請求者に対する資料配布【対象①・②】

本学部に興味のある方向けには、本学部の公式サイトより学部紹介冊子の送付を随時無料で行っていくことで、出願意欲の向上や大学説明会への誘導、あるいは出願アクションを促していく。この資料請求の目標については、競合校の実績を推計した数値を参考に 8,000 件とした。令和 7 年（2025 年）4 月からは本学部で養成する人材像をかみ砕いてよりわかりやすく説明した内容を盛り込んだ冊子にリニューアルし、引き続き資料請求者へ発送をしていく。また、公式サイト内で送付している冊子データをダウンロードし、より手軽に閲覧できるような対応も行っていく。

4. 大学説明会、個別相談会【対象①・②】

本学部への入学を希望・検討している高校生やその保護者、または社会人を対象に、本学部の通信教育課程の特長を積極的に公開し、関心を深めてもらうための出願促進イベントとして、オンライン大学説明会を実施する。説明会では、教員予定者による学部内容の紹介や学修サポート体制、参加者からの質問へのリアルタイム回答などのコンテンツを用意。大学説明会はリアルタイムのオンライン開催で実施していくが、後日アーカイブ配信も行い、当日参加できなかった方へも案内していく。この他に学部概要紹介動画等を公式サイトでも掲載し、興味を持ったタイミングでいつでも視聴できるようにする。

個別相談会については、一人ひとりの不安や疑問に寄り添った対応をすることを目的にするが、オンライン開催と主要都市での対面開催の2種類にて対応。時間帯は平日の夕方や土曜日など、遠方者でも参加しやすく、社会人や高校生でも時間が取れそうな、選びやすい時間帯で対応していく。

これらのイベントでは出願意欲の向上や出願アクションを促していくことが狙いである。この大学説明会、個別相談会の参加者人数の目標についても競合校の実績を推計した数値を参考にしており、580人と設定した。

5. 進路相談会の活用【対象①】

高校生向けの進路選択支援を行っている民間企業が主催する、オンライン、または公共施設、高校等で開催される進路相談会にも参加をしていく。主に春と秋に開催される首都圏を中心とした会場動員数が多い相談会への参加を年20回程度予定している。この他にも特に高校内で行われる進路相談会への参加要請があった場合は、基本的にすべて参加していく。本学部について直接説明をする機会を設けることで、本学部への興味関心を高め、リードを獲得していくとともに、大学説明会への参加を促すことを目的としている。

上記1～5の各取組を確実に実行していくため、スケジュール【資料14】を立てて行っていく。本学部の学生募集エリアはオンラインの特性を活かし、居住地域に限定されることなく全国となるため、WEBやデジタルを活用した広報をメインとして積極的に展開する。そうすることで本学部が情報学分野の最先端の学部であること、高度なデジタル人材の育成をしていることの理解にもつながると考える。

なお、上記のような取り組みにより、開設当初は社会人を多く受け入れる想定であるが、「②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」でも述べたとおり通信制大学進学層の多様化傾向があることを踏まえ、令和10年度（2028年度）以降は社会人だけではなく、若年層（18歳～22歳までで高等学校卒業後すぐに進学する人や専修学校生などを想定）の進学需要にも応える計画である。具体的には「高大接続」「専修学校（専門学校）からの編入」である。

「高大接続」については、通信制高校の生徒数が増加していることから、以下のように通信制高校を中心に連携を図っていくことを計画している。まずは、本法人の系属校として令和7年（2025年）4月に開設した広域通信制の開志創造高校があるため、この開志創造高校と高大接続連携を進めていく。具体的には、高校在学中に選択できる専攻の1つとして「高校・大学連携専攻」を設置し、本学部の授業を科目履修できるようにするが、その際に「生

成 AI コース」や「アプリプログラミングコース」など、基礎となる科目群をあらかじめこちらでカテゴライズし、複数のコースを用意する予定である。その中から興味のあるコースを選択して受講できる仕組みにし、本学部での学修や将来像のイメージを膨らませることで進学意欲を高め、入学者を獲得する取り組みを行う。なお、このような連携は同じ系属校の単位制・通信制の開志学園高校とも進めていく計画だが、系属校に限らず他の通信制高校とも進める予定である。これは高等学校においても通信教育による自律的な学習習慣を身につけ、本学部の学修スタイルに親和性の高い高校生へ教育効果が高いと考えているため、計画を重点的に展開するものである。

続いて、専修学校（専門学校）からの入学者であるが、令和 8 年度（2026 年度）から専修学校（専門学校）の履修要件が時間制から単位制へ移行される点に着目している【資料 31】。大学と専修学校（専門学校）との間で教育面での制度的な同等性が確保され、専修学校（専門学校）と大学間の移動が容易になるため、専門学校修了者の大学への編入等、流動化のニーズを喚起できるのではないかと考えている。これを受け、令和 10 年度（2028 年度）から始まる 3 年次編入学の受け入れを念頭に、本法人の系属校である 34 校の専修学校の在校生にも広く編入学の案内を行っていく予定である。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記で述べたターゲット別の学生募集の取り組みにより、全国の高等学校を卒業する者の入学者数の見込みは 100 人程度、学び直しやスキルアップを行う全国の社会人の入学者数は 700 人前後と見込んでおり、各取り組みを確実に実行していくことで定員を充足する入学者の確保ができると考えている。さらに令和 10 年度（2028 年度）以降は、増加する若年層の多様な進学ニーズにも対応し、段階的に高校卒業者の割合も増やしていくことで、開設年度以降も継続して入学定員 800 人の学生を確保していく見通しである。

②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学部は、インターネットで 24 時間いつでも学ぶことができる通信教育課程の学部である。入学定員 800 人、3 年次編入学定員 200 人、収容定員は 3,600 人であり、教育研究対象とする主たる学問分野を情報学として、特にその中心を、社会への応用を目指す工学分野における情報学に教育研究を置く。学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層等から類似する通信教育課程の学部を持つ大学は「東京通信大学」「サイバー大学」の 2 校であり、競合として想定する学部学科は以下のとおりである。

- ・東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科
- ・サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科

1. 競合校の選定理由

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」と「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」を競合校として選定した観点について、まずは以下のとおり（表 3）にまとめ、選定理由を説明する。

(表 3) 競合する大学についての比較表

	(本学) 情報デザイン学部 情報デザイン学科	東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科	サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科
学校種	大学	大学	大学
入学定員 (2 年次編入学定員) (3 年次編入学定員)	800 人 200 人	850 人 300 人	800 人 50 人 325 人
収容定員	3,600 人	4,000 人	4,000 人
学位の分野	工学関係	工学関係	経済学、社会学、工学
所在地	新潟県新潟市	東京都新宿区	福岡県福岡市
学力層	入学選考で学力試験を 設けない	入学選考で学力試験を 設けていないため不明	入学選考で学力試験を 設けていないため不明
その他	通信教育課程 (通学の必要無し)	通信教育課程 (通学の必要無し)	通信教育課程 (通学の必要無し)

出典：各大学公式ホームページを参考に本学部にて調査

1.1 学校種の類似性

本学は令和 8 年（2026 年）4 月に情報デザイン学部 情報デザイン学科（通信教育課程）が開設されると、事業創造大学院大学から開志創造大学（仮称）に名称変更し、専門職大学院から通信教育課程学部も持つ大学となる。「東京通信大学」「サイバー大学」も、いずれもメディア授業のみで完結する通信教育を行う学部を設置している通信制大学であり、学校種は同じ大学である。

1.2 定員規模の類似性

本学部の入学定員は 800 人、3 年次編入学定員は 200 人、収容定員は 3,600 人である。「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」は、入学定員 850 人、編入学定員 300 人、収容定員は 4,000 人であり、「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の入学定員は 800 人、2 年次編入学定員 50 人、3 年次編入学定員 325 人、収容定員は 4,000 人である。いずれの学部も定員の規模は本学部と同程度である。

1.3 学問分野の類似性

本学部では、教育研究対象とする主たる学問分野を情報学として、特にその中心を、社会への応用を目指す工学分野における情報学の教育研究に置く。よって、学位又は学科の分野を「工学関係」としている。「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」の設置認可申請書における設置の趣旨等を記載した書類では「主たる教育研究対象は、情報学であり、経営学の一部の領域も取り込んでいる」との記載があり、設置認可申請書における基本計画書の学位又は学科の分野は「工学関係」となっている【資料 15】。「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の学位又は学科の分野は基本計画書を確認すると経済学、社会学、工学と複数の記載がなされているが、いずれの大学とも工学を主とする学問分野としており、本学部と類似している【資料 16】。

1.4 所在地の類似性

本学部の所在地は新潟県新潟市である。「東京通信大学」は東京都新宿区、「サイバー大学」は福岡県福岡市であり、いずれも所在地に類似性は無い。ただし、メディアを利用して行う授業のみの通信教育の場合、学生募集地域を限定されることなく、全国的な学生募集が可能である。また、公益財団法人私立大学通信教育協会が公表している大学通信教育の現状（データ集）【資料 17】によると、実際に入学対象者が通信教育課程への進学を検討する際も、大学の所在地が入学の動機や決め手になることはほぼ無いと考えるため、所在地の類似性がなくても競合校として想定する上で影響はないと考える。

1.5 学力層の類似性

本学部における入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施し、受験希望者に対して出願書類として調査書及び志望動機書の提出を求めることとしており、判定については、調査書及び志望動機書に基づく書類選考により行う。

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」も「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」も同様に入学試験において学力試験による選抜は行っておらず、学力層の把握は困難である。よって競合校の選定において、学力層の類似性は考慮していない。

2. 競合校との比較分析

先述した観点より「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」と「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の 2 校を競合校として想定したが、続いては、以下 5 つの観点について比較しながら本学部の特長について述べる。

2.1 教育内容と方法

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」の教育目標は「21 世紀型の市民的教養としての情報技術と、マネジメントの諸知識と技法を活用し、21 世紀の知識基盤社会における複雑かつ多様な諸課題を発見・理解・解決する能力を有する人材の育成である。」としており、カリキュラム・ポリシーによると、教育課程編成の考え方として、専門基礎、教養、情報技術、社会の理解と調査、マネジメントの 5 項目が挙げられている。また、学び方は独自のオンライン学習システム「@ROOM（アット・ルーム）」を利用し、24 時間デバイスフリーでの学習が可能である。（東京通信大学公式ホームページより）

「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の人材育成目標は、「IT 活用力、ビジネス応用力、コミュニケーション力を身に付けた高度 IT 人材を育成すること」としており、ディプロマ・ポリシーでは「IT 基礎力」「IT 実践力」「ビジネス基礎力」「課題解決力」「批判的思考力」「コラボレーション」「エンゲージメント」の 7 項目の能力を身に付けた者に卒業を認定するとし、そのために必要な教育課程として教養科目、外国語科目、専門科目、卒業研究科目についてカリキュラム・ポリシーで説明されている。また、授業の受講やテストは独自の e ラーニングプラットフォーム「Cloud Campus」を利用して、オンデマンドの授業動画を視聴し、学習する。なお、「Cloud Campus」はデバイスフリーのシステムとなっている。（サイバー大学公式ホームページより）

本学部では「情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる人材を育成する」という教育目的を達成するために必要な科目を開設している。その教育課程の編成については、実践的であることが特色となっており、専門教育科目の編成は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の中の主に、「情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている」「情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている」「情報技術を活用し、課題解決と価値創造ができる力を身につけている」および「地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている」に重点を置き、そのために必要な情報・工学系、ビジネス系、演習系の3つの領域によって構成されている。

また、すべての授業をメディア授業として実施するが、このメディア授業はインターネット等による通信手段によりラーニングマネジメントシステム（以下 LMS）から非同期で配信されるオンデマンド方式の授業を基本とする。その際には、非同期メディア授業においても双方向性を確保し、効率的かつ利便性の高い通信教育の優位性を担保しながら、LMS にポートフォリオを連携することで学修効果を高められるような工夫をしている。

以上のことより教育内容については、大学ごとにそれぞれ掲げている教育目標、教育目的が明確であり、そのための特色ある教育課程が編成されている。この点においては本学部も同様であるため優劣は無いが、同じ工学関係の学位又は学科の分野であっても、差別化を図ることができていると考える。一方でその方法においては、各大学とも独自の学修管理システムが用いられており、以下（表4）のような特長を持っているが、本学部の LMS で想定している機能もおおむねそれらの特長を網羅している。それを踏まえた上で本学部の LMS の独自性は、ポートフォリオと連携し、作成したプレゼンテーションやレポートなど、日々の学修成果を蓄積する機能を持たせている点、また、学修成果をアピールする機能を設け、外部に対して必要な成果を見せる機能となっている点である。これにより学修成果を蓄積し、アピールすること、つまり学修を統合する機会をすべての学生に保証している点が、本学部の特長となっている。

（表4）競合する大学の LMS の特長

	東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科	サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科
システムの名称	@ROOM	Cloud Campus
できること	講義動画視聴 授業の進捗確認 小テスト 単位認定試験 オフライン再生 授業の質問 資料のダウンロード デバイスフリー	授業動画の視聴 小テスト レポート ディベート オンラインプレゼンテーション デバイスフリー オフライン再生

出典：各大学公式ホームページを参考に本学部にて調査

2.2 入試

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」とも春（4 月）入学と秋（10 月）入学の制度を設けているが、秋入学は、いずれの大学とも定員に余裕があった場合に限り実施する制度となっており、入試日程も年度当初から公開されていない。実際、秋入学の受け入れをしているのは「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」のみである【資料 18】。令和 6 年度（2024 年度）の入試の受験時期、入学手続き時期については（表 5）のとおりとなっている。受験期間内で複数の入試回数が設けられているものの、基本的には途切れなく出願できるようになっており、受験時期が長期にわたって設定されている。多様な生活環境にある入学対象者を考慮し、入学を決意したタイミングで受験しやすいようなスケジュール設定となっている。

本学部の入学対象者も居住地に限定されることなく全国の高等学校を卒業する者、また学び直しやスキルアップを行う全国の社会人を想定しているため、上記 2 大学同様、様々な属性の入学対象者が受験しやすい入試を設計していく。具体的には、複数回の選考日を設けることで長期間の出願受付が可能となる入試制度とし、入学手続き時期は入試ごとに定める予定である。また、本学部においても 4 月入学だけでなく、10 月にも若干の学生を受け入れるが、この 10 月入学の学生は 4 月入学者の定員を補うものとして実施する。以上を踏まえると、入試において上記 2 大学と比較した際に大きな相違点は無い。本学部も含めいずれの大学も通信教育課程であるため、入学対象者がそれぞれのタイミングで入学や学び直しを決意した際に、機を逃さず受験できるような入試制度を整えることが重要であると考え、この点において、競合校と比較した際に優劣は無いと考える。

（表 5）競合する大学の令和 6 年度（2024 年度）の入試状況

	東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科	サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科
募集期間	2024/8/2～2025/3/3	2024/10/21～2025/3/10
入学手続き時期	入試ごとに定められる	2025/2/27～2025/3/27

出典：各大学公式ホームページを参考に本学部にて調査

2.3 学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」は在籍年次により授業料が異なり、1～2 年次の授業料は 380,000 円、3～4 年次の授業料は 180,000 円、4 年間在籍した際の学生納付金は 1,274,000 円である。一方の「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」は、1 単位あたり 22,000 円の単価設定となっており、4 年間在籍して卒業要件となる 124 単位を取得した場合の学生納付金は 2,940,000 円である。

本学部の学生納付金は、入学金 30,000 円、年間授業料 250,000 円、4 年間在籍した際の学生納付金の合計は 1,254,000 円であり、「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」とほぼ同水準となっている（表 6）。

いずれの大学と比較しても本学部の学生納付金のほうが廉価であり、入学希望者の経済的事情を考慮した場合の優位性は担保されている。また修学支援の内容についてはいずれの大

学とも高等教育の修学支援新制度の対象校であり、日本学生支援機構奨学金の利用も可能となっているため、本学部でも同様に利用できるよう準備を進める。その他、独自の制度として 3 社と本学が提携する教育ローンを用意する予定である。独自奨学金制度は現時点で用意する予定はないものの、学生納付金面の優位性があることから学生確保に支障を来すものではないと考えている。

(表 6) 4 年間在籍した際の学生納付金の比較

		(本学) 情報デザイン学部 情報デザイン学科	東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科	サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科
学生納付金合計		1,254,000 円	1,274,000 円	2,940,000 円
学 生 納 付 金 内 訳	入学金	30,000 円	30,000 円	100,000 円
	学籍管理料(4 年)	96,000 円	124,000 円	48,000 円
	システム利用料(4 年)	128,000 円	—	64,000 円
	授業料(4 年)	1,000,000 円	1,120,000 円	2,728,000 円

出典：各大学公式ホームページを参考に本学部にて調査

2.4 就職支援の内容

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」においては、就職支援を行うキャリア・サポートセンターから情報提供し、LMS 上での求人情報掲載や就職ガイダンス・セミナーなどの動画コンテンツを提供している。(東京通信大学公式ホームページより)

「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」でもキャリアコンサルタントや公認心理師・臨床心理士の有資格者が在籍する「キャリアセンター」を設置し、就職・キャリア支援をしている。(サイバー大学公式ホームページより)

本学部においても学内にキャリア支援委員会を配置し、定期的に学生の就職に向けた課題の検討及び、情報共有をするとともに、事務局内に配置する学生課を通じて、1 年から 4 年までの間、定期的に学生の就職意向調査を実施し、その結果に基づいた適切な指導を実施する。また、企業が学校、またその学校に在籍する学生に向け、オンラインで求人情報をダイレクトに送付できるクラウドサービスであるキャリタス UC（無料プラン）も導入する。さらには教員を中心に学生の就職先確保と情報収集のために活動する組織を編成し、全国に支社・支店を配置する大企業や地方中堅企業を主なターゲットに置き、就職を希望する学生が就職 100%達成できるよう、企業との関係の強化、学部・学生の特徴を理解した上での求人開拓を実施する。

就職支援においては、専門部署を配置して学生への情報提供や指導をしていく体制を設けている点で、上記 2 大学と大きな相違点はないが、実施においては教員と職員との適切な情報共有、学生フォローの実施による社会的・職業自立に向けた指導及び、体制の構築を目指していく。その上でキャリタス UC を導入することで学生が就職活動を効率的かつ効果的に行えるよう支援し、一人ひとりの状況にあわせたサポートができるような体制を整えていく点が本学部の特長である。

2.5 取得できる資格

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」における資格については、授業で学んだ知識やスキルを活かすことで資格取得を目指せるという位置づけになっている。（東京通信大学公式ホームページより）

「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」においても資格については同様の扱いとしているが、その一方で専門科目を特定の資格を取得する際の申請条件として活用できる資格もある。（サイバー大学公式ホームページより）

本学部においても上記 2 大学と同様、教育課程を修了することによって取得可能な資格は設定しないため、この点において相違点はない。しかし、科目履修と関連性が高い資格については取得を推奨するため、もしそれらの取得を希望する学生がいる場合には、本学部にて準備する株式会社ウイネットが提供する e ラーニング教育サービス「web トレーニング」を提供し、事務局キャリア支援課にて学生を支援していく。このような独自の資格取得サポート体制を設けている点が本学部の特長である。

イ 競合校の入学志願動向等

競合として考える「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」と「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の過去 3 年間の志願状況は【資料 13】のとおりである。

「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」は入学定員を充足しているものの、「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の令和 5 年度（2023 年度）の入学定員充足率は 95.1%であった。これについては「サイバー大学中期目標（2021 年度～2025 年度）に基づく事業計画の進捗状況一点検・評価結果― 2023 年度報告」によると「2022 年 4 月より収容定員を 4,000 人へと変更したが、収容定員を意識した募集活動を行い、厳正な審議を経た入学者選抜を行うことで、2024 年 5 月 1 日時点の在学生数は 4,202 人となり、収容定員充足率は 105.1%となっている。」との報告がなされており、収容定員充足率を適正に保つため、令和 5 年度（2023 年度）の入学定員が未充足であったと考えられる。

なお、一部学問分野が類似する通信制大学として、令和 7 年（2025 年）4 月に ZEN 大学も開設されており、その学生確保状況は【資料 32】のとおりである。入学定員 3,500 人の大規模な通信制大学の新設であったが、4 月・10 月の入学時期の設定に対し、4 月入学ですでに定員の 96.6%を確保している。令和 7 年（2025 年）6 月 23 日現在、10 月入学のための募集を開始している。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

上記記載のとおり「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の令和 5 年度（2023 年度）の入学定員は、収容定員充足率を適正に保つために意図的に調整したものであったと考えられるが、令和 4 年度（2022 年度）の入学者は前年を上回っており、定員充足率は 125.9%となっている。「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」についても、過去 3 年間の平均定員充足率は 150%を超えており、本学部と学校種や学問分野で類似性が高い競合 2 校において、一定の入学者を確保できていると言える。さらに「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」は令和 4 年度（2022 年度）の入学定員より 320 人増の 800 人へ、「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」は、令和 6 年度（2024 年度）の入学定員より

450 人増の 850 人へ入学定員を変更する学則変更をしており、いずれの大学とも長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

そのうえで、「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」とは学費の面で大きな優位性があるため、「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」を志望する層とは異なる層も本学部の入学対象となる。また、「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」とは、学費面の類似性が高く、入学対象となる市場もほぼ同じと考えられるが、前述のとおり一般的な学び直しのニーズが高い分野であること、またすでに IT 業界に携わっている人においてもスキルアップデートのための学び直しのニーズが高いこと、その上で本学部と類似性が高い競合 2 校とも収容定員に超過が生じていることから、本学部がその需要に応えることが可能である。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学部の学生納付金は、入学金 30,000 円、授業料 250,000 円であり、この他に学籍管理料 24,000 円、システム利用料 32,000 円を含め初年度の学生納付金は 336,000 円、4 年間在籍した際の学生納付金の合計は 1,254,000 円となっている。

学生納付金の設定については、本学が私立大学であることから、大学の経営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を重視し、完成年度での収支の均衡を基本として、本学部の人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づき設定している。その上で、地方に住む高校生やあらゆる生活環境や社会環境の社会人であっても入学しやすい金額設定とした。さらに同分野の通信教育課程学部として後発となることを踏まえ、競合校と想定する「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」の学生納付金とはほぼ同水準としており、「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」の学生納付金よりも低い金額設定としている。これにより、これまで経済的な理由により学びを断念していた人に対しても学びやすい環境を提供できる。よって本学部の学生納付金は上記競合 2 校と比較しても学生確保に支障を来すものではないと判断している。

③先行事例分析

先行事例の該当は無い。

④学生確保に関するアンケート調査

本学部を設置するにあたり、学生確保の見通しが客観的に担保できているかを確認するため、第三者機関の協力を得て、開設年度に入学対象の令和 6 年度（2024 年度）時点での高校 2 年生を対象にアンケート調査を実施した【資料 19】。本法人は新潟県に所在しており、日頃から新潟県内及び近隣の都道府県の高等学校との関係性構築を図っているため優先的に依頼をした。また新規開拓を念頭に、通信制をはじめ周辺エリアの高等学校も対象とした【資料 20】。また、本学部が高校生だけではなく、学び直しを目的とする社会人までを入学対象としていることから、WEB モニタ調査を活用して社会人へもアンケート調査を実施した【資料 21】。その他に、本学部への資料請求者やオンライン大学説明会参加者にもアンケート調査を実施した【資料 22】。高校生対象アンケート調査（大学保有リスト調査・高校留置調査）では、本学部の設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、設置場所、アクセス、学生納付金、競合する大学・

学部・学科の名称を記載したリーフレット【資料 29】も同時に配布し、社会人対象アンケート調査（大学保有リスト調査・オンライン大学説明会調査・社会人 WEB モニタ調査）及び高校生対象アンケート調査（オンライン大学説明会調査）では、同様のリーフレットを画面で閲覧できるようにした。概要は以下（表 7）（表 8）のとおり。

（表 7）高校生対象アンケート調査概要

調査方法	大学保有リスト調査	オンライン大学説明会調査	高校留置調査
	資料請求者に対し、DM で調査を依頼し、WEB 画面にて回答	オンライン大学説明会への参加者に対し、情報デザイン学部情報デザイン学科に関する説明を行ったうえで、WEB 画面にて回答	調査対象校に事前に調査協力を依頼し、応諾を得た対象校へ調査票・リーフレットを送付、ホームルームなどで配布・回収
調査対象	大学への資料請求者のうち、高校 2 年生	オンライン大学説明会に参加した高校 2 年生	情報デザイン学部情報デザイン学科への進学が想定される高校 2 年生
調査期間	2024 年 12 月～2025 年 2 月	2024 年 12 月～2025 年 2 月	2024 年 12 月
有効回答数	145 件 ※重複回答を除く	26 件 ※重複回答を除く	9,088 件 ※重複回答を除く

（表 8）社会人対象アンケート調査概要

調査方法	大学保有リスト調査	オンライン大学説明会調査	社会人 WEB モニタ調査
	資料請求者に対し、DM で調査を依頼し、WEB 画面にて回答	オンライン大学説明会への参加者に対し、情報デザイン学部情報デザイン学科に関する説明を行ったうえで、WEB 画面にて回答	一般のインターネットパネルを利用した調査
調査対象	大学への資料請求者のうち、社会人	オンライン大学説明会に参加した社会人	20～59 歳の高校卒業以上の学生・社会人
調査期間	2024 年 12 月～2025 年 2 月	2024 年 12 月～2025 年 2 月	2024 年 12 月
有効回答数 スクリーニング調査 本調査	190 件 146 件 ※本調査は重複回答を除く	20 件 17 件 ※本調査は重複回答を除く	486,838 件 240,725 件 ※本調査は重複回答を除く
調査機関	株式会社アンド・ディ		
報告書作成	株式会社リクルート、株式会社アンド・ディ		

結果については、リーフレットを読んだうえで本学部を「第一志望として受験」し、合格した場合「入学する」と回答した高校生は 64 人、社会人は 913 人で合計 977 人となり、入学定員の 800 人に対して約 1.2 倍の「第一志望×入学したい」の意向を確認した【資料 23】。これは、「卒業後の進路」「進学を希望する場合の大学等の設置者」「入学希望時期（社会人のみ）」「興味のある学問分野」において本学部が該当する選択肢に合致する回答をクロス集計した数値である。

上記において本学部が該当する選択肢は、「大学進学」「私立」「工学・その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）」とな

り、その条件に合致した回答者が本学部を「第一志望として受験」し、合格した場合に「入学する」と回答した**高校生の人数は 64 人**であった。**社会人の場合には、**この他に本学部への入学を希望する時期を問う設問を追加し、これを開設年度である「2026 年度」と回答した人数をクロス集計した結果**913 人**であった。

(表9) 高校生へのアンケート調査結果

※表中の%はすべて「有効回答数(合計)」に対する%

有効回答者数 (合計)	Q1 卒業後の進路 うち	Q2 進学希望の 大学設置者 うち	Q3 興味のある 学問分野 うち	Q4 新設組織の 受験希望有無 うち	Q5 合格した場合の 入学希望有無 うち
9,259名	大学等進学希望 5,267名 (56.9%)	私立希望 4,366名 (47.2%)	【工学】その他 (情報学、情報 デザイン学、デー タサイエンス学、 情報システムデ ザイン学、コン ピュータ情報学 など) を選択 583名 (6.3%)	第一志望として 受験する 67名 (0.7%)	入学する 64名 (0.7%)
					志望順位が上位の他の志望 校が不合格の場合に入学する 2名 (0.0%)
					入学しない
				第二志望として 受験する 67名 (0.7%)	入学する 16名 (0.2%)
					志望順位が上位の他の志望 校が不合格の場合に入学する 48名 (0.5%)
					入学しない
				第三志望以降と して受験する 150名 (1.6%)	入学する 4名 (0.0%)
					志望順位が上位の他の志望 校が不合格の場合に入学する 142名 (1.5%)
					入学しない
				受験しない	▼
クロス集計の結果					
入学見込数					
第一志望受験×入学する					
64名					
第二志望以下受験×上位の志望校が不合格の場合に入学する					
190名					

(表 10) 社会人へのアンケート調査結果

※表中の%はすべて「有効回答数(合計)」に対する%

回答者数 (合計)	SC8 大学入学資格 あり うち	SC9×SC10 スキルアップ・ 資格取得のため の学習経験 または意向あり うち	Q1 オンライン学習 での大学等進 学希望 うち	Q2 進学希望の 大学設置者 うち	Q3 興味のある 学問分野 うち	Q4 新設組織の 受験希望有無 うち	Q5 合格した場合 の入学希望有 無 うち	Q6 入学希望年度
487,048名	大学入学資格あり 410,463名 (84.3%)	スキルアップ・資格取得のための学習経験または意向あり 240,451名 (49.4%)	オンライン学習での大学等進学希望 78,244名 (16.1%)	私立希望 62,630名 (12.9%)	【工学】その他 (情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など) を選択 10,127名 (2.1%)	第一志望として 受験する 2,551名 (0.5%)	入学する 1,989名 (0.4%)	2026年入学希望 913名 (0.2%)
								2027年以降入学希望 1,076名 (0.2%)
							志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する 505名 (0.1%)	2026年入学希望 116名 (0.0%)
								2027年以降入学希望 389名 (0.1%)
						第二志望として 受験する 2,006名 (0.4%)	入学しない	
							入学する 495名 (0.1%)	2026年入学希望 136名 (0.0%)
								2027年以降入学希望 359名 (0.1%)
							志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する 1,435名 (0.3%)	2026年入学希望 241名 (0.0%)
								2027年以降入学希望 1,194名 (0.2%)
						第三志望以降と して受験する 2,084名 (0.4%)	入学しない	
							入学する 145名 (0.0%)	2026年入学希望 26名 (0.0%)
								2027年以降入学希望 119名 (0.0%)
							志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する 1,812名 (0.4%)	2026年入学希望 197名 (0.0%)
								2027年以降入学希望 1,615名 (0.3%)
						受験しない		

▼
クロス集計の結果

入学見込数

913名

438名

第一志望受験×入学する ※2026年

第二志望以下受験×上位の志望校が不合格の場合に入学する ※2026年

これを踏まえて見込まれる入学者数の内訳は以下のとおりであり、学生を確保する見通しは十分にあると考えている。

- ①高等学校を卒業してすぐ入学する者 64 人
- ②学び直しやスキルアップを行う全国の社会人 913 人

また、3 年次編入学についても同様に 3 年次編入学資格をもつ社会人を対象に、2028 年度から受け入れを計画していることを明示し、インターネットによる 3 年次編入学アンケート調査を実施した【資料 24】。

調査（法人保有リストに対する WEB 調査・社会人 WEB 調査）にあたっては、本学部の設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、設置場所、アクセス、学生納付金、競合する大学・学部・学科の名称を記載したリーフレット画像を画面で閲覧できるようにして調査を実施した【資料 30】。

（表 11）3 年次編入学アンケート調査概要

調査方法	法人保有リストに対する WEB 調査	社会人 WEB 調査
	法人の保有するリストを用いたインターネット調査	一般のインターネットパネルを利用した調査
調査対象	法人の保有するリスト	20～59 歳の高校卒業以上の学生・社会人
調査期間	2024 年 12 月～2025 年 2 月	2024 年 12 月～2025 年 1 月
有効回答数 スクリーニング調査 本調査	385 件 304 件 ※本調査は重複回答を除く	67,503 件 23,196 件 ※本調査は重複回答を除く
調査機関	株式会社アンド・ディ	
報告書作成	株式会社リクルート、株式会社アンド・ディ	

結果については「卒業後の進路」「進学を希望する場合の大学等の設置者」「興味のある学問分野」において本学部に該当する選択肢に合致する回答をクロス集計したところ、「第一志望として受験」し、合格した場合に「入学する」とした人数は 277 人となり、3 年次編入学定員 200 人を上回る結果となった【資料 25】。

(表 12) 3 年次編入学のアンケート調査結果

※表中の%はすべて「有効回答数(合計)」に対する%

有効回答者数 (合計)	SC8 大学編入学資 格あり うち	SC9×SC10 スキルアップ・ 資格取得のため の学習経験 または意向あり うち	Q1 オンライン学習 での大学等進 学希望 うち	Q2 進学希望の 大学設置者 うち	Q3 興味のある 学問分野 うち	Q4 新設組織の 受験希望有無 うち	Q5 合格した場合 の入学希望有 無 うち
67,888名	編入学資格あり 46,835名 (69.0%)	スキルアップ・資 格取得のための 学習経験または 意向あり 25,381名 (37.4%)	オンライン学習 での大学等進学 希望 8,784名 (12.9%)	私立希望 7,196名 (10.6%)	【工学】その他 (情報学、情報 デザイン学、デー タサイエンス学、 情報システムデ ザイン学、コン ピュータ情報学 など) を選択 1,364名 (2.0%)	第一志望として 受験する 373名 (0.5%)	入学する 277名 (0.4%)
							志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する 84名 (0.1%)
							入学しない
						第二志望として 受験する 233名 (0.3%)	入学する 52名 (0.1%)
							志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する 171名 (0.3%)
							入学しない
						第三志望以降と して受験する 299名 (0.4%)	入学する 19名 (0.0%)
							志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する 245名 (0.4%)
							入学しない
						受験しない	

▼
クロス集計の結果

入学見込数

277名

416名

第一志望受験×入学する

第二志望以下受験×上位の志望校が不合格の場合に入学する

以上のアンケート調査結果から、入学定員 800 人に対して 977 人、3 年次編入学定員 200 人に対して 277 人の入学意向が確認され、いずれの入学定員も上回る結果を得られた。

さらに継続的に学生を確保できる見通しとして、社会人の令和 9 年度（2027 年度）以降（開設年度の翌年度以降）の入学意向についても集計した。その集計結果は（表 10-1）のとおりである。

本学部が該当する選択肢に合致する回答をクロス集計した上で、「本学部を第一志望として受験」し、合格した場合に「入学する」とした社会人が、入学を希望する時期を「2027 年度」とした人数は 517 人であった。さらに「第二志望として受験」し、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」とした人数は 916 人であった。合計 1,433 人である。**令和 10 年度（2028 年度）についても同様のクロス集計によって合計で 735 人、令和 11 年度（2029 年度）以降は合計 1,717 人の回答を得ている。**これらは最大値であるため、数年先の見通しについては回答者の経年による環境、心境の変化等により増減することは想定しているが、開設以降の入学意向者の概数を把握することを目的にアンケートを実施済である。この結果から社会人については開設後複数年にわたり段階的に入学希望層が数百人単位でいることも把握している。

(表 10-1) 社会人へのアンケート調査結果 (2027 年度以降の入学意向の集計結果を追加)

※表中の%はすべて「有効回答数(合計)」に対する%

回答者数 (合計)	SC8 大学入学資格 あり うち	SC9×SC10 スキルアップ・ 資格取得のため の学習経験 または意向あり うち	Q1 オンライン学習 での大学等進 学希望 うち	Q2 進学希望の 大学設置者 うち	Q3 興味のある 学問分野 うち	Q4 新設組織の 受験希望有無 うち	Q5 合格した場合の 入学希望有無 うち	Q6 入学希望年度
487,048名	大学入学資格 あり 410,463名 (84.3%)	スキルアップ・ 資格取得のため の学習経験 または意向あり 240,451名 (49.4%)	オンライン学習 での大学等進 学希望 78,244名 (16.1%)	私立希望 62,630名 (12.9%)	【工学】その他 (情報学、情報 デザイン学、 データサイエ ンス学、情報シ ステムデザイン 学、コンピュー タ情報学など) を選択 10,127名 (2.1%)	第一志望として 受験する 2,551名 (0.5%)	入学する 1,989名 (0.4%)	2026年入学希望 913名 (0.2%)
								2027年入学希望 517名 (0.1%)
								2028年入学希望 199名 (0.0%)
								それ以降 360名 (0.1%)
							志望順位が上 位の他の志望 校が不合格の 505名 (0.1%)	2026年入学希望 116名 (0.0%)
								2027年入学希望 190名 (0.0%)
								2028年入学希望 51名 (0.0%)
								それ以降 148名 (0.0%)
							入学しない	
						第二志望として 受験する 2,006名 (0.4%)	入学する 495名 (0.1%)	2026年入学希望 136名 (0.0%)
								2027年入学希望 203名 (0.0%)
								2028年入学希望 64名 (0.0%)
								それ以降 92名 (0.0%)
							志望順位が上 位の他の志望 校が不合格の 1,435名 (0.3%)	2026年入学希望 241名 (0.0%)
								2027年入学希望 568名 (0.1%)
								2028年入学希望 240名 (0.0%)
								それ以降 386名 (0.1%)
							入学しない	
						第三志望以降 として受験する 2,084名 (0.4%)	入学する 145名 (0.0%)	2026年入学希望 26名 (0.0%)
								2027年入学希望 39名 (0.0%)
								2028年入学希望 22名 (0.0%)
								それ以降 58名 (0.0%)
							志望順位が上 位の他の志望 校が不合格の 1,812名 (0.4%)	2026年入学希望 197名 (0.0%)
								2027年入学希望 348名 (0.1%)
								2028年入学希望 296名 (0.1%)
								それ以降 971名 (0.2%)
							入学しない	
						▼ クロス集計の結果		
						入学見込数		
第一志望受験×入学する						2026年	913名	
						2027年	517名	
						2028年	199名	
						それ以降	360名	
第二志望以下受験×上位の志望校が不合格の場合に入学する						2026年	438名	
						2027年	916名	
						2028年	536名	
						それ以降	1,357名	

⑤人材需要に関するアンケート調査等

「(2) 人材需要の社会的な動向等 ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析」で前述したとおり、本学部で養成する人材が、昨今の経済・産業活動を取り巻く環境の変化により育成が急務であることを踏まえ、さらに客観的な視点から社会的な人材需要の見通しがあることの根拠を明示するため、新卒採用の対象となる学生の就職先として想定される企業に対して第三者機関の協力を得てインターネットによるアンケート調査を行った。この調査にあたり、本学部の設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、設置場所、アクセス、学生納付金、競合する大学・学部・学科の名称を記載したリーフレットをインターネットアンケート内で参照できるようにした【資料 26】。調査の概要は以下（表 13）のとおりである。

（表 13）人材需要に関するアンケート調査の概要

調査方法	調査対象の企業・団体の人事・採用担当者にアンケート URL を送付し、WEB にて回収
調査対象	卒業生の就職先として想定される企業 ※主として情報・通信・システム関連の企業
調査期間	2024 年 12 月 16 日（月）～2025 年 2 月 7 日（金）
配布数	1,614 社
有効回答数	312 社（有効回答率 19.3%）
調査機関	株式会社アンド・ディ
報告書作成	株式会社リクルート、株式会社アンド・ディ

1. 本学部卒業生の採用意向について

この結果、312 社の企業より採用動向や採用したい人材像についての回答を得ることができ、そのうち「大学新卒採用予定あり」と回答したのは 299 社（95.8%）であった。さらに本学部の卒業生の採用意向について尋ねたところ「採用対象になる」と回答したのは 169 社（54.2%）であり、具体的に本学部の卒業生について何人程度の採用が見込めるかについて尋ねたところ、採用意向人数の合計は 357 人という結果であった（「10～19 人」のように幅がある回答の場合に中間の 14 人として計算）【資料 27】。これは、本学部で想定している新卒で就職を希望する人数以上の需要があることとなる。

(表 14) 卒業生の採用意向人数の合計

業種別	回答企業数	大学新卒採用 意向あり	採用対象になる	採用意向人数合計
情報・通信業	259	247	154	338
卸売・小売業	14	14	3	2
その他サービス	6	6	1	0
製造業	4	3	2	8
放送、新聞、出版業	3	3	1	1
学校・学習支援業	3	3	2	3
金融業、保険業	2	2	1	1
保健医療・社会福祉業	2	2	0	0
建設業	1	1	0	0
その他	18	18	5	4
全体	312	299	169	357

その理由として、前述の学生確保に関するアンケート調査においても本学部で見込まれる入学人数の内訳で、高等学校を卒業してすぐ入学する者は 64 人という結果であったことから、本学部を卒業後、新卒採用で就職を希望する学生はおおよそ、高等学校を卒業してすぐ入学する者 70 人程度と考えているためである。

有職社会人学生については、現職内での異動や昇進、転職等の様々な選択肢があり一様にそれらの需要を確認することは困難であるが、先行事例において以下の傾向を把握している。競合校として想定するサイバー大学の在学生データ、卒業生データ【資料 28】によると在学生の約半数が社会人学生であるが、2023 年度 3 月卒業生 456 人のうち、就職・転職を選択したのは 140 人で 30.7%であった。このことからサイバー大学よりも社会人学生の割合が多いことが想定される本学部では、新卒採用や転職を希望しない学生（現職での職務遂行、異動や昇進が学び直しの目的）がサイバー大学よりも多いと予想している。本学部の入学定員 800 人と 3 年次編入学定員 200 人、合計 1,000 人に対して卒業後就職を希望する人数は多くても 2 割となる 200 人を超えることはないを見通している。そのため、今回のアンケート調査による採用意向人数の合計 357 人は、本学部を卒業後に就職を希望する人数として想定する 200 人以上の人材需要があることとなる。

2. 企業の長期的な人材確保の見通し

アンケートに回答した 312 社に、今後 10 年程度の採用予定人数の見通しを尋ねたところ、(表 15) のとおり「充足できる」と回答した企業は 119 社で約 40%を占め、「どちらかというところ」まで含めると 230 社となり、7 割強の企業が充足できる見通しを示した。一方で「必要な社会人基礎力を持った人材」「必要な専門性を持った人材」の採用の見通しに関しては、「必要な社会人基礎力を持った人材」を「充足できる」と回答した企業は 21.8%の 68 社、「必要な専門性を持った人材」については「充足できる」と回答した企業は 28 社しかなく、確実に充足できるとしている企業は 1 割に満たない。大学新卒者について、長期的に一定の採用見通しはあるものの、その中で「必要な社会人基礎力を持った人材」「必要な専門性

を持った人材」を確保することの見通しの難しさが窺える。

(表 15) 今後 10 年程度の量的・質的な人材確保の見通し

今後 10 年後の採用の見通しについて		充足できる	どちらかという とできる	どちらか という とできない	充足できない	充足できる・計	充足できない・計
a.採用予定人数 (n=312)	N	119	111	56	26	230	82
	%	38.1	35.6	17.9	8.3	73.7	226.3
b.必要な社会人基礎力を持った人材 (n=312)	N	68	174	52	18	242	70
	%	21.8	55.8	16.7	5.8	77.6	22.4
c.必要な専門性を持った人材 (n=312)	N	28	185	74	25	213	99
	%	9.0	59.3	23.7	8.0	68.3	31.7

3. 企業が求めている人材像

上記のとおり質の面での人材確保の難易度が見て取れたが、それではどのような人材を採用したいのか、本学部での養成人材や修得を目指す専門知識・技術を備える人材についての採用意向を調査した。(表 16) のとおり本学部の卒業生を「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」と回答した 289 社が回答したのは、「IT 業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材」がもっとも高く 63.0%、次いで「企業戦略の立案の際、コミュニケーション能力と広い視野でリーダーシップを発揮する人材」が 59.5%という結果だった。

さらに本学部の卒業生が「採用対象になる」と回答した 169 社においては、「おそらく採用対象になる」等と回答した他の企業層と比較しても全体的にスコアが高かったが、中でも目立ったのは「IT 業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材」の採用意向であり、72.8%ともっとも高かった。本学部では、情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる人材の養成を目指しているが、企業からその必要性は高く、中でも幅広い活躍が期待できるジェネリックスキルが求められる度合いが高いことがわかった。

(表 16) どのような人材を採用したいか

どのような能力（ジェネリックスキル）を修得した人材を採用したいか		AI,サイバーセキュリティなど最先端の情報技術、知識を学んだ人材	IT 業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材	情報技術を活用してまだ世にない、新しい価値を生み出す人材	情報技術の知識とスキルを経営やマーケティングに応用できる人材	デザイン思考を用いて課題を解決し、まだ世にない新しい価値を生み出す人材	企業戦略の立案の際、コミュニケーション能力と広い視野でリーダーシップを発揮する人材	あてはまるものはない
卒業生の採用意向あり・計	N 289	135	182	122	118	127	172	5
	%	46.7	63.0	42.2	40.8	43.9	59.5	1.7
採用対象になる	N 169	89	123	73	68	77	101	3
	%	52.7	72.8	43.2	40.2	45.6	59.8	1.8
おそらく採用対象になる	N 86	33	45	37	31	33	49	1
	%	38.4	52.3	43.0	36.0	38.4	57.0	1.2
採用対象として検討してもよい	N 34	13	14	12	19	17	22	1
	%	38.2	41.2	35.3	55.9	50.0	64.7	2.9

※表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は 100%にならない場合がある

4. 従業員に対する本学部への進学推奨について

本学部卒業生が「採用対象になる」と回答した 169 社に対して、自社従業員に対して本学部への進学を勧めたいか尋ねたところ、「とても勧めたいと思う」と回答した企業は約半数となる 81 社で、「まあ勧めたいと思う」と回答した企業とあわせると 90%近い 150 社に上った。このことから本学部の開設や人材養成については、リスクリングの視点でも企業から期待があることがわかる。

(表 17) 自社従業員に対する新設組織への進学推奨意向

		推奨意向あり・計		推奨意向なし・計		推奨意向あり・計	推奨意向なし・計
		とても勧めたいと思う	まあ勧めたいと思う	あまり勧めたいと思わない	まったく勧めたいと思わない		
卒業生の採用意向あり・計	N 289	91	156	38	4	247	42
	%	31.5	54.0	13.1	1.4	85.5	14.5
採用対象になる	N 169	81	69	17	2	150	19
	%	47.9	40.8	10.1	1.2	88.8	11.2
おそらく採用対象になる	N 86	8	69	8	1	77	9
	%	9.3	80.2	9.3	1.2	89.5	10.5
採用対象として検討してもよい	N 34	2	18	13	1	20	14
	%	5.9	52.9	38.2	2.9	58.8	41.2

5. 採用予定者に対して予定している採用方法や形態

本学部卒業生が「採用対象になる」と回答した 169 社に対して、予定している採用方法や形態について尋ねたところ、「採用対象になる」と回答した企業では「現住所での勤務が継続できるようテレワーク等の柔軟な働き方を尊重する」が 41.4% ともっとも高く、次いで「部門別、コース別採用等で、専門性を早期に発揮できる活躍を期待する」が 40.2% であった。本学部の入学意向者の居住エリアは全国に点在しており、新卒採用において現住所にしながら全国の企業の新卒採用枠にアクセスできる可能性を確認できた。このことは、学生募集上の PR ポイントであると同時に、本学部ではいずれに居住しようとも、地域や地域経済へ貢献するマインドをもった IT 人材を輩出することが重要であると考えており、企業側にもその需要がある見通しをもつことができた。

(4) 新設組織の定員設定の理由

昨今の経済・産業活動において、IT とビジネスが密接に関連しており、IT や情報ツールの活用によって、ビジネス戦略をより効果的に実現できるようになっている。企業規模や業種を問わず、すべての企業においてデジタル化の推進は喫緊の課題であり【資料 4】、このような中、これからの日本社会においては情報技術を活用して新たな価値創造ができる人材が求められている。一方で情報技術に関連する人材育成においては、IT 人材不足が顕在化しており、人材の確保が急務となっている【資料 3】。一方、社会人の学び直しニーズは潜在的に約 3,220 万人程度いると民間調査にて発表されており、政府による「リスクリリング」の政策推進も検討されている。このような社会的背景もある中で、デジタル技術や情報通信技術の知識を学ぶ必要性やスキルアップデータのニーズは今後も拡大されと考えている。

そのために本学部は通信教育課程として、18 歳に限らず幅広い年齢層、社会人（有職者）を含め

幅広い人材を対象に教育機会を広めるため、「時間的・空間的に制約のない学び」によって、通学の必要無く、居住地を変えることなく、デジタル技術や情報通信技術の知識を体系的に学べる教育機会を提供する。これらは増加する大学通信教育課程への進学ニーズの中で、ビジネスや工学に関係する科目を配置し、卒業に必要な単位を通学することなくメディア授業により修得し、学問分野や学び方において他大学と差別化を図るものである。

近年、通信制大学に通う学生数は増加傾向であり、通信制大学および通信教育課程の学部設置も増加傾向にある。直近では令和7年（2025年）で、計4,390人の入学定員が認可され、ZEN大学、近畿大学で学生募集状況が好調であることが確認できている。令和8年（2026年）にも本学部を含む7校、入学定員2,000人分が認可申請中である。大学通信教育においては、進学需要および大学収容力の供給いずれにおいても増加傾向にあり、しばらくは新たな進学需要を喚起しながらその意欲に応える必要があると認識している。

さらに大学通信教育だけではなく、高等学校教育における通信制課程の生徒数は、令和6年度（2024年度）に290,087人で、前年比109.5%で過去最高と増加し、卒業後の進路においても、令和5年度（2023年度）の通信制高校卒業生数84,450人のうち21.1%にあたる17,917人が大学に進学し過去最高となっていることから、高等学校においてデジタルを活用し、通信教育による自律的な学習習慣を身につけた高校生の受け入れの必要性も生じている。時間の自由度が大きい通信制の教育システムは学業以外の活動を効率よく両立させたい現代の若者の生活スタイルに合致していることや、旧来の経済的な理由、不登校の経験、発達に課題があって通学が困難等の諸事情により通学制の高校教育が受けられない者の学習ニーズは一定数継続することが考えられ、通信教育課程が後期中等教育、高等教育において需要が増加することが予測される。このように、少子化の中でも通信教育のマーケットは多様に拡大をしていると言える。

これらの状況を踏まえ、開設当初は入学者として社会人を多く受け入れる想定ではあるが、時代の変化を予測し、系属校を始めとした通信制高校との高大接続を図りながら、令和10年度（2028年度）以降は若年層（18歳～22歳）の獲得にも注力し、その入学者割合を増やしていく計画である。

また、令和8年度（2026年度）から専修学校（専門学校）の履修要件が時間制から単位制へ移行される（学校教育法の改正）点に着目すると、専修学校（専門学校）と大学において制度的な同等性が確保されるため、学生の移動が容易になる。専門学校生へは、大学においてさらに高度な知識や技術を身につけられるニーズを喚起することが可能ではないかと考え、専修学校（専門学校）における本学部の編入制度を使いこのニーズに応える計画をもっている。

さらには内閣府による「生涯学習に関する世論調査」からも高等教育機関における社会人の学び直しに対する関心は高く、特に仕事に直結する知識習得を目的とする傾向が強まっていることがわかっており、中でも情報技術分野は、IT業務に携わっている有識者のスキルアップデートも含めて学び直しのニーズが高いことから、1年次入学だけではなく、3年次編入学の受け入れでこれに応えられると考えている。

上記のようなニーズがあることを踏まえ、本学部ではWEBと印刷物を使い分けた率的な広報を展開しながら、オンラインとオフラインのメリットを活かした多面的な取り組みにより、高校生と社会人それぞれにアプローチを行う計画である。これらの各種施策に対して設定した各目標をクリアしていくことで、高等学校卒業生の入学者数は100人程度、社会人の入学者数は700人前後獲得できると見込んでいる。本学部と類似する「東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科」と「サイバー大学 IT 総合学部 IT 総合学科」においても、近年、収容定員の超過傾向やそれに伴う定

員増の学則変更等を行っており、いずれも長期的に安定した学生確保が見込まれていると推測できる。また、高等学校卒業者においても、理・工学系分野は他の系統学部に対しても過去5年の志願倍率は高いことから、今後も継続して志願者・志願倍率を維持していく見込みである。本学部は類似する2校と比較して学費面での優位性があることに加え、ビジネスや工学に関係する科目を配置しており、高まる学び直し需要のうち、より工学的なアプローチでITやビジネスを学ぶ層の需要に対応することができる。

これらの見通しが客観的に担保できているかを確認するために、開設年度の入学対象となる高校2年生と社会人にアンケート調査を実施したところ、入学定員800人に対して977人の入学意向回答を得ることができた。同様に3年次編入学に関しても社会人を対象にアンケート調査を実施したところ、3年次編入学定員200人に対して277人の入学意向が確認され、いずれの入学定員も上回る結果を得ている。また、本学部で養成する人材の需要に関するアンケート調査では、採用意向人数の合計357人の結果を得ている。これは入学定員800人と3年次編入学定員200人、合計1,000人に対して本学部が想定する卒業後就職希望者2割となる200人以上である。

以上のように人材需要の社会的な動向や大学通信教育のみならず通信教育市場の拡大と社会人の「学び直し」のデータ、それらを踏まえた通信制高校との高大接続等を含む学生募集戦略等の具体的な取組にもとづく入学者の見込み数、競合校の状況分析を鑑みて、定員を検討した。中長期的な学生確保の見通しと、本学部が養成する人材に対する企業からのニーズについては、進学意向アンケート調査や人材需要に関するアンケート調査を用いて仮説検証した。このように複数の根拠にもとづく重層的な分析を行い、中長期的な学生確保の見通しと、本学部が養成する人材に対する企業からのニーズがあると判断し、入学定員800人、3年次編入学定員200人と設定した。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料 1】令和 3 年度版情報通信白書（第 1 部）〈抜粋〉	2
【資料 2】内閣府の政策「Society5.0 とは」	7
【資料 3】「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（報告書概要版）〈経済産業省 2016 年 6 月〉	8
【資料 4】「IT 人材白書 2020」	9
【資料 5】「IT 人材需給に関する調査」	11
【資料 6】「令和 6 年度学校基本調査結果の概要」	12
【資料 7】「大学進学者数等の将来推計について」	13
【資料 8】生涯学習に関する世論調査（令和 4 年 7 月調査）概要	14
【資料 9】生涯学習に関する世論調査（令和 4 年 7 月調査）概要	15
【資料 10】生涯学習に関する世論調査（平成 30 年 7 月）	16
【資料 11】生涯学習に関する世論調査（令和 4 年 7 月調査）概要	17
【資料 12】デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進に向けた企業と IT 人材の実態調査～概要編	18
【資料 13】大学通信教育課程定員超過状況	19
【資料 14】広報・学生募集スケジュール	21
【資料 15】東京通信大学 設置の趣旨等を記載した書類 基本計画書	22
【資料 16】サイバー大学 基本計画書	29
【資料 17】公益財団法人 私立大学通信教育協会「大学通信教育の現状（データ集）」	32
【資料 18】サイバー大学の入学状況	36
【資料 19】高校留置調査_調査票・リーフレット	37
【資料 20】高校留置調査協力校高校一覧	41
【資料 21】社会人 WEB モニタ調査_調査票	42
【資料 22】資料請求・大学説明会参加者調査_調査票	48
【資料 23】学生確保アンケート調査_1 年次_報告書	55
【資料 24】3 年次編入学調査_調査票	67
【資料 25】学生確保アンケート調査_3 年次_報告書	74
【資料 26】人材需要アンケート（企業調査）_調査票	84
【資料 27】人材需要アンケート調査_報告書	89
【資料 28】サイバー大学公式ホームページより在校生データ_卒業生データ	100
【資料 29】学生確保アンケート調査_（高校生・社会人対象）_リーフレット	101
【資料 30】学生確保 3 年次編入学アンケート調査_リーフレット	103
【資料 31】学校教育法の改正に伴う専修学校制度における主な制度改正事項（案）について	105
【資料 32】ZEN 大学 学生確保状況	106

序章 我が国におけるデジタル化の歩み

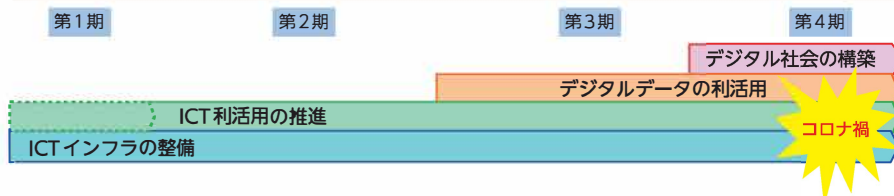
1990年代後半より、パソコン、インターネットや携帯電話などの情報通信技術が急速に普及する中、我が国では、2000年に情報通信技術戦略本部が設置され、IT基本法が制定されて以降、e-Japan戦略を始めとした様々な国家戦略等を掲げ、インフラ整備、ICT利活用やデータ利活用の推進等を通じて、デジタル化を推進してきた。

序章においては、このように大きな転換が生じた2000年頃以降について、我が国のデジタル化政策の歴史、社会におけるデジタル化の進展状況や国際指標での位置付けを概観するとともに、我が国のデジタル化が後れた原因を考察する^{*1}。

1 我が国デジタル化政策の歴史

デジタル化と一口に言っても、私たちの生活・社会や企業、政府などの様々な分野においてデジタル化が進められてきている。様々な観点から整理することが可能であるが、ここでは、これまでの国家戦略等における目指す目標や重点的な取組の特徴から、2000年以降から新型コロナウイルス感染症の流行が拡大する2020年頃までをICTインフラの整備を進めた第一期、ICT利活用を推進した第二期、デジタルデータの利活用を推進する第三期、デジタル社会の構築を目指す第四期の4つの時代に区分し、それぞれの経緯を整理する^{*2}（図表0-1-1-1）。

図表0-1-1-1 デジタル化の歴史



（出典）総務省作成

1 第一期：ICTインフラの整備

第一期では、世界的に進展する産業・社会構造の変化（IT革命）に対し、我が国全体として戦略的かつ重点的に取り組むための体制整備及び国家戦略の策定が進められた。この国家戦略では、世界最先端のIT国家となることを目指し、様々な具体的な目標が掲げられたが、特にICTインフラの整備が進められた時期である。ICT化を進めるためには、ICTインフラにより、インターネットを利用できる環境を整備することが不可欠であり、そのための取組が進められた。

ア e-Japan戦略（2001年）

1990年代後半、コンピュータや通信技術の急速な発展により社会、経済の大きな変革が世界規

^{*1} これまでの情報通信白書でも、デジタル化に関する経緯についてまとめている。例えば、平成27年版情報通信白書では通信自由化以降の30年のICTの進化について、令和元年版情報通信白書ではデジタル経済の進化について、令和2年版情報通信白書では移動通信システムの進化について、整理している。

^{*2} 各期における特徴を基に4つの区分に分類しているが、取り上げた特徴以外の取組も行っていることには留意が必要である。例えばICTインフラ整備については、第一期だけではなく、それ以降も通信インフラの高速化・大容量化や無線化などに対応し、引き続き必要な整備が行われている。

2 第二期：ICT利活用の推進

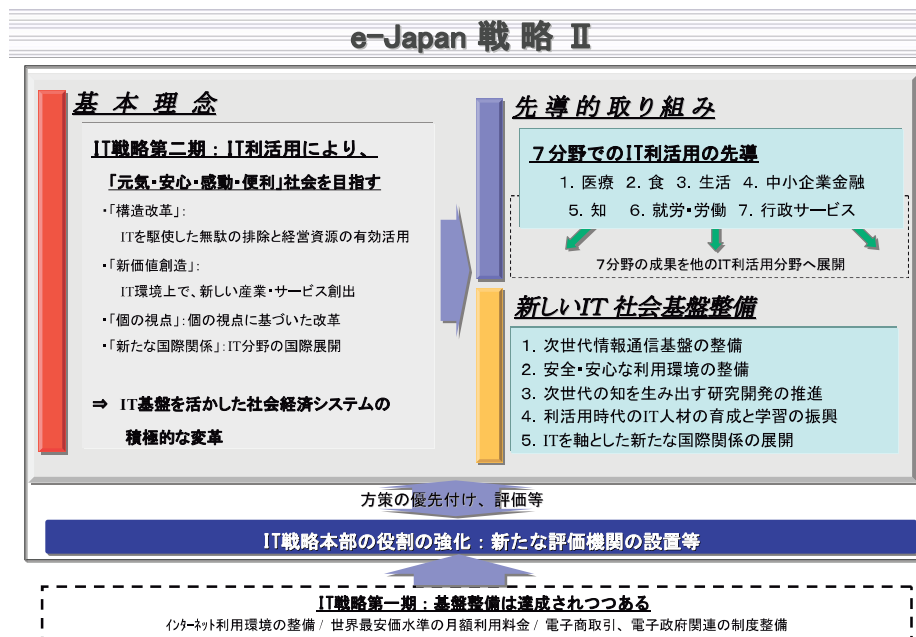
ICTは、利用できる環境を整備するだけでなく、いかに利活用するかが重要である。第一期のICTインフラ整備が当初計画よりも前倒しで進んできたことを受け、第二期においては、ICTインフラの整備だけでなく、ICT利活用促進に向けた多くの取組が行われた。

ア e-Japan戦略Ⅱ（2003年）

e-Japan戦略の公表から2年が経過し、「高速インターネットを3,000万世帯に、超高速インターネットを1,000万世帯に」という「利用可能環境整備」の目標は達成され、電子商取引や電子政府関連の制度的な基盤整備も進んできたことを受け、「IT戦略の第一期の目標は達成されつつある」として、2003年7月、IT戦略本部により「e-Japan戦略Ⅱ」*4が公開された（図表0-1-1-3）。

e-Japan戦略Ⅱでは、IT利活用の推進を前面に打ち出し、第一期で整備されたIT基盤を活かして社会・経済システムを積極的に変革し、21世紀にふさわしい「社会全体が元気で、安心して生活でき、新たな感動を享受できる、これまで以上に便利な社会」を目指すことを基本理念としている。その基本理念を実現するために、国民にとって身近で重要な7つの分野（1.医療、2.食、3.生活、4.中小企業金融、5.知、6.就労・労働、7.行政サービス）において先導的取組を進め、その成果を他の分野に展開することが掲げられている。

図表0-1-1-3 e-Japan戦略Ⅱの概要



（出典）IT戦略本部（2003）「e-Japan戦略Ⅱ（概要）」

イ IT新改革戦略（2006年）

（ア）IT新改革戦略

「e-Japan戦略」の5年間で、我が国はブロードバンドインフラの整備と利用の広がり、高機能の携帯電話の普及、電子商取引の環境整備とその飛躍的拡大等について世界最先端を実現した一方で、

*4 IT戦略本部（2003.7.2）「e-Japan戦略Ⅱ」（<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/030702ejapan.pdf>）

【資料 1】

るための、非連続な飛躍を支える重点戦略（3本柱）に絞り込んだ戦略と位置付けられ、「戦略の実施に当たっては、これまでの関連政策が効果を上げていない原因を徹底的に追求し、IT戦略以外の各政策との連携、関係府省間の連携、政府と自治体との連携、政府と民間との連携等を具体的に進め、新たな国民主権の社会が早期に確立されるよう、国を挙げて、強力に推進する。」と記された。

3本柱と定められたのは「国民本位の電子行政の実現」、「地域の絆の再生」、「新市場の創出と国際展開」であった。

3 第三期：デジタルデータの利活用

2010年代半ばから、ネットワークインフラの技術進歩や民間事業者における組織内データ利用やデータ連携の進展、さらにIoTの爆発的な普及といった環境の変化に伴い、データ大流通時代が到来したと言われている。このような背景の下、第三期では、公共データやパーソナルデータなどの様々なデジタルデータの利活用を進め、全ての国民がIT利活用やデータ利活用を意識せず、その便益を享受し、真に豊かさを実感できる社会である「官民データ利活用社会」の構築に向けた取組が行われた。

ア 世界最先端IT国家創造宣言（2013年）

2013年6月に、「失われた20年」とも言われる長期の景気低迷からの経済再生、少子高齢化の進展と人口減少、東日本大震災からの復興と大規模自然災害への対策、原発事故後のエネルギーの安定供給と経済性の確保、高度成長期に集中的に投資した社会インフラの老朽化などの様々な課題を克服し、持続的な成長と発展を可能にする成長戦略の柱として、「世界最先端IT国家創造宣言」*10が閣議決定された。

世界最先端IT国家創造宣言では、「今後、5年程度の期間（2020年まで）に、世界最高水準のIT利活用社会の実現とその成果を国際展開すること」を目標とし、「1. 革新的な新産業・新サービスの創出と全産業の成長を促進する社会の実現」「2. 健康で安心して快適に生活できる、世界一安全で災害に強い社会の実現」「3. 公共サービスがワンストップで誰でもどこでもいつでも受けられる社会の実現」の3項目を柱として必要な取組を定めた。

このうち、デジタルデータに関しては、「1. 革新的な新産業・新サービス」の中で、公共データの民間開放（オープンデータ）を推進するとともに、ビッグデータを活用した新事業・新サービスの創出を促進する上で利用価値が高いと期待される「パーソナルデータ」の利用を促進するための環境整備等を図るとしている。

イ 官民データ活用推進基本法等

（ア）官民データ活用推進基本法（2016年）

「データ大流通時代」の到来を背景として、2016年12月、官民データ活用の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進し、国民が安全で安心して暮らせる社会及び快適な生活環境の実現に寄与することを目的として、官民データ活用推進基本法が公布・施行された。官民データ活用推進基本法では、政府及び都道府県による「官民データ活用推進基本計画」の策定が求められ、市町村の計画策定は努力義務とされた。また、推進体制として、IT総合戦略本部の下に、内閣総理大臣を

*10 「世界最先端IT国家創造宣言」（2013.6.14閣議決定）（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/pdf/it_kokkasouzousengen.pdf）

【資料 1】

会に向けた電子行政の目指す方向性を示す「デジタル・ガバメント推進方針」^{*12}が策定された。

本方針では、これからの行政サービスに求められるあり方として「デジタル技術の活用による利用者中心サービス」及び「官民協働によるイノベーションの創出」の2点を掲げ、「デジタル技術を徹底活用した利用者中心の行政サービス改革」、「官民協働を実現するプラットフォーム」、「価値を生み出すITガバナンス」の3つを柱とした取組を進めていくことを示した。

(エ) デジタル・ガバメント実行計画 (2018年)

2017年12月には、政府の取組を地方や民間まで広めるデジタル・ガバメントの実現に向け、ITを活用した社会システムの抜本改革の実現を目指す「IT新戦略の策定に向けた基本方針」^{*13}を策定するとともに、2018年1月には、デジタル・ガバメント推進方針を具体化した「デジタル・ガバメント実行計画」^{*14}の初版が策定された。

その後、2019年12月に施行されたデジタル手続法^{*15}に基づく情報通信技術を利用して行われる手続等に係る国の行政機関等の情報システムの整備に関する計画と一体のものとして、2019年12月20日に改定版^{*16}が閣議決定された。

なお、本計画はその後の取組の進展や、新型コロナウイルス感染症への対応で明らかになった課題を踏まえ、2020年12月に再度改定されている。

各府省は、デジタル・ガバメント実行計画に基づき中長期計画を策定し、少なくとも年1回、各種施策の進捗状況を踏まえた各府省中長期計画の見直し・拡充を行うことが求められている。

4 第四期：デジタル社会の構築

第三期までは、世界最先端の「IT国家」の創造が目標として掲げられていたが、2018年には世界最先端の「デジタル国家」の創造が掲げられている。

その背景としては、我が国はICTインフラの整備は世界的に見ても進んでいるものの、電子政府やオープンデータではまだまだ進展する余地が大きく、IT・データ利活用の面で官・民共同で取り組むべき課題は多いことがある。

そのため、「世界最先端デジタル国家」の創造に向け、政府自らが徹底的にデジタル化に取り組む行政サービスのデジタル改革を起点として、地方公共団体や民間部門を通じた「ITを活用した社会システムの抜本改革」を断行し、サイバーセキュリティの確保を図りつつ、ITを最大限活用した簡素で効率的な社会システムを構築し、国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できる社会を実現することを目指している。

ア 世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画 (2018年)

2018年6月に「世界最先端デジタル国家」の創造に向け、政府の行政サービスを起点として、紙中心のこれまでの行政の在り方等を含めた大改革を断行することで、国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できる社会を実現することを目指した「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推

*12 IT総合戦略本部 官民データ活用推進戦略会議 (2017.5.30)「デジタル・ガバメント推進方針」(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20170530/suisinhosin.pdf>)

*13 IT総合戦略本部 官民データ活用推進戦略会議 (2017.12.22)「IT新戦略の策定に向けた基本方針」(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20171222/siryou.pdf>)

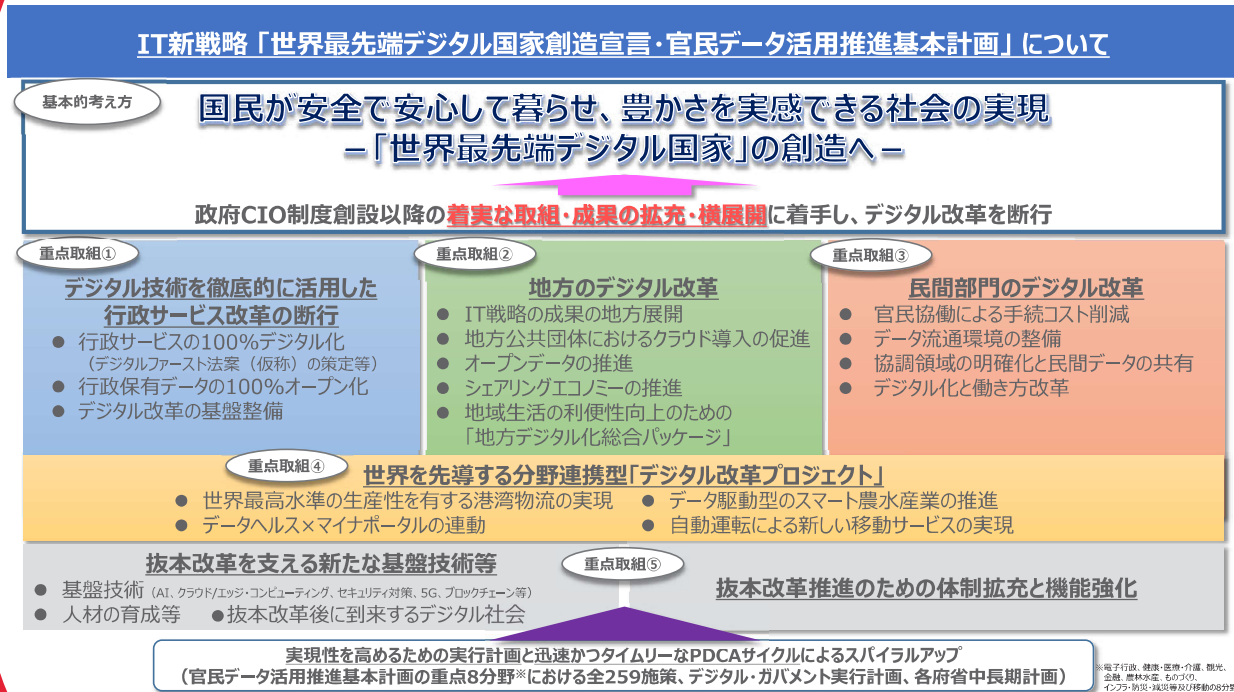
*14 eガバメント閣僚会議決定 (2018.1.16初版)「デジタル・ガバメント実行計画」(https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/densei_jikkoukeikaku.pdf)

*15 「情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律」(平成十四年法律第五十一号)

*16 「デジタル・ガバメント実行計画」(2019.12.20改定(閣議決定))(https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/densei_jikkoukeikaku_20191220.pdf)

進基本計画」が策定された。同計画では、①デジタル技術を徹底的に活用した行政サービス改革の断行、②地方のデジタル改革、③民間部門のデジタル改革を重点目標として掲げている（図表0-1-1-7）。

図表0-1-1-7 世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画の概要



（出典）IT総合戦略室（2018）「『世界最先端デジタル国家』に向けて」

上記のような経緯でデジタル化が進められていたが、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、コロナ禍で急速にデジタル活用が進められたものの、我が国のデジタル化が十分に進んでいないことが浮き彫りとなった。そのような実態を踏まえ、社会全体のデジタル活用に向けた様々な取組が進められている（詳細は第2章で詳述）。

2 我が国社会のデジタル化の進展

これまで我が国のデジタル化政策の歴史を見てきたが、デジタル化といっても、活用される技術やサービス等の普及状況は、時代や分野によって大きく異なる。ここでは、我が国社会のデジタル化に関する技術やサービス等の普及状況等を基に、我が国社会のデジタル化の進展について概観する。

1 通信インフラ

デジタル化に当たっては、その基盤となる通信インフラが必要不可欠であるが、通信インフラはどのように普及していったのであろうか。

ア 固定通信

インターネットが普及し始めた1990年代後半の通信環境は、電話回線によるダイヤル接続が主流であったが、通信速度が十分ではない、従量課金型である、インターネット接続中は通話を行えないといった課題があった。

そのような中、1999年にADSLの商用が開始されたが、通話と同時にインターネット接続が可能

【資料2】『内閣府の政策「Society5.0」とは』



Society 5.0のしくみ

Society 5.0は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより実現します。これまでの情報社会（Society 4.0）では、人がサイバー空間に存在するクラウドサービス（データベース）にインターネットを經由してアクセスして、情報やデータを手入れし、分析を行ってきました。

Society 5.0では、フィジカル空間のセンサーからの膨大な情報がサイバー空間に集積されます。サイバー空間では、このビッグデータを人工知能（AI）が解析し、その解析結果がフィジカル空間の人間に様々な形でフィードバックされます。今までの情報社会では、人間が情報を解析することで価値が生まれてきました。Society 5.0では、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることになります。



IT人材の「不足規模」に関する推計結果

【資料 3】「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（報告書概要）〈経済産業省2016年6月〉

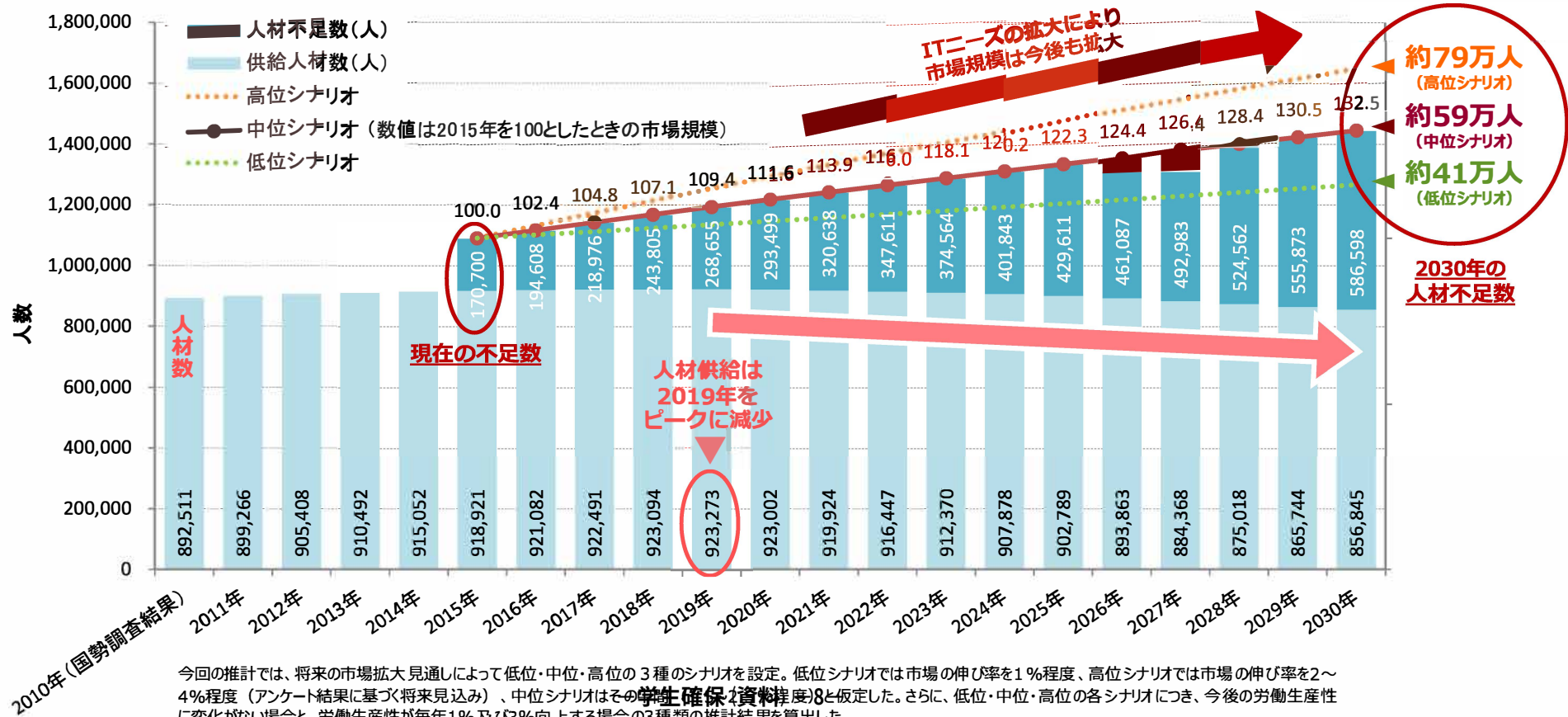
- IT関連産業の産業人口に関する将来推計（マクロ推計）の一環として、人材の不足状況や今後の見通しに関するアンケート調査結果に基づき、現在及び将来の人材不足数に関する推計も実施。
- マクロ推計によれば、**2015年時点で約17万人のIT人材が不足している**という結果になった。さらに、前頁で示されたとおり、今後IT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材不足は今後ますます深刻化し、**2030年には、（中位シナリオの場合で）約59万人程度まで人材の不足規模が拡大する**との推計結果が得られた。

2

今後のIT人材
の不足規模

IT人材の不足規模に関する予測

- 2015年の人材不足規模：約17万人
 - 2030年の人材不足規模：約59万人（中位シナリオ）
- ⇒ IT人材不足は、今後ますます深刻化



刊行にあたって

グローバル化やデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速するなか、世界は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行という新たな試練に向き合うこととなりました。対人接触や移動が制限される状況下で社会や経済活動のあり方は変容し、個人のみならず組織においても、迅速かつ抜本的な対応が求められています。

このような非常事態において、デジタル化の推進を加速する必要はさらに高まっています。我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されている Society 5.0 では、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させることで、経済発展と社会的課題の解決を両立するとしています。デジタル化を進めることは、ビジネス変革や競争力の向上に加え、物質の自由な往来が阻害される状況下での事業継続にも大きな意味を持つこととなります。企業規模や業種を問わず、すべての企業においてデジタル化の推進は喫緊の課題であるとの認識を新たにし、取り組んで行く必要があります。

IT人材白書では、「IT人材白書2016」より毎年企業のデジタル化の状況やデジタル化に携わる人材について、現状を把握し課題を明確化するために調査を行ってきました。今回の「IT人材白書2020」では、毎年調査を実施しているIT企業およびユーザー企業におけるIT人材の“量”や“質”に対する過不足感や、IT業務の内製化について、従業員規模により注目すべき変化がみられました。

また、Society 5.0の実現に向けた取り組みの一環として、IPAでは社会全体でのデータ連携・共有の基盤づくりを担う「デジタルアーキテクチャ・デザインセンター」（Digital Architecture Design Center: DADC）を設立しました。産官学が連携して透明性・公平性・中立性が確保されたアーキテクチャ設計を行い、活動を通して日本の産業におけるアーキテクチャ設計力の強化を目指すものです。これらの取り組みが、Society 5.0の実現の一助となることを期待します。

「IT人材白書」に係る調査は、その前身となる「IT人材市場動向予備調査」から数えて13年目を迎え、「IT人材白書」の発刊は今回で12冊目となりました。本白書を取りまとめるにあたって、調査への協力企業、関係者の皆様やご支援を賜ったすべての皆様方に対し、心から敬意を表すとともに、厚くお礼申し上げます。

2020年8月

IPA（独立行政法人情報処理推進機構）

理事長 富田 達夫

第1章 「IT人材白書2020」のメッセージとポイント

社会の変容が進み、デジタルトランスフォーメーション（DX）の一刻も早い取り組みが求められている。この動向を踏まえ、「IT人材白書2020」では、重要性の高い領域である“DXに対応する人材”や“DX推進に向けた企業動向”と“変化が加速するIT人材を取り巻く環境”という観点から、企業やIT人材の現状を把握するべく調査をした。ここでは「IT人材白書2020」のメッセージと、今年度の調査結果のポイントを述べる。

1節 「IT人材白書2020」のメッセージ

1. サブタイトルに込めた意図

今こそDXを加速せよ ～選ばれる“企業”、選べる“人”になる～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行という非常事態をきっかけに日本社会のデジタル化の立ち遅れが浮き彫りになった。“デジタルトランスフォーメーション（DX）”に本気で取り組まなければ、新型コロナウイルス感染症流行収束後の世界への対応だけでなく、国際競争力の低下はもちろん、少子高齢化など山積する国内の問題にも対処できない。

まさに今、すべての企業は、一刻も早くDXに取り組まざるを得ないときを迎えている。組織、業務、企業文化・風土等を抜本的に変革し、デジタル技術を活用した顧客価値創出やビジネスモデル革新を実現することで、新たな成長・競争力強化に繋げていくことが求められている。

本白書の「IT人材動向調査」は、新型コロナウイルス感染症の拡大以前に実施されたため、感染症拡大による影響はほぼ現れていないことに留意する必要がある。しかし、“企業”の従業員規模やIT業務の内製化状況により、IT人材の“量”、“質”の過不足感、IT業務に携わる範囲などの調査項目で変化が見え始めた。

また、DXの課題として危機感の浸透や変革に対する社内の意識改革、社内人材の育成が挙げられた。一方、IT人材自身については、“新たなスキルを活かせる場がない”、“勉強の必要性を感じない”といった意識があることが明らかになった。

企業におけるDXの推進は、企業の経営者の手腕に託され、ビジネス（経営、事業）にITがますます不可欠となり、そこにはビジネスを動かす“人”が繋がっている。企業は人材を自社に引き付ける魅力を拡充させ、その人材を適材適所に配置し、経営を革新しなければならない。そして、IT人材自身は、新しいスキルを身に付け、その力を発揮できる企業を見つける。

今こそ、“企業”と“人”が新たな日常を迎えるための関係を構築しはじめる時である。

第1章 事業概要

1. 背景と目的

(1) 背景

経済産業省が平成28年6月に公表した「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査」¹によれば、IT需要が今後拡大する一方で、我が国の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれ、IT人材の需要と供給の差（需給ギャップ）²は、需要が供給を上回り、2030年には、最大で約79万人に拡大する可能性があるとして試算されている。

IT人材は、我が国のIT産業の産業競争力強化のほか、企業等における高度なIT利活用、デジタルビジネスの進展等を担っている。特にAI（Artificial Intelligence：人工知能）やビッグデータを使いこなし、第4次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できるIT人材の確保が重要となっている。

こうした状況を踏まえ、「未来投資戦略2017」³（平成29年6月9日閣議決定）において、第4次産業革命下で求められる人材の必要性・喫緊性を明確化するため、経済産業省、厚生労働省、文部科学省等が連携してIT人材需給を把握する仕組みを早期に構築することとされた。

(2) 目的

上記を踏まえ、本調査分析では、第4次産業革命に対応したIT人材の需給状況を把握する手法について検討を行うとともに、各種条件のもとでの試算を行い、その試算結果を取りまとめた。

¹ 経済産業省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果を取りまとめました」

<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160610002/20160610002.html>

² 本報告書では、需要と供給の差を需給ギャップと略する場合がある。需給ギャップは、需要が供給を上回る（人材不足）場合と供給が需要を上回る（人材余剰）場合がある。

³ 未来投資戦略2017—Society 5.0の実現に向けた改革—
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf

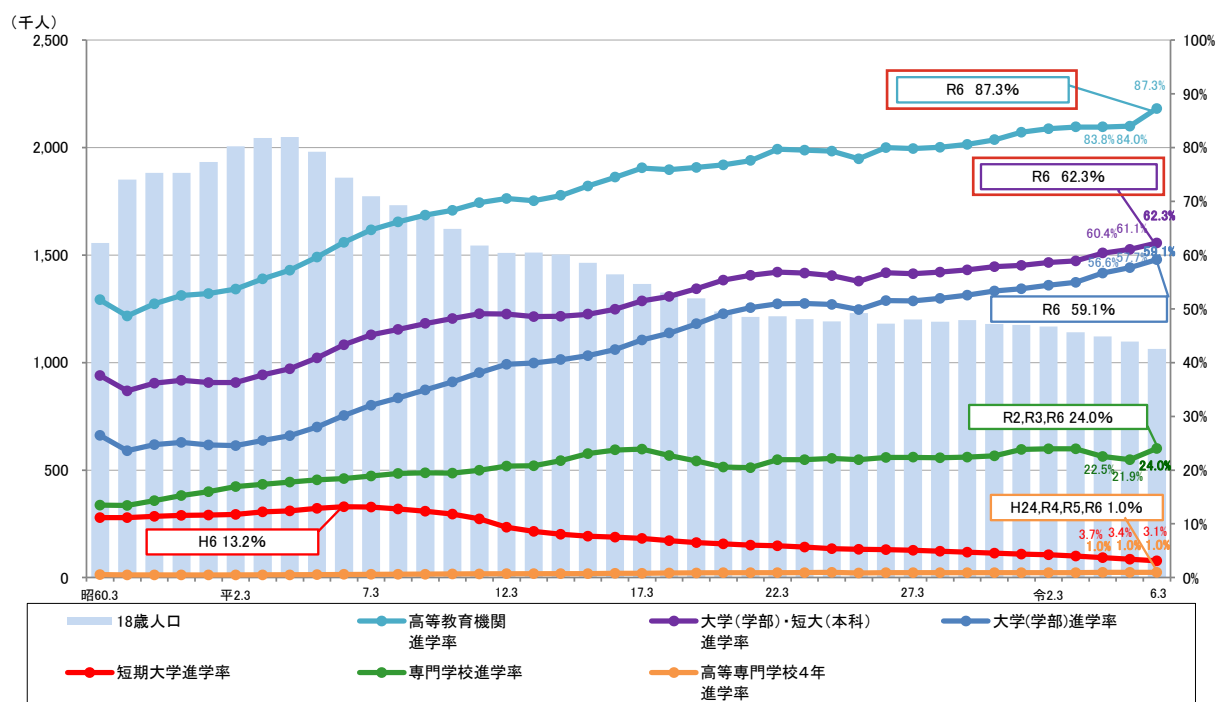
【資料6】文部科学省「令和6年度学校基本調査結果の概要」

Ⅱ. 卒業後の状況

1. 高等学校等卒業者

- 高等教育機関(大学(学部)・短期大学(本科)入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者)への進学率(過年度卒を含む)は87.3%で、前年度より3.3ポイント上昇し、過去最高。
- 大学(学部)・短期大学(本科)進学率(過年度卒を含む)は62.3%で、前年度より1.2ポイント上昇し、過去最高。
大学(学部)進学率(過年度卒を含む)は59.1%で、前年度より1.4ポイント上昇し、過去最高。
専門学校進学率(過年度卒を含む)は24.0%で、前年度より2.1ポイント上昇し、過去最高。

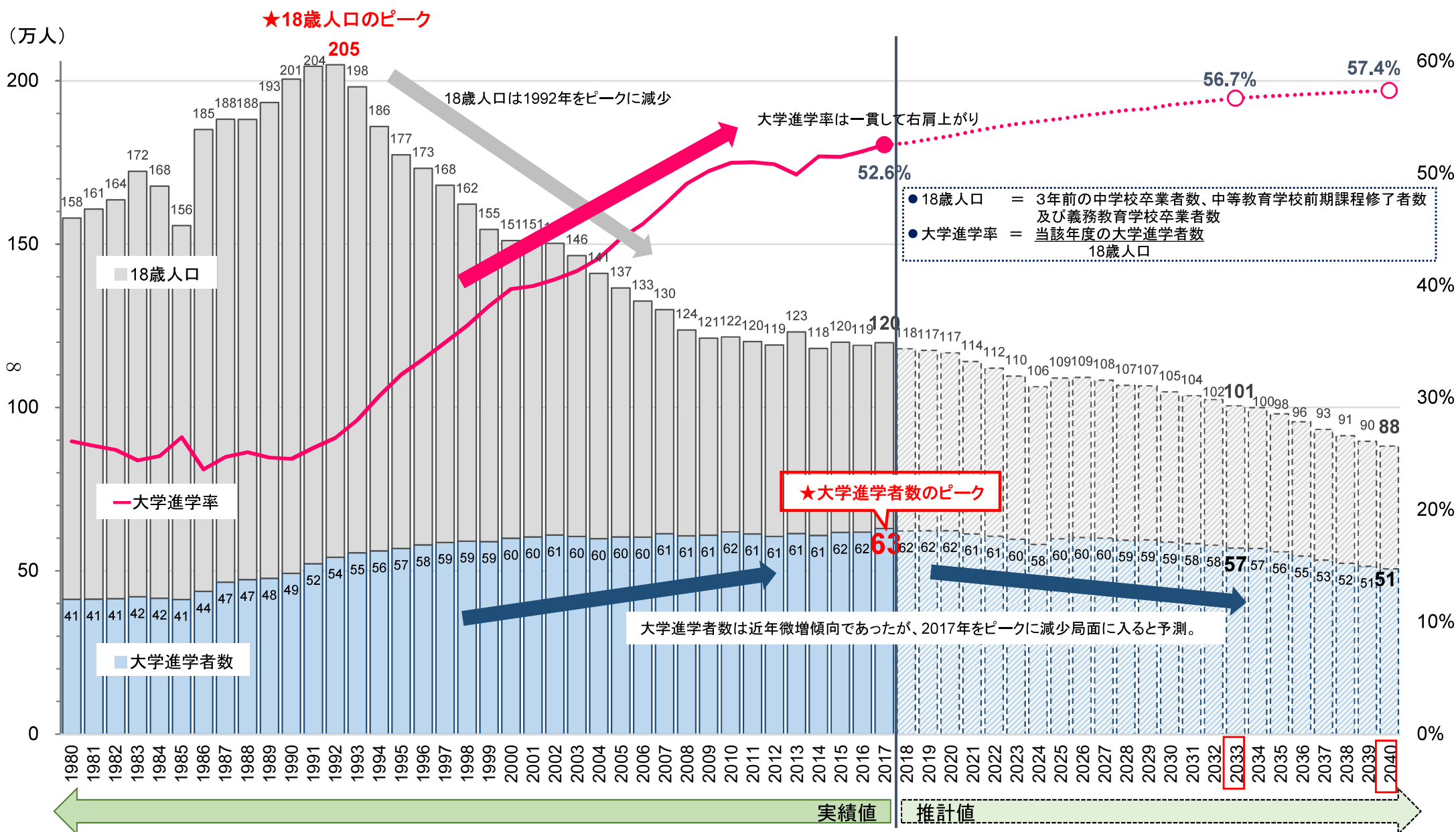
図3 高等教育機関への進学率



- (注)
- 1 高等教育機関進学率 =
$$\frac{\text{大学(学部)・短期大学(本科)入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者}}{\text{18歳人口(3年前の中学校・義務教育学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者)}}$$
 - 2 大学(学部)進学率 =
$$\frac{\text{大学(学部)の入学者}}{\text{18歳人口(3年前の中学校・義務教育学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者)}}$$
 - 3 短期大学・専門学校の進学率は、(注)2 計算式の入学者部分にそれぞれの入学者を当てはめて算出。
高等専門学校4年進学率は、同部分に4年生の学生数を当てはめて算出。
 - 4 □で囲んだ年度は、最高値である。

大学進学者数等の将来推計について

- 18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は一貫して上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成(2034年の都道府県比率で案分)
○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

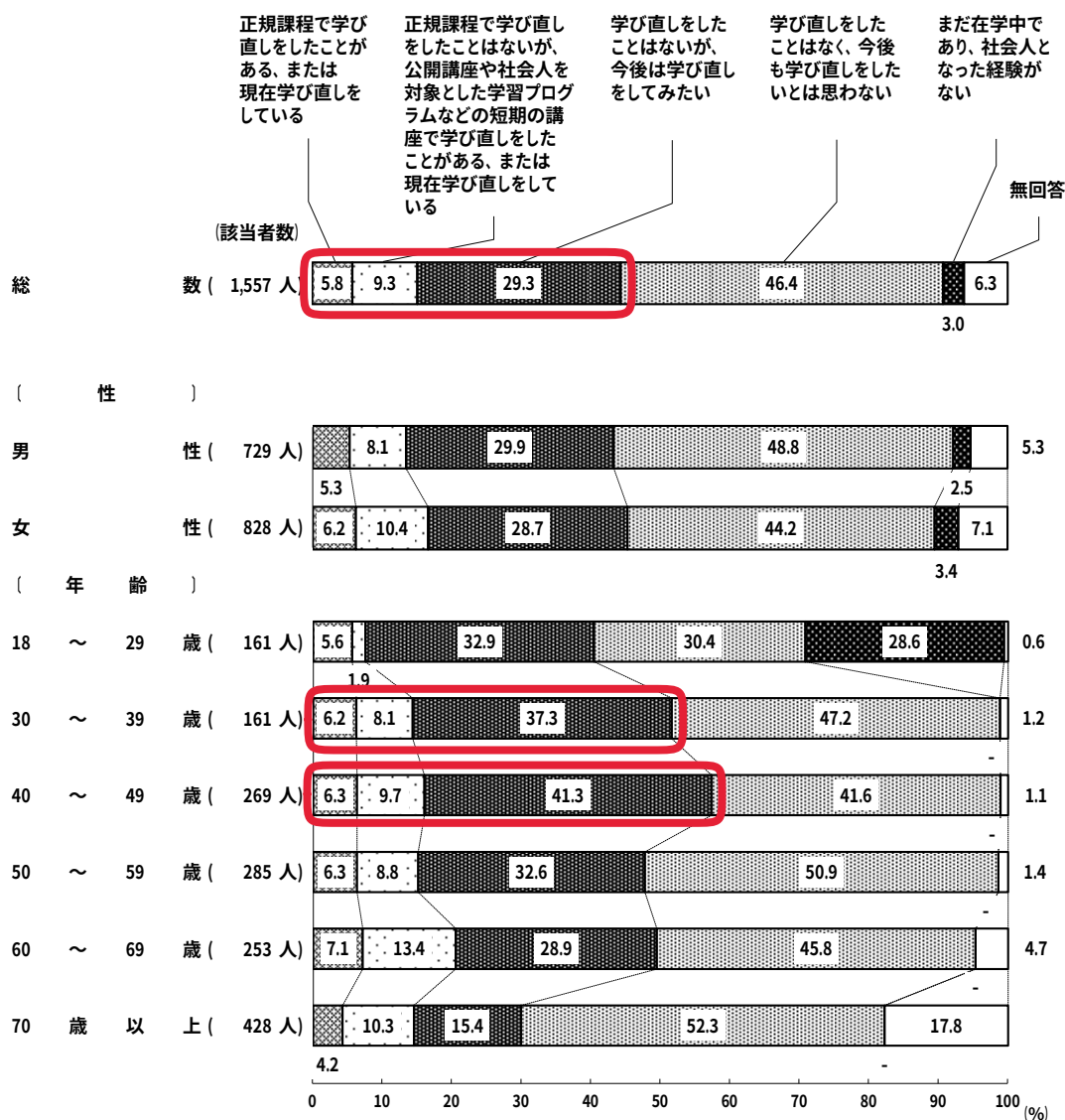
2 大学、大学院、短大、専門学校などの学校における社会人の学び直しについて

（1）社会人となった後の学校における学び直しの状況

問 8．あなたは、学校を出て一度社会人となった後に、大学、大学院、短大、専門学校などの学校において学び直しをしたことがありますか。なお、この調査でいう社会人には主婦・主夫や無職の方も含みます。また、正規課程に限らず公開講座や社会人を対象とした学習プログラムなど、学び直しの形態は問いません。（○は1つ）

令和 4 年 7 月

- ・ 正規課程で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている 5.8%
- ・ 正規課程で学び直しをしたことはないが、公開講座や社会人を対象とした学習プログラムなどの短期の講座で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている 9.3%
- ・ 学び直しをしたことはないが、今後は学び直しをしてみたい 29.3%
- ・ 学び直しをしたことはなく、今後も学び直しをしたいとは思わない 46.4%
- ・ まだ在学中であり、社会人となった経験がない 3.0%



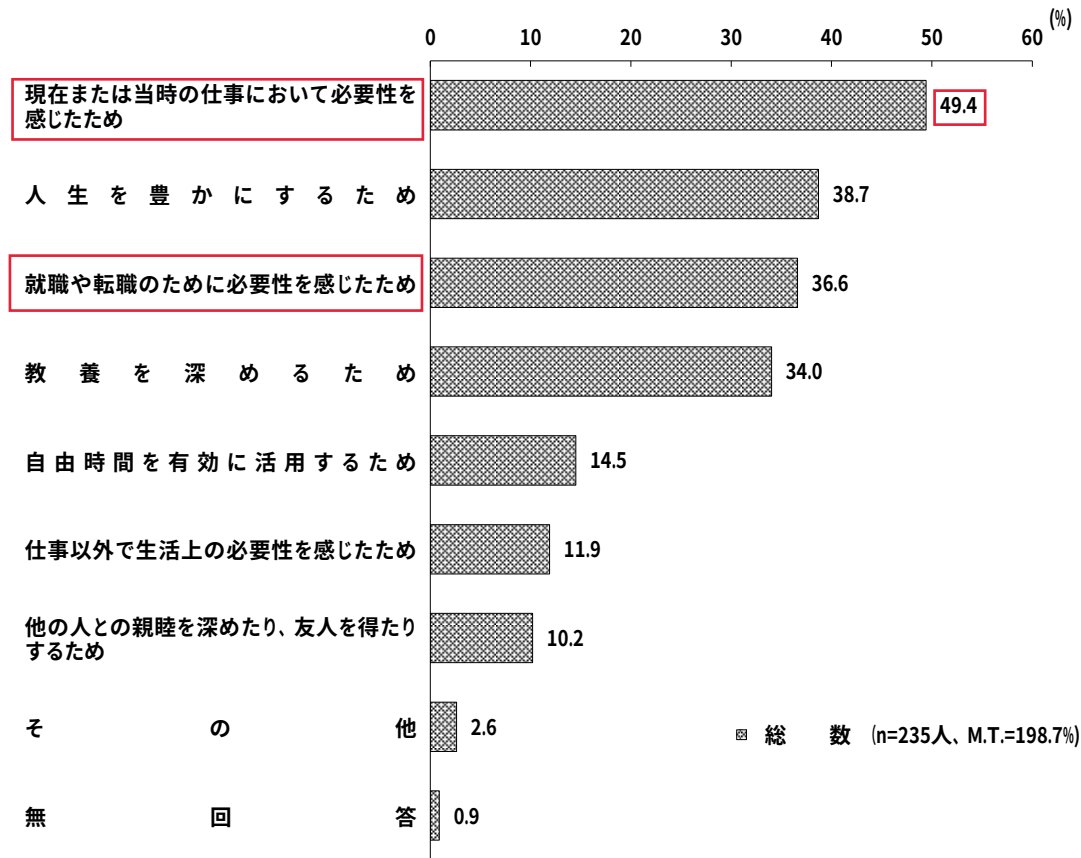
(ア) 社会人となった後の学校における学び直しの理由

(問8で「正規課程で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」、「正規課程で学び直しをしたことはないが、公開講座や社会人を対象とした学習プログラムなどの短期の講座で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」と答えた者に)
問9. 社会人となった後に大学、大学院、短大、専門学校などの学校で学び直した理由、あるいは学び直している理由は何ですか。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和4年7月

- ・ 現在または当時の仕事において必要性を感じたため 49.4%
- ・ 人生を豊かにするため 38.7%
- ・ 就職や転職のために必要性を感じたため 36.6%
- ・ 教養を深めるため 34.0%

学校を出て一度社会人となった後に、学校において「正規課程で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」、「正規課程で学び直しをしたことはないが、公開講座や社会人を対象とした学習プログラムなどの短期の講座で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」と答えた者に、複数回答



【資料10】 内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成30年7月）概要

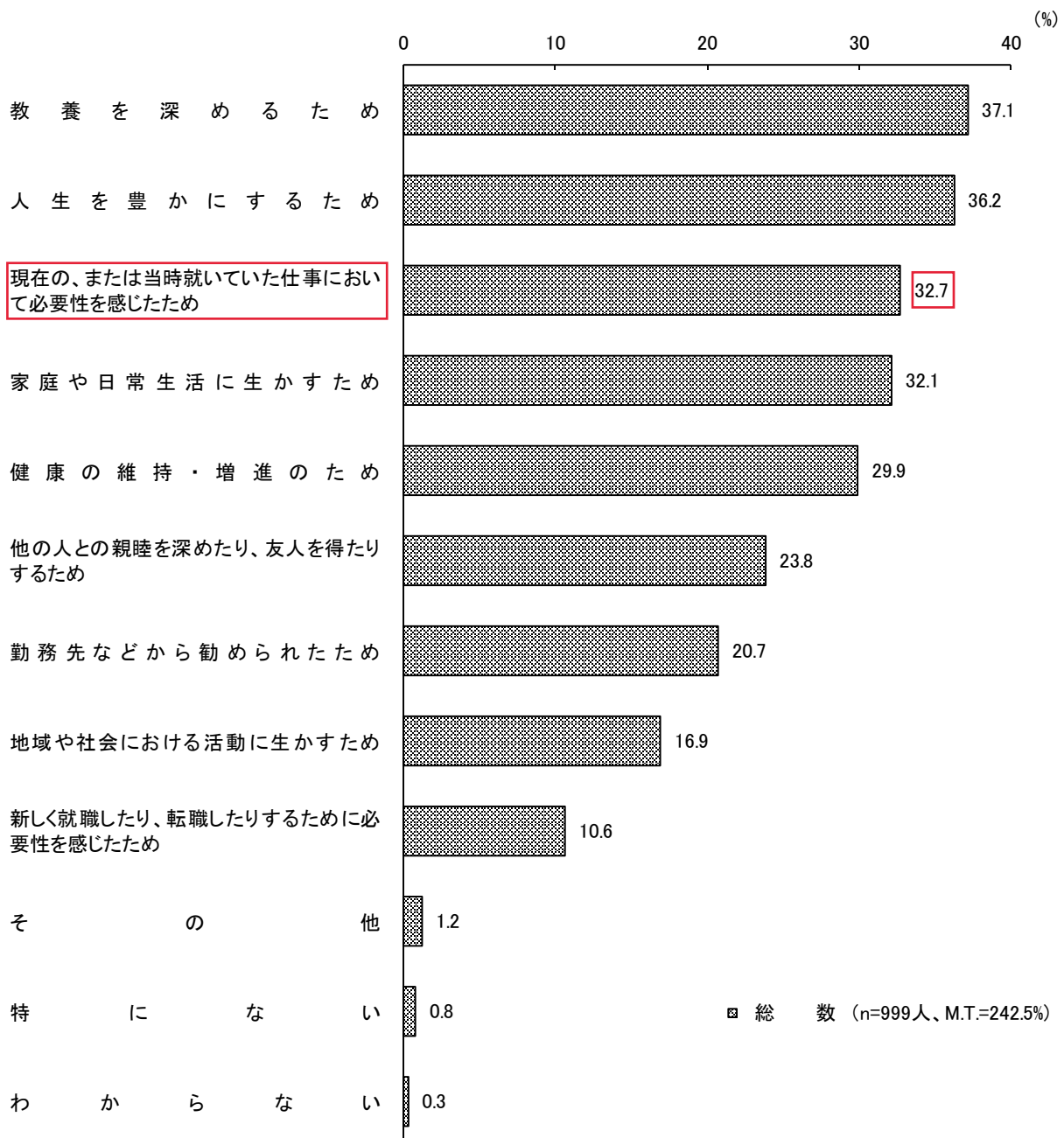
ア 学習をした理由

更問1 （問1で「学習したことがある（小計）」と答えた方（999人）に）
学習した理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位5項目）
平成30年7月

・教養を深めるため	37.1%
・人生を豊かにするため	36.2%
・現在の、または当時就いていた仕事において必要性を感じたため	32.7%
・家庭や日常生活に生かすため	32.1%
・健康の維持・増進のため	29.9%

（この1年間くらいの間に「学習したことがある（小計）」とする者に、複数回答）



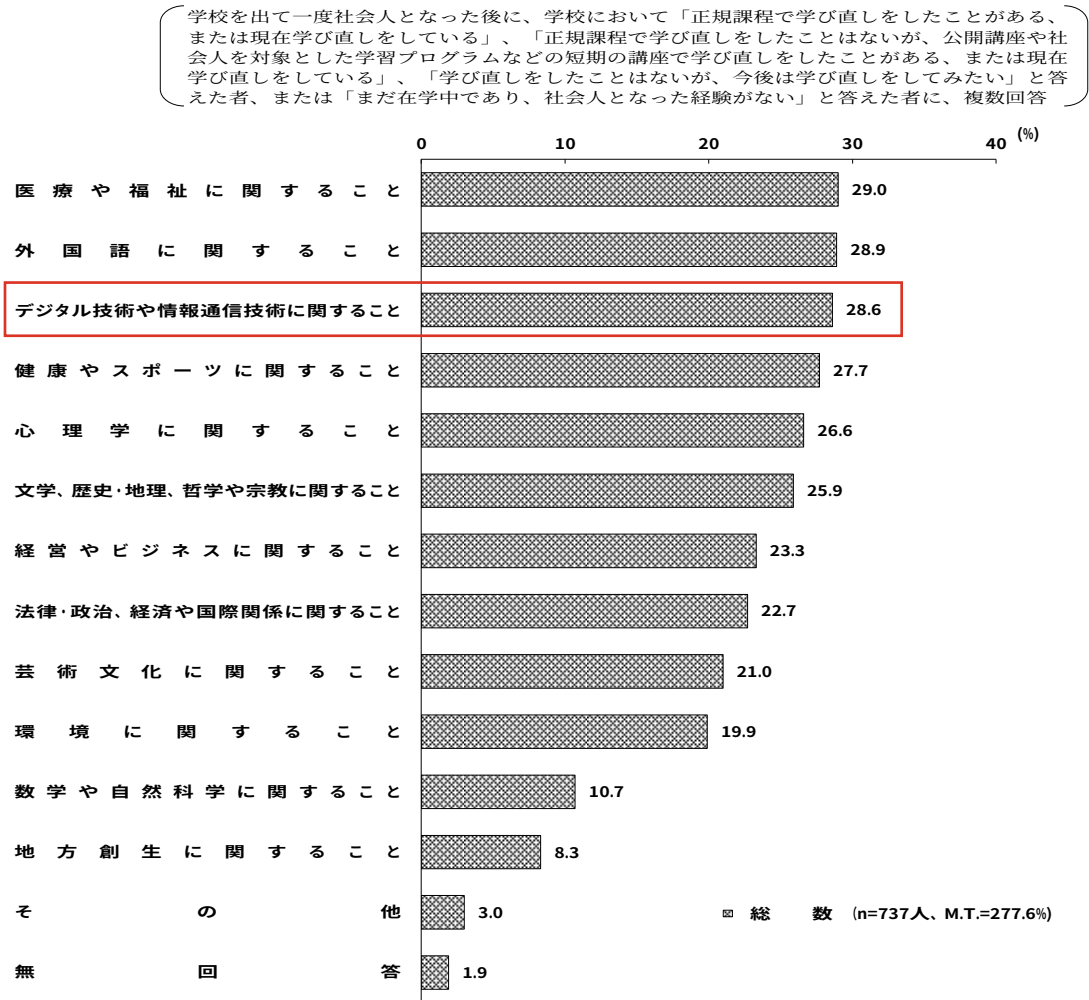
(ウ) 今後社会人として学校で学び直したい内容

(問8で「正規課程で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」、「正規課程で学び直しをしたことはないが、公開講座や社会人を対象とした学習プログラムなどの短期の講座で学び直しをしたことがある、または現在学び直しをしている」、「学び直しをしたことはないが、今後は学び直しをしてみたい」、「まだ在学中であり、社会人となった経験がない」と答えた者に)

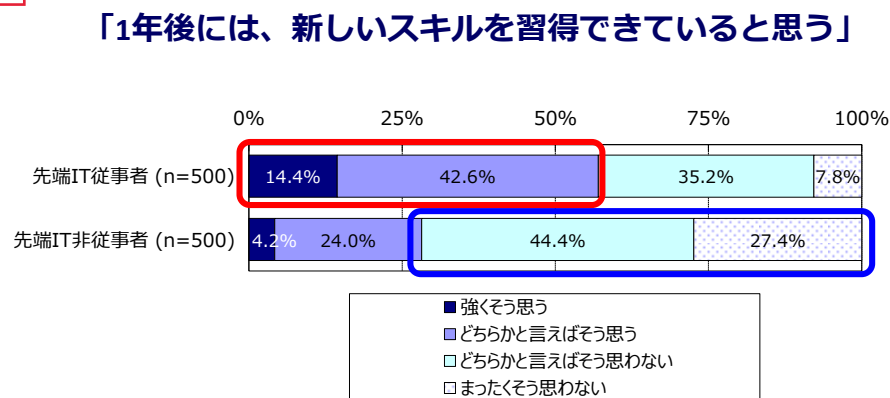
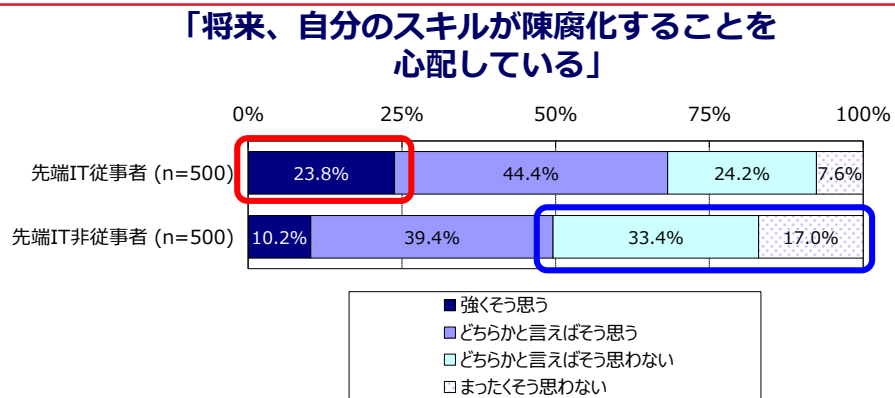
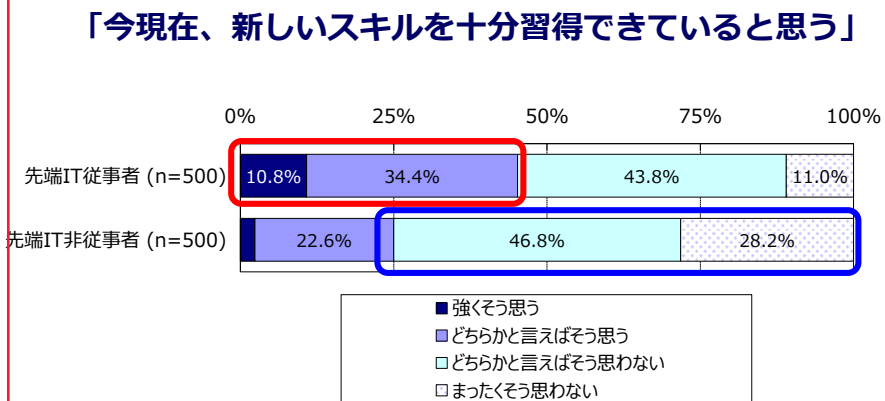
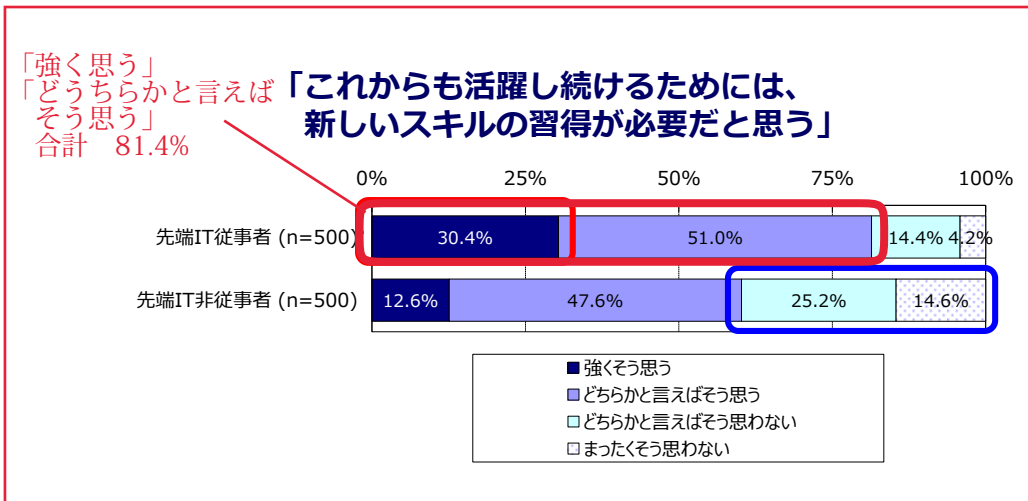
問 11. これから社会人として大学、大学院、短大、専門学校などの学校で学び直す場合、どのようなことを学び直したいと思いますか。在学中の方は、学校を出て社会人となった後、大学、大学院、短大、専門学校などの学校で学び直す場合に読み替えてお答えください。(〇はいくつでも)

(上位 10 項目)
令和 4 年 7 月

・医療や福祉に関すること	29.0%
・外国語に関すること	28.9%
・デジタル技術や情報通信技術に関すること	28.6%
・健康やスポーツに関すること	27.7%
・心理学に関すること	26.6%
・文学、歴史・地理、哲学や宗教に関すること	25.9%
・経営やビジネスに関すること	23.3%
・法律・政治、経済や国際関係に関すること	22.7%
・芸術文化に関すること	21.0%
・環境に関すること	19.9%



- ◆ 先端IT従事者のほうが、先端IT非従事者よりも、スキルアップの必要性やスキルアップしないことリスク（スキルの陳腐化）を強く感じる傾向があることがうかがえる。
- ◆ 先端IT非従事者は、新しいスキルを十分習得できていないという問題意識は感じているものの、今後もその状態は変わらない（1年後も新しいスキルを習得できていない）と感じていることが読み取れる。



（出典）本調査において実施したWebアンケート調査結果から

収容定員超過状況

		令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
サイバー大学 IT総合学部 IT総合学科	収容定員	2,500名	4,000名	4,000名
	在籍数	3,710名	4,343名	4,429名
	定員超過率	148.4%	108.6%	110.7%
東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科	収容定員	1,600名	2,000名	2,000名
	在籍数	2,409名	2,842名	3,066名
	定員超過率	169.0%	158.1%	153.3%

【資料13】大学通信教育課程定員超過状況

東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科 志願状況

		令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
1年次入学	定員	400	400	400
	志願者数	922	728	635
	受験者数	887	692	618
	合格者数	882	563	519
	入学者数	826	519	478
	定員充足率	206.5%	129.8%	119.5%
2年次編入学	定員	—	—	—
	志願者数	223	41	45
	受験者数	210	41	39
	合格者数	209	39	38
	入学者数	176	36	34
	定員充足率	—	—	—
3年次編入学	定員	200	200	200
	志願者数	95	282	243
	受験者数	60	272	229
	合格者数	55	271	225
	入学者数	53	251	208
	定員充足率	26.5%	125.5%	104%

出典：東京通信大学「2023年度 設置計画履行状況報告書」

サイバー大学 IT総合学部 IT総合学科 志願状況

		令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
1年次入学	入学定員	480	800	800
	志願者数	1,532	—	—
	受験者数	—	—	—
	合格者数	1,153	—	—
	入学者数	971	1,007	761
	定員充足率	202.3%	125.9%	95.1%
2年次編入学	入学定員	30	50	50
	入学者数	56	56	54
	定員充足率	186.7%	112.0%	108.0%
3年次編入学	入学定員	245	325	325
	入学者数	430	382	326
	定員充足率	175.5%	117.5%	100.3%

出典：令和3～4年度については「サイバー大学 令和4年度 自己点検評価書 [令和3年度報告書]」より
 (受験者数は記載無し)
 令和5年度については「サイバー大学中期目標(2021年度～2025年度)に基づく事業計画の進捗状況
 一点検・評価結果」2023年度報告」より

【資料14】 広報・学生募集スケジュール

内容	2 0 2 5 年									
	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月
企画・更新内容	WEBサイトリニューアル 公開 学部設置認可申請書提出 報告	2026年度生募集広報 本格的にスタート 大学案内パンフレット 配布開始				認可後WEBサイト情報 更新 学部開設案内	WEBサイト入試ページ 公開 入試要項配布	出願受付開始 入学試験開始	入学試験	入学試験
資料請求	WEB広告 2026年度進学者者媒体 掲載開始	web広告露出強化	WEB広告露出強化	WEB広告露出強化	WEB広告露出強化	認可後 WEB広告露出強化	入試要項 & WEB出願案内送付 WEB広告露出強化	WEB広告	WEB広告	WEB広告
資料請求数目標/月間	300	400	500	600	700	800	800	700	700	700
オンライン大学説明会		オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会
説明会参加者数目標/月間	20	30	30	40	50	80	90	60	30	30
個別相談会 (オンライン & 対面)		個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)
説明会参加者数目標/月間		5	5	5	5	5	5	5	5	5

内容	2 0 2 6 年			
	1 月	2 月	3 月	4 月
企画・更新内容	入学試験	入学試験	入学試験	学部開設
資料請求	WEB広告	WEB広告	WEB広告	
資料請求数目標/月間	600	600	600	
オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	オンライン大学説明会	
説明会参加者数目標/月間	20	20	20	
個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	個別相談会 (オンライン & 対面)	
説明会参加者数目標/月間	5	5	5	

【資料15】東京通信大学「設置の趣旨等を記載した書類」

- (1) 時代が求める教養を兼ね備え、社会的課題を発見し解決に向けて積極的に取り組むことができる。
- (2) 他者に対する共感的姿勢を持ち、協働して課題に取り組むことができる。
- (3) 自らの専門知識や技術を深化させながら、その隣接分野に視野を広げていくことができる。
- (4) 情報技術を効果的に活用して職種横断的な調整力を持つ。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) 初年次において幅広く学び、興味と関心のある領域を多面的視点で認識させる。
- (2) 論理的で分析的な思考力・研究力の養成を目指して、今後の学修に必要な基礎学力を向上させ、調査研究の方法を教授して知的基盤を形成する。
- (3) 情報分野、福祉分野及び関連する隣接分野にわたる問題意識を深める。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

- (1) 東京通信大学の教育理念に共感し、eラーニングを通じた学修に積極的に取り組む意欲のある人。
- (2) 自分の経験やキャリアを活かす意欲のある人。
- (3) 多様な価値観や自分とは異なる感性を柔軟に受け入れることができる人。
- (4) 社会・地域に貢献したいと考える人。

2.3 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科の特色

2.3.1 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科の教育研究対象

情報マネジメント学部 情報マネジメント学科の主たる教育研究対象は、情報学であり、経営学の一部の領域も取り込んでいる。

情報学については、情報学分野参照基準で位置付けられる、情報学を学ぶ学生が身につけるべき基本的な知識と技能が習得できる科目を配置した。しかしながら、経団連が平成17年6月「産官学連携による高度な情報通信人材の育成強化に向けて」において、企業のニーズと大学における情報工学教育のギャップが大きいと指摘しているように、情報学の基礎と本質を学ばせることは極めて重要であるが、特定の情報技術に偏らない教育が必要である。また、情報学分野参照基準を踏まえれば、社会が求めているのは、情報学とその周辺領域としての社会や経営に関する広い知識を備えた人材である。例えば、実社会で情報システムを構築するには、経営課題の分析や業務で扱う中心的なデータやそれを処理するデータベースの設計、業務フロー、顧客の要求を的確にヒアリングして設計に落とし込む能力が必要である。このように、情報技術だけではなく経営や会計に関わる知識などの能力が必要とされるのは明白であり、情報学と隣接する分野を同時に学修することで、実学的な価値が格段に強化されると言える。

【資料15】東京通信大学 基本計画書

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要 (情報マネジメント学部 情報マネジメント学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	導入科目	学術研究の本質	1①・③	1			○			5					兼4	オムニバス・ 英語(一部)・ メディア	
		日本語文章論	1①・③		1		○			1						メディア	
		アカデミックライティング	1②・④		1		○						1			メディア	
		プレゼンテーションA	1①・③		1		○						1		兼1	オムニバス・ メディア	
		プレゼンテーションB	1②・④		1		○								兼1	メディア	
		社会と倫理	1①・③		1		○			3	1					オムニバス・ メディア	
		知的生産の技術	1②・④		1		○			1	1					オムニバス・ メディア	
		小計 (7科目)	—	1	6	0	—			5	2	1	1	0	兼6	—	
	外国語科目	基礎英語A	1①・③		1		○								兼1	メディア	
		基礎英語B	1②・④		1		○								兼1	メディア	
		実践英語A	1①・③		1		○				1					メディア	
		実践英語B	1②・④		1		○				1					メディア	
		応用英語A	1①・③		1		○								兼1	メディア	
		応用英語B	1②・④		1		○								兼1	メディア	
		総合英語A	1①・③		1		○				1					メディア	
		総合英語B	1②・④		1		○				1					メディア	
	小計 (8科目)	—	0	8	0	—			0	1	0	0	0	兼1	—		
	情報科目	文献・情報調査法	1①・③		1		○				1					メディア	
		情報基礎Ⅰ	1①・③		1		○						1			メディア	
		情報基礎Ⅱ	1②・④		1		○						1			メディア	
		小計 (3科目)	—	0	3	0	—			0	1	0	1	0	0	—	
	科学の探究科目	A群	東アジアの歴史と文化	1①・③		1		○			1						メディア
			社会と歴史	1①・③		1		○								兼1	メディア
			社会と教育	1①・③		1		○								兼1	メディア
			社会と文化	1①・③		1		○								兼1	メディア
			文化人類学	1①・③		1		○			1						メディア
相互扶助の経済と文化			1①・③		1		○				1					メディア	
選択理論心理学概論			1①・③		1		○			1						メディア	
ジェンダー論			1①・③		1		○								兼1	メディア	
コミュニケーション論A			1②・④		1		○			1						メディア	
多文化共生A			1①・③		1		○								兼1	メディア	
多文化共生B			1②・④		1		○								兼1	メディア	
都市の文化と思想			1①・③		1		○								兼1	メディア	
社会思想史			1②・④		1		○								兼1	メディア	
先進技術と情報生態の人類学			1①・③		1		○			1						メディア	
比較文化関係論			1②・④		1		○			1						メディア	
グローバリゼーション			1②・④		1		○								兼1	メディア	
社会と宗教			1②・④		1		○				2					オムニバス・ メディア	
生命と倫理			1②・④		1		○								兼1	メディア	
文化社会学			2①・③		1		○			1						メディア	
現代文化論			2①・③		1		○			1						メディア	
コミュニケーション論B			2①・③		1		○			2						オムニバス・ メディア	
社会と先端医療			2①・③		1		○								兼1	メディア	
保健福祉学概論			2①・③		1		○								兼1	メディア	
社会と環境			2②・④		1		○				1				兼1	オムニバス・ メディア	
小計 (24科目)	—	0	24	0	—			4	1	0	0	0	兼6	—			

【資料15】東京通信大学 基本計画書

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
B 群	日本国憲法	1①・③		2		○									兼1	メディア	
	社会と福祉	1①・③		1		○									兼1	メディア	
	社会学概論B	1②・④		1		○									兼1	メディア	
	社会心理学概論A	1①・③		1		○									兼1	メディア	
	社会心理学概論B	1②・④		1		○									兼1	メディア	
	現代社会論	1①・③		1		○				1						メディア	
	経済人類学	1②・④		1		○				1						メディア	
	地域経済とグローバリズム	1①・③		1		○				1						メディア	
	アジア経済論	1②・④		1		○				1						メディア	
	政治学	1①・③		1		○				1						メディア	
	国際化と日本	1②・④		1		○				1						メディア	
	国際関係概論	1②・④		1		○				1						メディア	
	問題発見・解決の方法	1②・④		1		○				1						メディア	
	脱近代社会と労働の社会学	1②・④		1		○									兼1	メディア	
	役割離脱論	1②・④		1		○									兼1	メディア	
	コミュニティの国際比較	1②・④		1		○									兼1	メディア	
	人の移動と民族問題	1②・④		1		○									兼1	メディア	
	社会調査概論Ⅰ	2①		1		○					1					メディア	
	社会調査概論Ⅱ	2②		1		○							1			メディア	
	社会調査方法論Ⅰ	2③		1		○					1					メディア	
	社会調査方法論Ⅱ	2④		1		○							1			メディア	
	協調の手法	2①・③		1		○				1						メディア	
	社会学概論A	2①・③		1		○				1						メディア	
	戦後社会論	2②・④		1		○				1						メディア	
	社会システム論	2②・④		1		○				1						メディア	
	小計（25科目）		—	0	26	0	—			4	2	0	1	0	兼5	—	
	C 群	数学入門Ⅰ	1①・③		1		○			1			1			共同・メディア	
		数学入門Ⅱ	1②・④		1		○			1			1			共同・メディア	
		数学応用Ⅰ	1①・③		1		○			1			1			共同・メディア	
		数学応用Ⅱ	1②・④		1		○			1			1			共同・メディア	
		物理学概論Ⅰ	1①・③		1		○			1						メディア	
		物理学概論Ⅱ	1②・④		1		○			1						メディア	
		生物学概論A	1①・③		1		○								兼1	メディア	
		生物学概論B	1②・④		1		○								兼1	メディア	
		予防医学	1①・③		1		○								兼1	メディア	
		生命と人間	1②・④		1		○								兼1	メディア	
		小計（10科目）		—	0	10	0	—			3	0	0	1	0	兼2	—
		D 群	現代社会の課題と探究A	1②・④		1		○			1						兼3
	現代社会の課題と探究B		2②・④		1		○			4							オムニバス・メディア
	現代社会の課題と探究C		1②・④		1		○			1	2					兼2	オムニバス・メディア
	小計（3科目）		—	0	3	0	—			6	2	0	0	0	兼5	—	
	目 的 ・ 成 果 形 成 科 目	ボランティア論	1①・③		1		○									兼1	メディア
		キャリアデザイン	1①・③		1		○				1						メディア
		小計（2科目）		—	0	2	0	—			0	1	0	0	0	兼1	—
	健康 科 目	運動と健康A	1①・③		1		○									兼1	メディア
運動と健康B		1②・④		1		○									兼1	メディア	
アスリートの心理と身体		1①・③		1		○									兼1	メディア	
脳とこころ・身体		1②・④		1		○						1				メディア	
小計（4科目）		—	0	4	0	—			0	0	0	1	0	兼3	—		

【資料15】東京通信大学 基本計画書

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	情報 社会	情報マネジメント総論A	1③・④	1		○			4	1				オムニバス・メディア
		情報マネジメント総論B	1③・④	1		○			4					オムニバス・メディア
		情報倫理	2①・③	1		○				1				メディア
		デザイン思考概論	2②・④	1		○			1					メディア
		社会と情報Ⅰ	3①・③	1		○			1					メディア
		社会と情報Ⅱ	3②・④	1		○			1					メディア
		情報化社会とテクノロジーⅠ	3①・③	1		○			1					メディア
		情報化社会とテクノロジーⅡ	3②・④	1		○			1					メディア
		生活環境デザインⅠ	3①・③	1		○			1					メディア
		生活環境デザインⅡ	3②・④	1		○			1					メディア
		ヒューマンインタフェースⅠ	3①・③	1		○			1					メディア
		ヒューマンインタフェースⅡ	3②・④	1		○			1					メディア
		先端応用	4①・③	1		○			4					オムニバス・メディア
		ネットワークとサービスⅠ	4①・③	1		○			1					メディア
		ネットワークとサービスⅡ	4②・④	1		○			1					メディア
		テクノロジーマーケティングⅠ	4①・③	1		○			1					メディア
		テクノロジーマーケティングⅡ	4②・④	1		○			1					メディア
		小計（17科目）	—	17	0	0	—	—	10	2	0	0	0	—
	社会 調査	社会情報処理Ⅰ	1①・③	1		○				1				メディア
		社会情報処理Ⅱ	1②・④	1		○				1				メディア
		質的調査Ⅰ	2①・③		1	○				1				メディア
		質的調査Ⅱ	2②・④		1	○				1				メディア
		社会調査演習Ⅰ	4①		1		○			1		1		共同・メディア・面接
		社会調査演習Ⅱ	4②		1		○			1		1		共同・メディア・面接
		社会調査演習Ⅲ	4③		1		○			1		1		共同・メディア・面接
		社会調査演習Ⅳ	4④		1		○			1		1		共同・メディア・面接
		小計（8科目）	—	2	6	0	—	—	0	2	0	2	0	—
	メ デ イ ア	取材の情報学	2①・③		1	○			1					メディア
		メディアの社会学	2①・③		1	○			1					メディア
		情報メディアとデザインの文明論	2①・③		1	○			1					メディア
		スポーツメディア論	2①・③		1	○								兼1 メディア
		教授メディアと学習	2②・④		1	○				1				メディア
		ネット依存と心理	2②・④		1	○						1		メディア
		新聞情報マネジメント	3①・③		1	○			1					メディア
		国際政治と情報マネジメント	3②・④		1	○			1					メディア
		広告論	3②・④		1	○								兼1 メディア
		小計（9科目）	—	4	5	0	—	—	3	1	0	1	0	兼2 —

【資料15】東京通信大学 基本計画書

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
情報システム	初級プログラミングⅠ	1①・③	1			○			1					メディア
	初級プログラミングⅡ	1②・④	1			○			1					メディア
	初級プログラミング演習Ⅰ	2①・③	1				○		1					メディア
	初級プログラミング演習Ⅱ	2②・④	1				○		1					メディア
	初級オブジェクト指向プログラミング	2①・③	1			○			1					メディア
	初級セキュアプログラミング	2②・④	1			○			1					メディア
	データ構造とアルゴリズムⅠ	3①・③	1			○			1					メディア
	データ構造とアルゴリズムⅡ	3②・④	1			○			1					メディア
	プログラミング演習Ⅰ	3①	1				○			1				メディア
	プログラミング演習Ⅱ	3②	1				○			1				メディア
	プログラミング演習Ⅲ	3③	1				○			1				メディア
	プログラミング演習Ⅳ	3④	1				○			1				メディア
	小計（12科目）	—	12	0	0	—	—	—	2	2	0	0	0	0
	情報システム	ソフトウェア総論Ⅰ	2①・③	1			○			1				メディア
	ソフトウェア総論Ⅱ	2②・④	1				○			1				メディア
	ハードウェア総論Ⅰ	2①・③	1				○			1				メディア
	ハードウェア総論Ⅱ	2②・④	1				○			1				メディア
	システム総論Ⅰ	2①・③	1				○			1				メディア
	システム総論Ⅱ	2②・④	1				○			1				メディア
	システム設計Ⅰ	3①・③	1				○		1					メディア
	システム設計Ⅱ	3②・④	1				○		1					メディア
	データベース論Ⅰ	3①・③	1				○			1				メディア
	データベース論Ⅱ	3②・④	1				○			1				メディア
	インターネット技術Ⅰ	3①・③	1				○		1					メディア
	インターネット技術Ⅱ	3②・④	1				○		1					メディア
	サーバ構築演習Ⅰ	3③	1				○			1				メディア
	サーバ構築演習Ⅱ	3④	1				○			1				メディア
	小計（14科目）	—	14	0	0	—	—	—	2	2	0	0	0	0
	情報とセキュリティ	社会とサイバーセキュリティ	3①・③	1			○		1					メディア
	情報セキュリティⅠ	3①・③	1				○		1					メディア
	情報セキュリティⅡ	3②・④	1				○		1					メディア
	情報セキュリティと人間心理Ⅰ	3①・③		1			○		1					メディア
	情報セキュリティと人間心理Ⅱ	3②・④		1			○		1					メディア
	データ匿名化演習Ⅰ	3①・③	1				○		1					メディア
	データ匿名化演習Ⅱ	3②・④	1				○		1					メディア
	情報マネジメント戦略Ⅰ	4①・③	1				○		1					メディア
	情報マネジメント戦略Ⅱ	4②・④	1				○		1					メディア
	小計（9科目）	—	7	2	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0

【資料15】東京通信大学 基本計画書

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
マ ネ ジ メ ン ト	マ ネ ジ メ ン ト 基 礎	経済学入門	1①・③	1		○			1					メディア
		ビジネスマナー	2①・③	1		○					1			メディア
		財政学	2①・③		1	○			1					メディア
		ビジネスライティングA	2①・③	1		○					1			メディア
		ビジネスライティングB	2②・④	1		○					1			メディア
		社会統計学Ⅰ	2①・③	1		○				1				メディア
		社会統計学Ⅱ	2②・④	1		○				1				メディア
		社会と経済	2①・③		1	○								兼1 メディア
		消費組合論	2②・④		1	○								兼1 メディア
		経営学入門	2①・③	1		○			1					メディア
		会計学	2②・④		1	○			1					メディア
		人材マネジメント	3①・③		1	○					1			メディア
		行政法A	3①・③		1	○								兼1 メディア
		行政法B	3②・④		1	○								兼1 メディア
		小計（14科目）	—	7	7	0	—		2	2	1	0	0	兼2 —
	企 業 と 会 計	簿記概論	1①・③	1		○			1					メディア
		簿記各論	2②・④		1	○			1					メディア
		財務会計概論	2①・③		1	○			1					メディア
		財務会計各論	3②・④		1	○			1					メディア
		管理会計	3②・④		1	○			1					メディア
		インターンシップA	3③・④		1			○				1		メディア・ 面接
		インターンシップB	3③・④		2			○				1		メディア・ 面接
		企業社会と労働法	4①・③		1	○								兼1 メディア
		企業と会社法	4②・④		1	○								兼1 メディア
		小計（9科目）	—	1	9	0	—		2	0	0	1	0	兼2 —
	経 営 と 組 織	IT産業論	2①・③	1		○			1					メディア
		ベンチャー論	2②・④	1		○			1					メディア
		組織行動論Ⅰ	2①・③		1	○				1				メディア
		組織行動論Ⅱ	2②・④		1	○				1				メディア
		マーケティング概論Ⅰ	2①・③	1		○			1					メディア
		マーケティング概論Ⅱ	2②・④	1		○			1					メディア
		経営戦略	3①・③	1		○			1					メディア
		ビジネスデータ分析Ⅰ	3①・③	1		○				1				メディア
		ビジネスデータ分析Ⅱ	3②・④	1		○				1				メディア
		情報ビジネス論Ⅰ	3①・③	1		○			1					メディア
		情報ビジネス論Ⅱ	3②・④	1		○			1					メディア
		リーダーシップ論Ⅰ	3①・③		1	○				1				メディア
		リーダーシップ論Ⅱ	3②・④		1	○				1				メディア
		プロジェクトマネジメントの手法	3②・④	1		○			1					メディア
		経営組織論	3②・④	1		○				1				メディア
		経営学特論	4①・③		1	○			1					メディア
		国際経営論	4②・④		1	○			1					メディア
		小計（17科目）	—	11	6	0	—		3	2	0	0	0	—

【資料15】東京通信大学 基本計画書

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
卒業研究	リサーチレポート	4通			4		○		12	6				兼17	共同・メディア
	小計（1科目）	－	0	0	4	－			12	6	0	0	0	兼17	－
合計（196科目）		－	76	121	4	－			12	6	1	3	0	兼23	－
学位又は称号		学士(情報マネジメント)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
本学は単位制を採用し、124単位以上を修得することを卒業要件とする。 教養教育科目については以下の要件を満たして37単位以上修得すること。 導入科目 必修 学術研究の本質 選択必修 4単位以上 外国語科目 選択必修 2単位以上 情報科目 選択必修 2単位以上 科学の探究科目 選択必修 A B C Dの各群から各2単位以上 選択 17単位以上 キャリア形成科目 選択必修 1単位以上 健康科目 選択必修 2単位以上 専門教育科目については以下の要件を満たして87単位以上修得すること。 中分類「情報社会」 小分類「情報社会」 必修 情報マネジメント総論A、 情報マネジメント総論B、 情報倫理、 デザイン思考概論、 社会と情報Ⅰ、 社会と情報Ⅱ、 情報化社会とテクノロジーⅠ、 情報化社会とテクノロジーⅡ、 生活環境デザインⅠ、 生活環境デザインⅡ、 ヒューマンインタフェースⅠ、 ヒューマンインタフェースⅡ、 先端応用、 ネットワークとサービスⅠ、 ネットワークとサービスⅡ、 テクノロジーマーケティングⅠ、 テクノロジーマーケティングⅡ 小分類「社会調査」 必修 社会情報処理Ⅰ、 社会情報処理Ⅱ 小分類「メディア」 必修 メディアの社会学、 情報メディアとデザインの文明論、 教授メディアと学習、 ネット依存と心理 中分類「情報システム」 小分類「プログラミング」 必修 初級プログラミングⅠ、 初級プログラミングⅡ、 初級プログラミング演習Ⅰ、 初級プログラミング演習Ⅱ、 初級オブジェクト指向プログラミング、 初級セキュアプログラミング、 データ構造とアルゴリズムⅠ、 データ構造とアルゴリズムⅡ、 プログラミング演習Ⅰ、 プログラミング演習Ⅱ、 プログラミング演習Ⅲ、 プログラミング演習Ⅳ 小分類「情報システム」 必修 ソフトウェア総論Ⅰ、 ソフトウェア総論Ⅱ、 ハードウェア総論Ⅰ、 ハードウェア総論Ⅱ、 システム総論Ⅰ、 システム総論Ⅱ、 システム設計Ⅰ、 システム設計Ⅱ、 データベース論Ⅰ、 データベース論Ⅱ、 インターネット技術Ⅰ、 インターネット技術Ⅱ、 サーバ構築演習Ⅰ、 サーバ構築演習Ⅱ 小分類「情報とセキュリティ」 必修 社会とサイバーセキュリティ、 情報セキュリティⅡ 情報セキュリティⅠ、 データ匿名化演習Ⅱ、 情報マネジメント戦略Ⅰ、 情報マネジメント戦略Ⅱ 中分類「マネジメント」 小分類「マネジメント基礎」 必修 経済学入門、 ビジネスマナー、 ビジネスライティングA、 ビジネスライティングB、 社会統計学Ⅰ、 社会統計学Ⅱ、 経営学入門 小分類「企業と会計」 必修 簿記概論 小分類「経営と組織」 必修 IT産業論、ベンチャー論、 マーケティング概論Ⅱ、 マーケティング概論Ⅰ、 経営戦略、 ビジネスデータ分析Ⅰ、 ビジネスデータ分析Ⅱ、 情報ビジネス論Ⅰ、 情報ビジネス論Ⅱ、 プロジェクトマネジメントの手法、 経営組織論 なお、他学部の専門教育科目については20単位まで専門教育科目の単位として認定する。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))									1 学年の学期区分		4学期				
									1 学期の授業期間		8週				
									1 時限の授業時間		90分				

【資料16】サイバー大学 基本計画書

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(IT総合学部IT総合学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 科 目	スタディスキル入門	1前・後	1				○				1	1			メディア
	ITによる知的生産術*	1・2・3前・後		1		○			1						メディア
	キャリア入門	1・2・3前・後		1		○			1						メディア
	セルフマネジメント論	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	コミュニケーション論*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	ロジカルシンキング*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	文書作成と表計算 ～Word・Excel活用～*	1・2・3前・後		1		○				1					メディア
	ファイナンシャル・プランニング入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	プレゼンテーション入門*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	リーダーシップ概論	1・2・3前・後		1		○			1						メディア
	キャリアデザイン	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	ロジカルライティング*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	Webデザイン入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	資産運用実践論	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	博物学	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	我々の宇宙	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	暮らしの中の物理学	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	化学入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	地球科学入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	AI（人工知能）入門*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	脳科学入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	物理学入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	健康管理入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	人工衛星入門 ～宇宙の総合エンジニアリング～	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	防災論入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	医療・ヘルスケアとIT	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	宗教と建築からみたインドネシア文化	1・2・3前・後		1		○			1						メディア
	住まいの文化史	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	韓流文化論	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	心理学入門*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	日本文学入門 ～文化と歴史から学ぶ～	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	日本の伝統芸能	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	世界遺産でたどる日本の歴史	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	和食文化論	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	キリスト教文化Ⅰ	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	アンコール遺跡を中心とした文化遺産の保存修復	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	西洋音楽史	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	講談の世界	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	「使いやすさ」の心理学 ～デザインとユーザビリティ～	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	日本語文化論*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	宗教学入門	1・2・3前・後		1		○			1						メディア
	西洋建築 歴史の旅	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	日本の心と異文化理解	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	キリスト教文化Ⅱ	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	写真・映像制作の基礎	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	人間社会と感染症の歴史	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	企業環境学—企業経営と環境取り組み—	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	流通経営論	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア

【資料16】サイバー大学 基本計画書

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	メディア情報文化論	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	政治学入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	ゲームの歴史と未来	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	ソーシャルメディア概論*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	日本人はテレビをどう食べたか?～制作現場からのテレビ映像論～	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	社会保障入門	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	スポーツビジネスのしくみ	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	社会学入門*	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	コンビニ経済学 ～コンビニを見たら日本が分かる～	1・2・3前・後		1		○								兼1	メディア
	地域おこし実践論	1・2・3前・後		1		○			1						メディア
	就職活動実践演習	2前・後		1			○							兼1	メディア
	スタディスキル実践	3前・後	1				○				1	1			メディア
* これらの科目で修得した単位は、ITコミュニケーションプログラムの場合、12単位を上限として専門基礎科目（選択）の卒業要件単位とみなすことができる。															
小計（60科目）		—	2	58	0	—			4	1	2	2	0	兼44	—
外国語科目	基礎英語Ⅰ	1前・後	2				○				2				メディア
	基礎英語Ⅱ	1前・後	2				○				2				メディア
	中級英語Ⅰ	1・2前・後	2				○			1					メディア
	中級英語Ⅱ	1・2前・後	2				○			1					メディア
	上級英語Ⅰ－A	1・2・3前・後		2			○			1					メディア
	上級英語Ⅰ－B	1・2・3前・後		2			○			1					メディア
	上級英語Ⅱ－A	1・2・3前・後		2			○			1					メディア
	上級英語Ⅱ－B	1・2・3前・後		2			○			1					メディア
	中国語入門A	1・2前		2			○							兼1	メディア
	中国語入門B	1・2後		2			○							兼1	メディア
	中国語応用A	2・3後		2			○							兼1	メディア
	中国語応用B	2・3前		2			○							兼1	メディア
	小計（12科目）	—	8	16	0	—			0	1	2	0	0	兼1	—
専門基礎科目	ITのための基礎知識	1・2前・後	2			○			1		1				メディア
	インターネット入門	1・2前・後	2			○			1						メディア
	プロジェクトマネジメント入門	1・2前・後	2			○			1						メディア
	企業経営入門	1・2前・後	2			○			1						メディア
	会計簿記入門	1・2前・後	2			○								兼1	メディア
	経済学入門	1・2前・後	2			○			1						メディア
	情報端末とネットサービス入門	1・2前・後	2			○			1		1				メディア
	ビジネス法務入門	1・2前・後		2		○								兼2	メディア
	コンピュータのための基礎数学	1・2前・後	2			○					1				メディア
	プログラミング入門	1・2前・後		2			○			1					メディア
	コンピュータ入門	1・2前・後	2			○			1	1					メディア
	インターネット技術Ⅰ	1・2前・後	2			○					1				メディア
	Web入門	1・2前・後	2			○				1					メディア
	情報セキュリティ入門	1・2前・後	2			○			1		1				メディア
	サービステクノロジー論	1・2前・後	2			○			1						メディア
	IoT入門	1・2前・後	2			○			1	1					メディア
	起業入門	1・2前・後	2			○			1						メディア
	マーケティング入門	1・2前・後	2			○			1						メディア
	経営組織論	1・2前・後		2		○					1				メディア
	マクロ経済学	1・2前・後		2		○			1						メディア
	アルゴリズムとデータ構造	1・2前・後	2			○				1		1			メディア
	Cプログラミング演習	1・2前・後		2			○			1		1			メディア
	ソフトウェア開発論Ⅰ	1・2前・後	2				○		1	1					メディア
	情報処理のための基礎知識	1・2前・後		2		○				1					メディア
	UNIX入門	1・2前・後	2				○		1						メディア
	RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）入門	1・2前・後		2		○								兼2	メディア
	ビジネス事例から学ぶ統計入門	1・2前・後	2			○					1				メディア
	管理会計	1・2前・後		2		○								兼1	メディア
	リスク管理と監査	1・2前・後		2		○								兼1	メディア
	小計（29科目）	—	40	18	0	—			9	5	5	1	0	兼7	—

【資料16】サイバー大学 基本計画書

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	専門応用科目	コーポレート・ファイナンス	3前・後		2		○			1						メディア	
		データベース論	3前・後		2		○			1						メディア	
		ソフトウェア工学	3前・後		2		○			1						メディア	
		インターネット技術Ⅱ	3前・後		2		○			1						メディア	
		Web応用	3前・後		2			○			1					メディア	
		情報セキュリティマネジメント	3前・後		2		○			1						メディア	
		情報セキュリティ応用	3前・後		2		○			1	1					メディア	
		暗号技術と情報セキュリティ	3前・後		2		○			1	1					メディア	
		情報化社会とテクノロジー	3前・後		2		○			1						メディア	
		ITプロジェクトマネジメント講義	3前・後		2		○			1						メディア	
		業務アプリケーションの進化と開発	3前・後		2		○			1						メディア	
		地域マーケティング論	3前・後		2		○			1						メディア	
		商品企画論	3前・後		2		○			1						メディア	
		経営戦略	3前・後		2		○					1				メディア	
		ネットマーケティング論	3前・後		2		○			1					兼1	メディア	
		eコマース実践論	3前・後		2		○			1	1					メディア	
		事業創造詳論	3前・後		2		○			1						メディア	
		ソフトウェア開発論Ⅱ	3前・後		2			○		1	1					メディア	
		Webアプリケーション開発	3前・後		2			○		1						メディア	
		統計解析とデータマイニング	3前・後		2			○		1						メディア	
		AIアルゴリズム	3前・後		2			○		2						メディア	
		AIプログラミング	3前・後		2				○			2				メディア	
		Pythonプログラミング演習	3前・後		2				○			1				兼1	メディア
		ネットワーク実践論	3前・後		2			○								兼1	メディア
		ITプロジェクトマネジメント演習	3前・後		2				○		1						メディア
	小計（25科目）		—	0	50	0	—			13	6	1	0	0	兼3		
卒業研究科目※	テクノロジーコース ゼミナール	4前・後	2					○		8	6					メディア	
	テクノロジーコース 特別研究Ⅰ	4前・後		3				○		6	4					メディア	
	テクノロジーコース 特別研究Ⅱ	4前・後		3				○		6	4					メディア	
	ビジネスコース ゼミナール	4前・後	2					○		6	2	1				メディア	
	ビジネスコース 特別研究Ⅰ	4前・後		3				○		5	1					メディア	
	ビジネスコース 特別研究Ⅱ	4前・後		3				○		5	1					メディア	
	ITコミュニケーションコース ゼミナール	4前・後	2					○		2		1	1			メディア	
	ITコミュニケーションコース 特別研究Ⅰ	4前・後		3				○		1						メディア	
	ITコミュニケーションコース 特別研究Ⅱ	4前・後		3				○		1						メディア	
	小計（9科目）		—	6	18	0	—			14	8	2	1	0			
合計（135科目）		—	56	160	0	—			17	10	9	4	0	兼55			
学位又は称号		学士（IT総合学）		学位又は学科の分野				経済学、社会学、工学									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
専門科目は、1・2年次配当の専門基礎（講義・演習）、3年次配当の専門応用（講義・演習）、4年次配当の卒業研究の科目区分からコース・プログラムごとの必修科目8科目16単位分（卒業研究1科目2単位を含む）を履修する。更に該当プログラムで指定した6～9科目12～18単位分を選択必修科目として履修し、その他の選択科目と併せて46単位以上を履修する。 教養科目は、プログラム共通の必修2単位、選択22単位以上を履修する。 外国語科目は、プログラム共通の必修8単位、選択4単位以上を履修する。 その他、専門科目、外国語科目、教養科目から26単位分を自由選択で履修することができる。 なお、年間履修登録単位数の上限は45単位と定めている。									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業時間				90分				

*1 テクノロジーコース ネットワークプログラム 必修科目

*5 ビジネスコース ITマネジメントプログラム 必修科目

*2 テクノロジーコース セキュリティプログラム 必修科目

*6 ビジネスコース 起業・経営プログラム 必修科目

*3 テクノロジーコース ソフトウェアプログラム 必修科目

*7 ビジネスコース ネットビジネスプログラム 必修科目

*4 テクノロジーコース AIテクノロジープログラム 必修科目

*8 ITコミュニケーションコース ITコミュニケーションプログラム 必修科目

※卒業研究科目は、担当教員ごとに授業科目として開講する（履修者0名の場合は休講とする）



トップ > 協会概要 > 大学通信教育の現状（データ集）

大学通信教育の現状（データ集）

Data

DATA

大学通信教育の現状（データ集）

1. 学校数・学生数・女性の比率（文部科学省「学校基本調査報告書」令和4年度による）

	学生数		女性の比率
	正規の課程	その他の学生	
大学	179,877	43,087	約54.7%
大学院	3,620	3,387	約42.8%
短期大学	18,881	2,449	約78.4%

2. 募集校の地域分布

太字は公益財団法人私立大学通信教育協会の加盟校。

大学

地区	校数（42）	大学
北海道	2	北海道情報・日本医療

【資料17】 公益財団法人 私立大学通信教育協会「大学通信教育の現状（データ集）」



公益財団法人 **私立大学通信教育協会**

University Correspondence Education

大学・大学院・短期大学を探す 合同入学説明会

動画 通信教育 教員免許状・資格 一括資料請求

大学

関東	24	信・東京福祉・東京未来・日本・日本ウェルネススポーツ・日本女子・人間総合科学・ビジネスブレークスルー・法政・放送・武蔵野・武蔵野美術・明星・八洲学園・早稲田
中部	4	愛知産業・中部学院・新潟産業・日本福祉
近畿	9	大阪芸術・大手前・京都芸術・京都橘・近畿・姫路・神戸親和・奈良・佛教
中国	1	環太平洋
九州	2	九州保健福祉・サイバー

大学院

地区	校数 (26)	大学院
北海道		
東北	1	東北福祉 (M)
関東	13	桜美林 (M)・星槎 (M・D)・聖徳 (M・D)・帝京 (M)・帝京平成 (M)・東京福祉 (M)・日本 (M・D)・人間総合科学 (M・D)・放送 (M・D)・ビジネス・ブレークスルー大学院大学 (P)・武蔵野 (M)・明星 (M・D)・SBI大学院大学 (P)
中部	3	岐阜女子 (M)・名古屋学院 (M・D)・日本福祉 (M・D)
近畿	5	高野山 (M)・京都産業 (M)・京都芸術 (M)・佛教 (M・D)・明治国際医療 (M)
中国	2	吉備国際 (M・D)・東亜 (M)
九州	1	九州保健福祉 (M・D)

短期大学

地区	校数 (11)	短期大学

【資料17】 公益財団法人 私立大学通信教育協会「大学通信教育の現状（データ集）」



公益財団法人 **私立大学通信教育協会**
University Correspondence Education

大学・大学院・短期大学を探す 合同入学説明会
動画 通信教育 教員免許状・資格 一括資料請求

東北		
関東	4	小田原・自由が丘産能・聖徳・帝京
中部	1	愛知産業
近畿	3	近畿・豊岡・神戸常盤
中国		
九州	1	近畿大学九州

3. 年齢（文部科学省「学校基本調査報告書」令和4年度による。正規の課程のみ）

	18～22歳	23～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
大学	17.2%	16.6%	15.9%	19.0%	17.0%	14.3%
大学院	0.3%	7.2%	20.5%	29.3%	27.0%	15.7%
短期大学	64.6%	8.5%	9.6%	9.9%	5.9%	1.5%

4. 職業（文部科学省「学校基本調査報告書」令和4年度による。正規の課程のみ）

	教員	公務員	会社(商店) 員・ 銀行員等	個人営業・ 自由業	無職	その他
大学	4.5%	5.8%	32.3%	6.2%	25.4%	25.8%
大学院	18.8%	8.6%	37.4%	7.2%	8.3%	19.7%
短期大学	1.3%	1.6%	15.6%	1.4%	65.7%	14.4%

5. 最終学歴（私立大学通信教育協会「入学者調査」令和4年度による。正規の課程のみ）



短期大学	83.7%	1.3%	0.6%	1.6%	12.8%

※『大学通信教育ガイド2024(大学・短大編)』の数字（比率）は誤っております。

正しくは、上記の数字（比率）です。お詫びして訂正いたします。

6. 入学の動機（私立大学通信教育協会「入学者調査」令和4年度による。正規の課程のみ）

	大卒資格	職業資格	知識技術	その大学	教養	生涯教育	動機なし	その他
大学	31.7%	23.3%	13.0%	11.8%	8.0%	7.8%	0.1%	4.3%
短期大学	40.8%	35.2%	7.8%	5.0%	4.8%	2.4%	0.1%	3.9%

●大卒資格＝大学卒業資格を得るため ●職業資格＝職業上の資格を得るため ●知識技術＝職業上の知識・技術習得

●その大学＝その大学で学びたいため ●教養＝教養のため ●生涯学習＝生涯学習・再学習のため

●動機なし＝殊更に動機はない

7. 地域別（私立大学通信教育協会「入学者調査」令和4年度による。正規の課程のみ）

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	外国
大学	3.1%	4.2%	45.6%	14.3%	18.6%	3.6%	1.7%	8.7%	0.3%
大学院	2.7%	3.5%	44.6%	12.4%	23.0%	3.9%	1.8%	6.3%	1.8%
短期大学	4.9%	5.8%	34.4%	15.6%	15.0%	3.8%	3.9%	16.4%	0.2%

【資料18】サイバー大学の入学状況

過去の入学状況

2024年11月時点

IT総合学部	入学者数		
	1年次入学	2年次編入学	3年次編入学
2020年度 春	560	37	232
2020年度 秋	256	26	202
2021年度 春	688	35	273
2021年度 秋	283	21	157
2022年度 春	848	36	284
2022年度 秋	159	20	98
2023年度 春	628	34	217
2023年度 秋	133	20	109
2024年度 春	490	32	156
2024年度 秋	119	14	120

開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程](仮称)

設置構想に関するアンケート

対象:2026 年 4 月に大学入学予定のみなさん (2024 年度に高校 2 年生の方)

学校法人新潟総合学園では 2026 年 4 月に開志創造大学情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程](仮称)を設置することを構想しています。このアンケートを通して、これから大学進学時期を迎えるみなさんからご意見をお聞きして、新設組織の構想をより充実させたいと考えております。

※情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]の情報をよくご理解いただいた上でご回答をお願いします。

なお、このアンケートに回答いただいたみなさんから得られた情報は、開志創造大学の 新設組織の構想に係る統計資料としてのみ使用し、個人を特定することはありません。また、回答内容が入学に影響を及ぼすこともありません。ぜひみなさんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いします。

※このアンケート調査は、学校法人新潟総合学園から委託された第三者機関(株式会社アンド・ディ)が実施します。

高校卒業後の進路についてあなたのご希望をお聞きます。

Q1. 高校卒業後の希望進路を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|------------------|----------|
| 1. 大学(4 年制・6 年制) | } → Q2 へ |
| 2. 短期大学 | |
| 3. 専門職大学 | |
| 4. 専門職短期大学 | |
| 5. 専門学校・専修学校 | |
| 6. 就職 | |
| 7. その他 | |

Q2. Q1 で「大学(4 年制・6 年制)」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」を選択した方に質問です。

(※5～7 のみを選択した方は Q3 へ進んでください)

志望する大学の種類を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

1. 私立
2. 国立
3. 公立

(次ページに続きます)

Q3.高校卒業後に学びたいと考えている、興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(あてはまるもの全てに○)

※興味のある学問分野について、モレがないように全ての項目を見ていただいた上で、○してください。

1. 【工学】電気通信工学
2. 【工学】経営工学
3. 【工学】その他(情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など)
4. 【工学】機械工学、土木建築工学、応用化学
5. 【理学】数学・物理学・化学・生物学
6. 【農学】農学・水産学
7. 【人文科学】文学・哲学・史学
8. 【社会科学】法学・政治学・商学・経済学・社会学
9. 【保健】医学・歯学・薬学・看護学
10. 【家政】家政学・食物学・被服学
11. 【教育】教育学・教員養成
12. 【芸術】美術・デザイン・音楽
13. 【その他】教養学・国際学など
14. あてはまるものはない

(次ページに続きます)

ここからは、開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程](仮称・設置構想中)についてお聞きます。

Q4. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程](仮称・設置構想中)が開設された場合、あなたは受験を希望しますか。(ひとつに○)

1. 第一志望として受験する
 2. 第二志望として受験する
 3. 第三志望以降として受験する
 4. 受験しない
- Q5 へ

Q5. Q4 で「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択した方に質問です。

開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程](仮称・設置構想中)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。(ひとつに○)

1. 入学する
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
3. 入学しない

あなたご自身についてお聞きます。

F1. あなたの性別をお答えください。(ひとつに○)

1. 男性
2. 女性
3. ご自由にお書きください()
4. 回答しない

F2. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程](仮称・設置構想中)への受験や入学意向を尋ねるアンケートに回答したことはありますか。(ひとつに○)

1. 今回が初めて
2. 以前にも回答した

アンケートはこれで終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【資料20】 高校留置調査協力高校一覧

No.	高校名	所在地
1	木造高等学校	青森県
2	下山学園高等学校	青森県
3	柏木農業高等学校	青森県
4	黒石高等学校	青森県
5	八戸工業大学第一高等学校	青森県
6	久慈東高等学校	岩手県
7	岩手女子高等学校	岩手県
8	盛岡商業高等学校	岩手県
9	岩手高等学校	岩手県
10	盛岡白百合学園高等学校	岩手県
11	一関修紅高等学校	岩手県
12	盛岡大学附属高等学校	岩手県
13	高田高等学校	岩手県
14	角田高等学校	宮城県
15	村田高等学校	宮城県
16	東陵高等学校	宮城県
17	小牛田農林高等学校	宮城県
18	佐沼高等学校	宮城県
19	仙台商業高等学校	宮城県
20	東北生活文化大学高等学校	宮城県
21	鹿角高等学校	秋田県
22	増田高等学校	秋田県
23	新庄神室産業高等学校	山形県
24	鶴岡中央高等学校	山形県
25	新庄東高等学校	山形県
26	鶴岡工業高等学校	山形県
27	東北文教大学 山形城北高等学校	山形県
28	山形明正高等学校	山形県
29	九里学園高等学校	山形県
30	米沢中央高等学校	山形県
31	慊山高等学校	山形県
32	山形学院高等学校	山形県
33	帝京安積高等学校	福島県
34	平工業高等学校	福島県
35	会津農林高等学校	福島県
36	福島北高等学校	福島県
37	白河旭高等学校	福島県
38	あさか開成高等学校	福島県
39	相馬総合高等学校	福島県
40	福島東稜高等学校	福島県
41	小高産業技術高等学校	福島県
42	いわき総合高等学校	福島県
43	国際アート＆デザイン大学校高等課程	福島県
44	日々輝学園高等学校	栃木県
45	藤岡中央高等学校	群馬県
46	明聖高等学校	千葉県
47	千葉黎明高等学校	千葉県
48	日本体育大学柏高等学校	千葉県
49	関東国際高等学校	東京都
50	向上高等学校	神奈川県
51	横浜創学館高等学校	神奈川県
52	横浜清風高等学校	神奈川県
53	クラーク記念国際高等学校横浜青葉キャンパス	神奈川県

No.	高校名	所在地
54	おおぞら高等学院新潟キャンパス	新潟県
55	阿賀黎明高等学校	新潟県
56	西新発田高等学校	新潟県
57	豊栄高等学校	新潟県
58	分水高等学校	新潟県
59	中条高等学校	新潟県
60	見附高等学校	新潟県
61	柏崎工業高等学校	新潟県
62	巻総合高等学校	新潟県
63	加茂高等学校	新潟県
64	柏崎総合高等学校	新潟県
65	五泉高等学校	新潟県
66	新潟東高等学校	新潟県
67	東京学館新潟高等学校	新潟県
68	新潟青陵高等学校	新潟県
69	中越高等学校	新潟県
70	村上桜ヶ丘高等学校	新潟県
71	新潟西高等学校	新潟県
72	小出高等学校	新潟県
73	開志学園高等学校	新潟県
74	JAPANサッカーカレッジ高等部	新潟県
75	白根高等学校	山梨県
76	吉田高等学校	山梨県
77	長野女子高等学校	長野県
78	長野工業高等学校	長野県
79	長野南高等学校	長野県
80	松本筑摩高等学校	長野県
81	梓川高等学校	長野県
82	伊那西高等学校	長野県
83	上伊那農業高等学校	長野県
84	中野西高等学校	長野県
85	岡谷工業高等学校	長野県
86	上田染谷丘高等学校	長野県
87	加茂農林高等学校	岐阜県
88	光南高等学校	岡山県
89	南陽高等学校	山口県
90	筑紫女学園高等学校	福岡県

開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 科〔通信教育課程〕 (仮称) 設置構想に関するアンケート

このアンケート調査は、学校法人新潟総合学園が2026年4月に設置を計画する「開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕」(学部学科名称は全て仮称、以下同)の計画に関する基礎資料とするためのものです。

学校法人新潟総合学園では、このアンケート調査を通して、皆さんからご意見をお聞きし、計画内容に反映したいと考えています。

なお、このアンケートの結果は、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開することはありません。また、回答した内容によって、入学に影響を及ぼすことは一切ありません。

(概要については現在構想中であり、変更の可能性あります)

*あなたの性別をお答えください。

⑦ 回答を 1 つ選択

「ご自由にお書きください」を選ぶ際は、以下の欄にご自身で記入してください。

☐ 男性

☐ 女性

☐ ご自由にお書きください

☐ 回答しない

*あなたの年代をお答えください。

⑦ 回答を 1 つ選択

☐ 15～19歳

☐ 20～24歳

☐ 25～29歳

☐ 30～34歳

☐ 35～39歳

☐ 40～44歳

☐ 45～49歳

☐ 50～54歳

☐ 55～59歳

☐ 60歳以上

↑
本調査対象者条件
↓

*現在住んでいる都道府県をお答えください。

⑦ 回答を 1 つ選択

選択してください... ▼

スクリーニング調査<社会人(1年次)>

*職業をお答えください。

② 回答を1つ選択

- ☐ 会社員
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 会社役員・管理職
- ☐ 公務員・団体職員
- ☐ 派遣・契約社員
- ☐ 自営業
- ☐ 自由業・専門職
- ☐ 無職
- ☐ 専業主婦・専業主夫
- ☐ 専門学校生・短期大学生・大学生・大学院生
- ☐ 高校生 [<本調査対象外>](#)
- ☐ その他

*就業先の業種をお答えください。

② 回答を1つ選択

- ☐ 農業・林業・漁業・鉱業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 出版・印刷関連産業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 運送・輸送業
- ☐ 旅行業
- ☐ 電気通信業
- ☐ 卸売・小売業
- ☐ 飲食店
- ☐ 金融業
- ☐ 保険業
- ☐ 不動産
- ☐ サービス業
- ☐ 放送業
- ☐ ソフトウェア・情報サービス業
- ☐ 調査・広告代理業
- ☐ 医療業
- ☐ 協同組合・教育関連・公務員
- ☐ その他

スクリーニング調査<社会人(1年次)>

*あなたは高校卒業以上、もしくは大学入学資格（高卒認定試験、旧大検）をお持ちですか？

② 回答を1つ選択

- ☐ 高校卒業以上、もしくは大学入学資格を持っている
- ☐ 上記にあてはまらない

↑本調査対象者条件

*あなたは、キャリアアップや資格取得のための自己学習をしていますか。またはしたいと思っていますか。

② 回答を1つ選択

- ☐ すでに自己学習をしている
- ☐ これから自己学習をしようと思っている
- ☐ 自己学習をする準備（資料請求など）をしている
- ☐ 興味はあるが、時間・費用などの点で迷っている
- ☐ 興味はあるが、あえて自己学習をしようとは思っていない
- ☐ キャリアアップや資格取得には興味がない

↑本調査対象者条件

前問 = 5/6回答者のうち

*あなたは、インターネットによる通信教育で学んだことがありますか。またはインターネットによる通信教育で学ぶことに興味がありますか。（回答は1つ）

② 回答を1つ選択

- ☐ 学んだことがある
- ☐ 学びたいと思っている
- ☐ 学んだことはないが、大いに興味はある
- ☐ 学んだことはないが、ある程度興味はある
- ☐ 学んだことはなく、あまり興味もない
- ☐ インターネットによる通信教育には全く興味がない

↑本調査対象者条件

本調査<社会人(1年次)>

あなたが、これからキャリアアップや資格取得のための自己学習などでインターネットによる通信教育で学ぶ場合、どのような教育機関で学ぶことを考えますか。(回答はいくつでも)

② 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 大学
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門職大学
- ☐ 専門職短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 学校以外の社会通信教育機関(民間企業の通信教育講座など)

* あなたの、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(回答はいくつでも)

② 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 私立
- ☐ 国立
- ☐ 公立

* あなたの、学びたいと考えている興味のある学問分野を以下の中から選択してください。(回答はいくつでも)

② 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 【工学】電気通信工学
- ☐ 【工学】経営工学
- ☐ 【工学】その他(情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など)
- ☐ 【工学】機械工学、土木建築工学、応用化学
- ☐ 【理学】数学・物理学・化学・生物学
- ☐ 【農学】農学・水産学
- ☐ 【人文科学】文学・哲学・史学
- ☐ 【社会科学】法学・政治学・商学・経済学・社会学
- ☐ 【保健】医学・歯学・薬学・看護学
- ☐ 【家政】家政学・食物学・被服学
- ☐ 【教育】教育学・教員養成
- ☐ 【芸術】美術・デザイン・音楽
- ☐ 【その他】教養学・国際学など
- ☐ あてはまるものはない

本調査<社会人(1年次)>

*あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。（回答は1つ）

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 第一志望として受験する
- ☐ 第二志望として受験する
- ☐ 第三志望以降として受験する
- ☐ 受験しない

*あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（回答は1つ）

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ 入学しない

*あなたが、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）への入学を希望するのは、いつですか。（回答は1つ）

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 2026年年度
- ☐ 2027年年度
- ☐ 2028年年度
- ☐ それ以降

*開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）への受験や入学意向を尋ねるアンケートに2024年11月以降に回答したことはありますか。

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ ない（今回が初めて）
- ☐ ある



アンケートはこれで終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

スクリーニング調査票<OC参加者・資料請求者>

開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学 科〔通信教育課程〕（仮称）設置構想に関するア ンケート

学校法人新潟総合学園では2026年4月に「開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕」（仮称）を設置することを構想しています。
このアンケートを通して、みなさんからご意見をお聞きして、新設組織の構想をより充実させたいと考えております。

※途中で表示される「開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕」（仮称）の情報をよくご理解いただいた上でご回答をお願いします。

なお、このアンケートに回答いただいたみなさんから得られた情報は、開志創造大学の設置構想に係る統計資料としてのみ使用し、個人を特定するようなことはありません。また、回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。

ぜひみなさんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※本アンケートのご案内を受け取った方のみが対象です（回答はおひとり1回まで）。また、アンケートは調査実施者により予告なく終了となる場合がありますのであらかじめご了承ください。

※回答は5分程度で終了します。回答途中のどの設問でも画面右上の「あとで続きをする」から、途中回答データの保存ができ、離脱したところから回答を再開できます。

※このアンケート調査は、学校法人新潟総合学園から委託された第三者機関（株式会社アンド・ディ）が実施いたします。

☐ 私は「[プライバシーポリシー](#)」に同意した上で回答します。

次へ

*あなたの性別をお答えください。

⑦ 回答を 1 つ選択

「ご自由にお書きください」を選ぶ際は、以下の欄にご自身で記入してください。

☐ 男性

☐ 女性

☐ ご自由にお書きください

☐ 回答しない

*あなたの年代をお答えください。

⑦ 回答を 1 つ選択

☐ 15～19歳

☐ 20～24歳

☐ 25～29歳

☐ 30～34歳

☐ 35～39歳

☐ 40～44歳

☐ 45～49歳

☐ 50～54歳

☐ 55～59歳

☐ 60歳以上

*現在住んでいる都道府県をお答えください。

⑦ 回答を 1 つ選択

選択してください... ▼

調査票＜OC参加者・資料請求者＞

*職業をお答えください。

※社会人・高校生とも対象

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 会社員
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 会社役員・管理職
- ☐ 公務員・団体職員
- ☐ 派遣・契約社員
- ☐ 自営業
- ☐ 自由業・専門職
- ☐ 無職
- ☐ 専業主婦・専業主夫
- ☐ 専門学校生・短期大学生・大学生・大学院生
- ☐ 高校生
- ☐ その他

*就業先の業種をお答えください。

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 農業・林業・漁業・鉱業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 出版・印刷関連産業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 運送・輸送業
- ☐ 旅行業
- ☐ 電気通信業
- ☐ 卸売・小売業
- ☐ 飲食店
- ☐ 金融業
- ☐ 保険業
- ☐ 不動産
- ☐ サービス業
- ☐ 放送業
- ☐ ソフトウェア・情報サービス業
- ☐ 調査・広告代理業
- ☐ 医療業
- ☐ 協同組合・教育関連・公務員
- ☐ その他

調査票＜OC参加者・資料請求者＞

*あなたは高校卒業以上、もしくは大学入学資格（高卒認定試験、旧大検）をお持ちですか？

👉 回答を1つ選択

- ☐ 高校卒業以上、もしくは大学入学資格を持っている
- ☐ 上記にあてはまらない

↑本調査対象者条件

*あなたは、キャリアアップや資格取得のための自己学習をしていますか。またはしたいと思っていますか。

👉 回答を1つ選択

- ☐ すでに自己学習をしている
- ☐ これから自己学習をしようと思っている
- ☐ 自己学習をする準備（資料請求など）をしている
- ☐ 興味はあるが、時間・費用などの点で迷っている
- ☐ 興味はあるが、あえて自己学習をしようとは思っていない
- ☐ キャリアアップや資格取得には興味がない

↑本調査対象者条件

前問 = 5/6回答者のうち

*あなたは、インターネットによる通信教育で学んだことがありますか。またはインターネットによる通信教育で学ぶことに興味がありますか。（回答は1つ）

👉 回答を1つ選択

- ☐ 学んだことがある
- ☐ 学びたいと思っている
- ☐ 学んだことはないが、大いに興味はある
- ☐ 学んだことはないが、ある程度興味はある
- ☐ 学んだことはなく、あまり興味もない
- ☐ インターネットによる通信教育には全く興味がない

↑本調査対象者条件

調査票＜OC参加者・資料請求者＞

*あなたが、これからキャリアアップや資格取得のための自己学習などでインターネットによる通信教育で学ぶ場合、どのような教育機関で学ぶことを考えますか。（回答はいくつでも）

⑦ 該当するもの**全て**にチェックを入れてください。

- ☐ 大学
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門職大学
- ☐ 専門職短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 学校以外の社会通信教育機関（民間企業の通信教育講座など）

*希望進路で「大学（4年制・6年制）」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」を選択した方に質問です。

志望する大学の種類を教えてください。

⑦ 該当するもの**全て**にチェックを入れてください。

- ☐ 私立
- ☐ 国立
- ☐ 公立

*あなたの、学びたいと考えている興味のある学問分野を以下の中から選択してください。（回答はいくつでも）

⑦ 該当するもの**全て**にチェックを入れてください。

- ☐ 【工学】電気通信工学
- ☐ 【工学】経営工学
- ☐ 【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）
- ☐ 【工学】機械工学、土木建築工学、応用化学
- ☐ 【理学】数学・物理学・化学・生物学
- ☐ 【農学】農学・水産学
- ☐ 【人文科学】文学・哲学・史学
- ☐ 【社会科学】法学・政治学・商学・経済学・社会学
- ☐ 【保健】医学・歯学・薬学・看護学
- ☐ 【家政】家政学・食物学・被服学
- ☐ 【教育】教育学・教員養成
- ☐ 【芸術】美術・デザイン・音楽
- ☐ 【その他】教養学・国際学など
- ☐ あてはまるものはない

次に表示される資料をよく読んでから、以降の質問にご回答ください。

調査票＜OC参加者・資料請求者＞

開志創造大学情報デザイン学部情報デザイン学科〔通信教育課程〕（仮称・設置構想中）についてお聞きます。

*あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕（仮称・設置構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。（回答は1つ）

② 回答を1つ選択

- ☐ 第一志望として受験する
- ☐ 第二志望として受験する
- ☐ 第三志望以降として受験する
- ☐ 受験しない

*「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択した方に質問です。

あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕（仮称・設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（回答は1つ）

② 回答を1つ選択

- ☐ 入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ 入学しない

*あなたが、開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕（仮称・設置構想中）への入学を希望するのは、いつですか。（回答は1つ）

② 回答を1つ選択

- ☐ 2026 年度
- ☐ 2027 年度
- ☐ 2028 年度
- ☐ それ以降

調査票<OC参加者・資料請求者>

*以下のうち、あなたについてあてはまるものをお選びください。（回答は1つ）

🔍 回答を1つ選択

- ☐ 「大学院」修了
- ☐ 「大学・専門職大学」卒業・修了
- ☐ 「短大・専門職短期大学」卒業・修了
- ☐ 「高等専門学校」卒業・修了
- ☐ 「専門学校」卒業・修了
- ☐ 「高等学校の専門科」卒業・修了
- ☐ 大学、または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得
- ☐ あてはまるものはない

*開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]（仮称・設置構想中）への受験や入学意向を尋ねるアンケートに回答したことはありますか。

🔍 回答を1つ選択

- ☐ 今回が初めて
- ☐ 以前にも回答した



アンケートはこれで終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

開志創造大学 御中

開志創造大学 情報デザイン学部
情報デザイン学科
[通信教育課程]
(仮称・設置構想中)
学生確保アンケート調査

【2026年設置：社会人・高校生の1年次入学意向】

調査結果報告書

2025年2月

株式会社リクルート

株式会社アンド・ディ

2

3

4

5

6

7

9

- 入学意向者数：1年次入学
- 入学意向まとめ <高校生>
- 入学意向まとめ <社会人>
- 単純集計：1年次入学<高校生>
- 単純集計：1年次入学<社会人>

調査目的

2026年4月1年次入学、2028年4月3年次編入）の設置について、周辺エリアに所在する高校の2年生および全国の社会人に受験意向・入学意向をアンケート調査し、学生確保の見通しを確認する。

<社会人対象>

調査方法	大学保有リスト調査	オンライン大学説明会調査	社会人Webモニタ調査
	資料請求者に対し、DMで調査を依頼し、WEB画面にて回答	オンライン大学説明会への参加者に対し、情報デザイン学部情報デザイン学科に関する説明を行ったうえで、WEB画面にて回答	一般のインターネットパネルを利用した調査
調査対象	大学への資料請求者のうち、社会人	オンライン大学説明会に参加した社会人	20～59歳の高校卒業以上の学生・社会人
調査期間	2024年12月～2025年2月	2024年12月～2025年2月	2024年12月
有効回答数 スクリーニング調査 本調査	190件 146件 ※本調査は重複回答を除く	20件 17件 ※本調査は重複回答を除く	486,838件 240,288件 ※本調査は重複回答を除く
調査機関	株式会社アンド・ディ		
報告書作成	株式会社リクルート、株式会社アンド・ディ		

<高校生対象>

調査方法	大学保有リスト調査	オンライン大学説明会調査	高校留置調査
	資料請求者に対し、DMで調査を依頼し、WEB画面にて回答	オンライン大学説明会への参加者に対し、情報デザイン学部情報デザイン学科に関する説明を行ったうえで、WEB画面にて回答	調査対象校に事前に調査協力を依頼し、応諾を得た対象校へ調査票・リーフレットを送付、ホームルームなどで配布・回収
調査対象	大学への資料請求者のうち、高校生2年生	オンライン大学説明会に参加した高校2年生	情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]への進学が想定される高校2年生
調査期間	2024年12月～2025年2月	2024年12月～2025年2月	2024年12月
有効回答数	145件 ※重複回答を除く	26件 ※重複回答を除く	9,088件 ※重複回答を除く

▶新設組織の概要

- 情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]
 - 1年次 入学定員 800名 ※2026年開設
 - 3年次 編入学定員 200名 ※2028年開設

<調査結果>

入学意向者数：1年次入学

- ・ **情報デザイン学部情報デザイン学科〔通信教育課程〕（1年次入学定員800名）への受験・入学意向者は977人。**

＜高校生調査＞ 高校卒業後に大学進学を希望する5,267人のうち

- ・ 上記のうち、希望する大学の設置者で「私立」を選択したのは4,366人であった。
- ・ また、興味のある学問分野を複数回答で尋ねたところ、情報デザイン学部情報デザイン学科の関連分野である「【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）」を選択したのは583人であった。
- ・ さらに、情報デザイン学部情報デザイン学科への受験意向を尋ねたところ、「第一志望として受験する」と回答したのは67人、入学意向を尋ねたところ、「入学する」と回答したのは**64人**であった。

＜社会人調査＞大学入学資格があり、かつキャリアアップや資格取得のための自己学習の経験者または意向者240,451人のうち、学習のために今後大学（通信教育）への進学を希望する者は78,244人

- ・ 上記のうち、希望する大学の設置者で「私立」を選択したのは62,630人であった。
- ・ また、興味のある学問分野を複数回答で尋ねたところ、環境デザイン学部環境デザイン学科の関連分野である「【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）」を選択したのは10,127人であった。
- ・ さらに、情報デザイン学部情報デザイン学科への受験意向を尋ねたところ、「第一志望として受験する」と回答したのは2,551人。入学意向を尋ねたところ、2026年に「入学する」と回答したのは**913人**であった。

- ・ **以上の通り、高校生と社会人を合計すると、全体では977人が情報デザイン学部情報デザイン学科の受験・入学意向を示しており、入学定員（800名）を上回った。**

※表内の（％）は「全体」に対する割合

全体 有効回答 数	大学入学 資格 (※1)	自己学習 経験・意向 あり (※2)	大学 進学希望 (※3)	私立希望	関連分野 希望 (※4)	受験意向(志望度別) 構成比	入学する (入学意向者数) (※5) 構成比	入学 意向者 合計	入学定員	
487,048人	410,463人 (84.3%)	240,451人 (49.4%)	78,244人 (16.1%)	62,630人 (12.9%)	10,127人 (2.1%)	第一志望として受験する	2,551人 38.4%	913人 67.6%	977人	800名
						第二志望として受験する	2,006人 30.2%	241人 17.8%		
						第三志望として受験する	2,084人 31.4%	197人 14.6%		
						受験意向あり	6,641人 (1.4%)	1,351人 (0.3%)		
						※2026年入学希望者のみ				
9,259人	※高校卒業予定者のため全員	※条件なし	5,267人 (56.9%)	4,366人 (47.2%)	583人 (6.3%)	第一志望として受験する	67人 23.6%	64人 25.2%	977人	800名
						第二志望として受験する	67人 23.6%	48人 18.9%		
						第三志望として受験する	150人 52.8%	142人 55.9%		
						受験意向あり	284人 (3.1%)	254人 (2.7%)		

※1：大学入学資格

「高校卒業以上、もしくは大学入学資格を持っている」と回答した者

※2：自己学習経験・意向あり

これまでにキャリアアップや資格取得のための自己学習をしたことがあるか、今後学びたいと考えている者

※3：大学進学希望

これからのキャリアアップや資格取得のための自己学習でインターネットによる通信教育で学ぶ場合に利用したい教育機関について「大学」と回答した者／かつ新設組織のアンケートにこれまでに回答したことがない者

※4：「情報デザイン学部情報デザイン学科」の関連分野

【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）

※5：編入学意向者（2028年）

「第一志望として受験する」層のうち「入学する」、「第二志望として受験する」と第三志望以降として受験する層のうち「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者を意向者とした

入学意向者まとめ <社会人>

・ 第一志望受験の入学意向者についてプロフィールを確認すると、

- ・ 性別をみると、第一志望受験の入学意向者913人のうち、男性が636人、女性が270人と、男性の方が人数が多い。
- ・ 年齢は40～49歳が269人で最も多いものの、30代から50代がいずれも250人前後となっており、幅広い年代で意向があることがわかる。
- ・ 居住エリアは、南関東が最も多く396人、次いで関西138人が多い。
- ・ 就業状況別にみると、就業者が864人に上っており、現在就業中の社会人が94.6%を占める。
- ・ また、業種別にみると、ソフトウェア・情報サービス業の従事者が75名、それ以外の業種が合計で567人となっている。

<社会人>		性別			年代				居住地										居住地			調査手法			
		男性	女性	その他・不明	20代	30代	40代	50代	甲信越					北海道	東北	北関東	南関東	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	大学保有リスト調査	オンライン調査	社会人ウェビナー
情報デザイン学部 情報デザイン学科					20代 0人	30代 0人	40代 0人	50代 0人																	
調査数					29人	39人	49人	59人		新潟	山梨	長野													
2026年・1年次入学意向者	N 1351	943	393	15	211	316	416	408	36	21	6	9	50	78	73	590	18	128	206	71	101	32	7	1312	
	%	69.8	29.1	1.1	15.6	23.4	30.8	30.2	2.7	1.6	0.4	0.7	3.7	5.8	5.4	43.7	1.3	9.5	15.2	5.3	7.5	2.4	0.5	97.1	
入学意向者（第一志望受験）	N 913	636	270	7	157	238	269	249	18	13	2	3	36	54	50	396	11	91	138	51	68	26	5	882	
	%	69.7	29.6	0.8	17.2	26.1	29.5	27.3	2.0	1.4	0.2	0.3	3.9	5.9	5.5	43.4	1.2	10.0	15.1	5.6	7.4	2.8	0.5	96.6	
条件付き入学意向者（第二志望受験）※1	N 241	166	72	3	33	50	72	86	12	5	2	5	9	11	10	110	5	23	34	8	19	5	1	235	
	%	68.9	29.9	1.2	13.7	20.7	29.9	35.7	5.0	2.1	0.8	2.1	3.7	4.6	4.1	45.6	2.1	9.5	14.1	3.3	7.9	2.1	0.4	97.5	
条件付き入学意向者（第三志望受験）※1	N 197	141	51	5	21	28	75	73	6	3	2	1	5	13	13	84	2	14	34	12	14	1	1	195	
	%	71.6	25.9	2.5	10.7	14.2	38.1	37.1	3.0	1.5	1.0	0.5	2.5	6.6	6.6	42.6	1.0	7.1	17.3	6.1	7.1	0.5	0.5	99.0	

<社会人>		就業状況・業種				希望する学校の設置者			関心のある分野																		
		就業者・その他・計	ソフトウェア・情報サービス業	上記以外の業種・計	非就業者・計	私立	国立	公立	【工学】その他	【工学】電気通信工学	【工学】経営工学	薬工学、応用化学、土木建築	【工学】機械工学、土木建築	【理学】数学・物理学・化学・生物学	【農学】農学・水産学	【史学】文学・哲学・社会学	【社会科学】法学・政治学・経済学・社会学	【保健】医学・歯学・薬学・看護学	被服学	【家政】家政学・食物学・栄養学	【教育】教育学・教員養成	音楽	【芸術】美術・デザイン・演劇	など	【その他】教養学・国際学	あてはまるものはない	
情報デザイン学部 情報デザイン学科		調査数																									
2026年・1年次入学意向者 N 1351		1273	124	824	78	1351	989	848	1351	460	449	387	324	289	309	454	274	254	244	370	272	0					
%		94.2	9.2	61.0	5.8	100.0	73.2	62.8	100.0	34.0	33.2	28.6	24.0	21.4	22.9	33.6	20.3	18.8	18.1	27.4	20.1	—					
入学意向者（第一志望受験） N 913		864	75	567	49	913	659	559	913	370	346	312	266	228	255	325	222	210	202	281	206	0					
%		94.6	8.2	62.1	5.4	100.0	72.2	61.2	100.0	40.5	37.9	34.2	29.1	25.0	27.9	35.6	24.3	23.0	22.1	30.8	22.6	—					
条件付き入学意向者（第二志望受験）※1 N 241		226	28	135	15	241	172	139	241	48	52	45	29	30	27	63	24	23	25	49	28	0					
%		93.8	11.6	56.0	6.2	100.0	71.4	57.7	100.0	19.9	21.6	18.7	12.0	12.4	11.2	26.1	10.0	9.5	10.4	20.3	11.6	—					
条件付き入学意向者（第三志望受験）※1 N 197		183	21	122	14	197	158	150	197	42	51	30	29	31	27	66	28	21	17	40	38	0					
%		92.9	10.7	61.9	7.1	100.0	80.2	76.1	100.0	21.3	25.9	15.2	14.7	15.7	13.7	33.5	14.2	10.7	8.6	20.3	19.3	—					

※1：条件付き入学意向者：各志望順位での受験意向があり、かつ「志望順位が上位の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者

※2：新設組織の関連分野『【工学】その他』は、調査票上では『【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）』として提示

※表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

入学意向まとめ＜高校生＞

・ 第一志望受験の入学意向者についてプロフィールを確認すると、

- ・ 性別をみると、第一志望受験の入学意向者64人のうち、男性が40人、女性が22人と、男性の方が人数が多い。
- ・ 高校所在地は、学部設置予定地である新潟県が最も多く、次いで東北が多い。

＜高校生＞		性別			高校所在地														調査手法			
		男性	女性	その他・不明	甲信越	新潟	山梨	長野	北海道	東北	北関東	南関東	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	その他・不明	調査大学保有リスト調	明会調査	オンライン大学説	高校留置調査
情報デザイン学部 情報デザイン学科		調査数																				
入学意向者・計	N 254	177	70	7	126	97	0	29	1	80	8	39	0	0	0	0	0	0	14	2	238	
	%	69.7	27.6	2.8	49.6	38.2	—	11.4	0.4	31.5	3.1	15.4	—	—	—	—	—	—	5.5	0.8	93.7	
入学意向者 (第一志望受験)	N 64	40	22	2	53	52	0	1	0	9	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	62	
	%	62.5	34.4	3.1	82.8	81.3	—	1.6	—	14.1	—	3.1	—	—	—	—	—	—	1.6	1.6	96.9	
条件付き入学意向者 (第二志望受験) ※1	N 48	38	10	0	15	11	0	4	0	24	1	8	0	0	0	0	0	0	3	1	44	
	%	79.2	20.8	—	31.3	22.9	—	8.3	—	50.0	2.1	16.7	—	—	—	—	—	—	6.3	2.1	91.7	
条件付き入学意向者 (第三志望以降受験) ※1	N 142	99	38	5	58	34	0	24	1	47	7	29	0	0	0	0	0	0	10	0	132	
	%	69.7	26.8	3.5	40.8	23.9	—	16.9	0.7	33.1	4.9	20.4	—	—	—	—	—	—	7.0	—	93.0	

＜高校生＞		希望する学校の設置者			関心のある分野															
		私立	国立	公立	【工学】	【工学】	【工学】	【工学】	【理学】	【農学】	【人文科学】	【社会科学】	【保健】	【家政】	【教育】	音楽	【芸術】	【その他】	あてはまるものはない	
					その他	電気通信工学	経営工学	機械工学、土木建築工学、応用化学	数学・物理学・化学・生物学	農学・水産学	文学・哲学・史学	法学・政治学・社会学・経済学	医学・歯学・薬学・看護学	家政学・食物学・被服学	教育学・教員養成	美術・デザイン・	教養学・国際学			
情報デザイン学部 情報デザイン学科		調査数																		
入学意向者・計	N 254	254	85	119	254	48	45	37	25	11	18	32	24	10	17	44	12	0		
	%	100.0	33.5	46.9	100.0	18.9	17.7	14.6	9.8	4.3	7.1	12.6	9.4	3.9	6.7	17.3	4.7	—		
入学意向者 (第一志望受験)	N 64	64	14	21	64	15	18	13	8	4	4	9	11	6	9	7	8	0		
	%	100.0	21.9	32.8	100.0	23.4	28.1	20.3	12.5	6.3	6.3	14.1	17.2	9.4	14.1	10.9	12.5	—		
条件付き入学意向者 (第二志望受験) ※1	N 48	48	14	23	48	12	8	7	3	2	5	4	4	1	4	7	0	0		
	%	100.0	29.2	47.9	100.0	25.0	16.7	14.6	6.3	4.2	10.4	8.3	8.3	2.1	8.3	14.6	—	—		
条件付き入学意向者 (第三志望以降受験) ※1	N 142	142	57	75	142	21	19	17	14	5	9	19	9	3	4	30	4	0		
	%	100.0	40.1	52.8	100.0	14.8	13.4	12.0	9.9	3.5	6.3	13.4	6.3	2.1	2.8	21.1	2.8	—		

※1：条件付き入学意向者：各志望順位での受験意向があり、かつ「志望順位が上位の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者

※2：新設組織の関連分野『【工学】その他』は、調査票上では『【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）』として提示

※表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE_高01

単純集計：1年次入学＜社会人＞①

▶スクリーニング調査の有効回答(487,048件)の単純集計

■調査種別

A1. 調査種別

【全体／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		大学保有リスト 調査	オンライン大学 説明会調査	社会人We bモ ニタ調査
全体 (n=487048)	N	190	20	486838
	%	0.0	0.0	100.0

■性別

SC1. あなたの性別をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		男性	女性	その他	回答しない
全体 (n=487048)	N	239219	238058	1192	8579
	%	49.1	48.9	0.2	1.8

■年代

SC2. あなたの年代をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
全体 (n=487048)	N	22463	33242	43272	54408	68736	81189	99686	84052
	%	4.6	6.8	8.9	11.2	14.1	16.7	20.5	17.3

■居住エリア

SC3. 現在住んでいる都道府県をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		甲信越	新潟	山梨	長野	北海道	東北	北関東	南関東	北陸	東海	関西	中国・ 四国	九州・ 沖縄
全体 (n=487048)	N	15592	7476	2262	5854	22912	30471	23772	159398	9824	59133	85194	38007	42562
	%	3.2	1.5	0.5	1.2	4.7	6.3	4.9	32.7	2.0	12.1	17.5	7.8	8.7

■職業

SC4. 職業をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		会社員	パート・ア ルバイト	会社役 員・管 理職	公務 員・団 体職員	派遣・ 契約社 員	自営業	自由 業・専 門職	無職	専業主 婦・専 業主夫	専門学 校生・ 短期大 学生・	高校生	その他
全体 (n=487048)	N	217902	83704	13295	28416	23048	17625	15202	28705	41759	8997	0	8395
	%	44.7	17.2	2.7	5.8	4.7	3.6	3.1	5.9	8.6	1.8	—	1.7

■就業先の業種

SC5. 就業先の業種をお答えください。

【就業先／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		業・農・建設業	業・林・製造業	業・漁	業・出版・印刷関連	業・供給・水道・ガス・熱	業・運送・輸送業	業・旅行業	業・電気通信業	業・卸売・小売業	業・飲食店	業・金融業	業・保険業	業・不動産	業・サービス業	業・放送業	業・情報サービス業	業・調査・広告代理	業・医療業	業・関連・公務員・教育	業・協同組合・その他・不明
就業者 (n=365867)	N	4234	20362	59741	3247	5703	22861	1495	4040	38565	11327	8056	5494	6270	47580	1165	16689	2612	31153	32465	42808
	%	1.2	5.6	16.3	0.9	1.6	6.2	0.4	1.1	10.5	3.1	2.2	1.5	1.7	13.0	0.3	4.6	0.7	8.5	8.9	11.7

表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

単純集計：1年次入学＜社会人＞②

▶スクリーニング調査の有効回答（487,048件）の単純集計

■大学3年次への編入資格の有無

SC8. あなたは高校卒業以上、もしくは大学入学資格（高卒認定試験、旧大検）をお持ちですか？

【社会人／単一回答】		<社会人・1年次入学に関する調査>	
		高校卒業以上、もしくは大学入学資格を持っている	上記にあてはまらない
全体 (n=478051)	N	410463	67588
	%	85.9	14.1

※社会人：大学生・専門学校生を除く全体

■キャリアアップ・資格取得のための自己学習実態・意向

SC9. あなたは、キャリアアップや資格取得のための自己学習をしていますか。またはしたいと思っていますか。

【大学入学有資格者／単一回答】		<社会人・1年次入学に関する調査>					
		すでに自己学習をしている	これから自己学習しようと思っている	自己学習をする準備（資料請求など）をしている	興味はあるが、時間・費用などの点で迷っている	興味はあるが、あえて自己学習をしようとは思っていない	キャリアアップや資格取得には興味がない
全体 (n=410463)	N	72436	32272	9059	90780	66530	139386
	%	17.6	7.9	2.2	22.1	16.2	34.0

■インターネットでの学習意向

SC10. あなたは、インターネットによる通信教育で学んだことがありますか。またはインターネットによる通信教育で学ぶことに興味がありますか。（回答は1つ）

【自己学習への低関心層／単一回答】		<社会人・1年次入学に関する調査>					
		学んだことがある	学びたいと思っている	学んだことはないが、大いに興味はある	学んだことはないが、ある程度興味はある	学んだことはなく、あまり興味もない	インターネットによる通信教育には全く興味がない
自己学習への低関心層 (n=205916)	N	13464	2841	4258	27368	56046	101939
	%	6.5	1.4	2.1	13.3	27.2	49.5

▶ 本調査の有効回答（240,451件）の単純集計

※本調査の集計は、これまでにキャリアアップや資格取得のための自己学習の経験がある・または今後学びたいと考えている者 かつ 本アンケートへの回答経験のない者のみで集計

■アンケートへの回答経験

Q9. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）への受験や入学意向を尋ねるアンケートに2024年11月以降に回答したことはありますか。

【全体／単一回答】 <社会人・1年次入学に関する調査>

		ない（今回が初めて）	ある
全体	(n=240451)	N 240451	0
		% 100.0	—

■利用したい教育機関

Q1. あなたが、これからキャリアアップや資格取得のための自己学習などでインターネットによる通信教育で学ぶ場合、どのような教育機関で学ぶことを考えますか。（回答はいくつでも）

【全体／複数回答】 <社会人・1年次入学に関する調査>

		大学	短期大学	専門職大学	専門職短期大学	専門学校	学校以外の社会通信教育機関（民間企業の通信教育講座など）	あてはまるものはない
全体	(n=240451)	N 78244	10504	17753	8346	35837	157817	4815
		% 32.5	4.4	7.4	3.5	14.9	65.6	2.0

■希望する設置者

Q2. あなたの、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（回答はいくつでも）

【大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者／複数回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		私立	国立	公立
大学・短期大学・専門職大学・ 専門職短期大学進学希望者	(n=89607)	N 68350	45367	35380
		% 76.3	50.6	39.5

■興味のある学問分野

Q3. あなたの、学びたいと考えている興味のある学問分野を以下の中から選択してください。（回答はいくつでも）

【大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者／複数回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		【工学】その他※1	【工学】電気通信工	【工学】経営工学	土木建築工学、機械工学、応用	【理学】化学・数学・生物学・物理学	【農学】農学・水産	【人文科学】文学・史学	【政治・社会科学】法学・経済学	【保健】医学・看護学・歯学	【家政】家政学・食物学・被服学	【教育】教育学・教員養成	【芸術】美術・音楽・イン・デザイン	【その他】国際学など	いあてはまるものはな	
大学・短期大学・専門職大学・ 専門職短期大学進学希望者	(n=89607)	N	13878	7376	6969	7570	5609	5739	10461	18329	11363	7128	9422	10100	10331	18779
		%	15.5	8.2	7.8	8.4	6.3	6.4	11.7	20.5	12.7	8.0	10.5	11.3	11.5	21.0

※1：新設組織の関連分野「【工学】その他」は、調査票上では「【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）」として提示

単純集計：1年次入学＜社会人＞④

▶ 本調査の有効回答（240,451件）の単純集計

※本調査の集計は、これまでにキャリアアップや資格取得のための自己学習の経験がある・または今後学びたいと考えている者 かつ 本アンケートへの回答経験のない者のみで集計

■受験意向（2026年開設・1年次入学に関して）

Q4. あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]（仮称・設置構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。（回答は1つ）

【大学進学希望者／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		第一志望として受験する	第二志望として受験する	第三志望以降として受験する	受験しない
大学進学希望者	(n=78244)	N 13702	10607	12790	41145
	%	17.5	13.6	16.3	52.6

■入学意向（2026年開設・1年次入学に関して）

Q5. あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]（仮称・設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（回答は1つ）【受験意向者ベース】

【大学進学希望者かつ受験意向者／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
大学進学希望者かつ受験意向者	(n=37099)	N 12792	21538	2769
	%	34.5	58.1	7.5

■入学意向（2026年開設・1年次入学に関して）

Q6. あなたが、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]（仮称・設置構想中）への入学を希望するのは、いつですか。（回答は1つ）【受験意向者かつ入学意向者ベース】

【受験意向者かつ入学意向者／単一回答】

<社会人・1年次入学に関する調査>

		2026年度	2027年度	2028年度	それ以降
受験意向者かつ入学意向者	(n=34330)	N 7743	9544	5000	12043
	%	22.6	27.8	14.6	35.1

単純集計：1年次入学＜高校生＞①

▶有効回答(9,259件)の単純集計

■調査種別

A1. 調査種別

【全体／単一回答】

		大学保有リスト 調査	オンライン大学 説明会調査	高校留置調査
全体 (n=9259)	N	145	26	9088
	%	1.6	0.3	98.2

■性別

F1. あなたの性別をお答えください。(ひとつに○)

【全体／単一回答】

		男性	女性	その他	回答しない	無回答
全体 (n=9259)	N	4439	4536	22	252	10
	%	47.9	49.0	0.2	2.7	0.1

■高校所在地

F5. 高校所在地

【全体／単一回答】

		甲信越	新潟	山梨	長野	北海道	東北	北関東	南関東	北陸	東海	関西	中国・ 四国	九州・ 沖縄	その 他・不 明
全体 (n=9259)	N	3298	2604	5	689	3	3934	131	1818	4	6	4	3	55	3
	%	35.6	28.1	0.1	7.4	—	42.5	1.4	19.6	—	0.1	—	—	0.6	—

■高校設置者

F6. 高校設置者

【全体／単一回答】

		公立	私立	その他・不明
全体 (n=9259)	N	4538	4718	3
	%	49.0	51.0	—

■高校卒業後の希望進路

Q1. 高校卒業後の希望進路を教えてください。

【全体／複数回答】

		大学	短期大学	専門職大 学	専門職短 期大学	専門学校	就職	その他	無回答
全体 (n=9259)	N	5267	740	456	140	2968	1738	186	31
	%	56.9	8.0	4.9	1.5	32.1	18.8	2.0	0.3

■志望する大学の設置者

Q2. 志望する大学の種類を教えてください

【大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者／複数回答】

		私立	国立	公立	無回答
大学・短期大学・専門職大学・専門 職短期大学進学希望者 (n=5789)	N	4745	1524	1719	43
	%	82.0	26.3	29.7	0.7

表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

単純集計：1年次入学＜高校生＞②

▶有効回答(9,259件)の単純集計

■興味のある学問分野

Q3. 高校卒業後に学びたいと考えている、興味のある学問分野を次の中から選択してください。

【大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者／複数回答】

	【工学】 その他※1	【工学】 電気 通信 工	【工学】 経営 工	【工学】 土木 建築 機械 工学、 応用	【工学】 化学 ・数学 ・生物 ・物理	【工学】 農学 ・水産	【工学】 哲学 ・文学 ・史学	【工学】 政治 ・社会 ・経済 ・学	【工学】 社会 ・看護 ・学	【工学】 保健 ・医 ・歯 ・学	【工学】 物 ・家 ・政 ・学 ・食	【工学】 員 ・教 ・育 ・学 ・教	【工学】 イ ン ・音 ・楽 ・美 術 ・デ ザ	【工学】 国 際 学 な ど	【工学】 い あ て は ま る も の は な	無 回 答
大学・短期大学・専門職大学・専門 職短期大学進学希望者	N	747	227	379	418	406	224	815	1296	1197	374	880	696	537	677	0
	%	12.9	3.9	6.5	7.2	7.0	3.9	14.1	22.4	20.7	6.5	15.2	12.0	9.3	11.7	—

※1：新設組織の関連分野「【工学】その他」は、調査票上では「【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）」として提示

■新設組織の受験意向

Q4. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程]（仮称・設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか。（ひとつに○）

【大学進学希望者／単一回答】

		第一志望として 受験する	第二志望として 受験する	第三志望以降と して受験する	受験しない	無回答
大学進学希望者	N	134	122	385	4586	40
	%	2.5	2.3	7.3	87.1	0.8

■入学意向

Q5. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程]（仮称・設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（ひとつに○）【受験意向者ベース】

【大学進学希望者かつ受験意向者／単一回答】

		入学する	志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する	入学しない	無回答
大学進学希望者かつ受験意向者	N	161	422	49	9
	%	25.1	65.8	7.6	1.4

■回答経験

F2. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程]（仮称・設置構想中）への受験や入学意向を尋ねるアンケートに回答したことはありますか。（ひとつに○）

【全体／単一回答】

		ない（今回が 初めて）	ある	無回答
全体	N	9259	0	0
	%	100.0	—	—

表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

スクリーニング調査<社会人(3年次編入学)>

開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科
[通信教育課程] (仮称) 設置構想に関するアンケート

このアンケート調査は、学校法人新潟総合学園が2026年4月に設置、2028年4月から3年次編入受け入れを計画する「開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]」(学部学科名称はすべて仮称、以下同)に関する基礎資料とするためのものです。学校法人新潟総合学園では、このアンケートを通して、みなさんからご意見をお聞きして、新設組織の構想をより充実させたいと考えております。※途中で表示される「開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]」(仮称)の情報をよくご理解いただいた上でご回答をお願いします。なお、このアンケートに回答いただいたみなさんから得られた情報は、開志創造大学の設置構想に係る統計資料としてのみ使用し、個人を特定するようなことはありません。また、回答内容が入学に影響を及ぼすこともありません。ぜひみなさんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

(概要については現在構想中であり、変更の可能性があります)

*あなたの性別をお答えください。

② 回答を1つ選択

「ご自由にお書きください」を選ぶ際は、以下の欄にご自身で記入してください。

☐ 男性

☐ 女性

☐ ご自由にお書きください

☐ 回答しない

*あなたの年代をお答えください。

② 回答を1つ選択

☐ 15～19歳

☐ 20～24歳

☐ 25～29歳

☐ 30～34歳

☐ 35～39歳

☐ 40～44歳

☐ 45～49歳

☐ 50～54歳

☐ 55～59歳

☐ 60歳以上

↑
本調査対象者条件
↓

*現在住んでいる都道府県をお答えください。

② 回答を1つ選択

選択してください... ▼

スクリーニング調査<社会人(3年次編入学)>

*職業をお答えください。

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 会社員
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 会社役員・管理職
- ☐ 公務員・団体職員
- ☐ 派遣・契約社員
- ☐ 自営業
- ☐ 自由業・専門職
- ☐ 無職
- ☐ 専業主婦・専業主夫
- ☐ 専門学校生・短期大学生・大学生・大学院生
- ☐ 高校生 <本調査対象外>
- ☐ その他

*就業先の業種をお答えください。

⑦ 回答を1つ選択

- ☐ 農業・林業・漁業・鉱業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 出版・印刷関連産業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 運送・輸送業
- ☐ 旅行業
- ☐ 電気通信業
- ☐ 卸売・小売業
- ☐ 飲食店
- ☐ 金融業
- ☐ 保険業
- ☐ 不動産
- ☐ サービス業
- ☐ 放送業
- ☐ ソフトウェア・情報サービス業
- ☐ 調査・広告代理業
- ☐ 医療業
- ☐ 協同組合・教育関連・公務員
- ☐ その他

スクリーニング調査<社会人(3年次編入学)>

*以下のうち、あなたについてあてはまるものをお選びください。(回答は1つ)

② 回答を1つ選択

- ☐ 「大学院」修了
- ☐ 「大学・専門職大学」卒業・修了
- ☐ 「短大・専門職短期大学」卒業・修了
- ☐ 「高等専門学校」卒業・修了
- ☐ 「専門学校」卒業・修了
- ☐ 「高等学校の専門科」卒業・修了
- ☐ 大学、または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得
- ☐ 「高等学校」卒業・修了
- ☐ あてはまるものはない

↑本調査対象者条件

*あなたは、キャリアアップや資格取得のための自己学習をしていますか。またはしたいと思っていますか。

② 回答を1つ選択

- ☐ すでに自己学習をしている
- ☐ これから自己学習をしようと思っている
- ☐ 自己学習をする準備(資料請求など)をしている
- ☐ 興味はあるが、時間・費用などの点で迷っている
- ☐ 興味はあるが、あえて自己学習をしようとは思っていない
- ☐ キャリアアップや資格取得には興味がない

↑本調査対象者条件

前問 = 5/6回答者のうち

*あなたは、インターネットによる通信教育で学んだことがありますか。またはインターネットによる通信教育で学ぶことに興味がありますか。(回答は1つ)

② 回答を1つ選択

- ☐ 学んだことがある
- ☐ 学びたいと思っている
- ☐ 学んだことはないが、大いに興味はある
- ☐ 学んだことはないが、ある程度興味はある
- ☐ 学んだことはなく、あまり興味もない
- ☐ インターネットによる通信教育には全く興味がない

↑本調査対象者条件

本調査<社会人(3年次編入学)>

*最後に在籍していた学校であなたが主として学んでいた分野をお答えください。

② 回答を1つ選択

- ☐ 【工学】電気通信工学・情報処理
- ☐ 【工学】経営工学
- ☐ 【工学】その他(情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など)
- ☐ 【工学】機械工学、土木建築工学、応用化学
- ☐ 【理学】数学・物理学・化学・生物学
- ☐ 【農学】農学・水産学
- ☐ 【人文科学】文学・哲学・史学
- ☐ 【社会科学】法学・政治学・社会学
- ☐ 【社会科学】商学・経済学・経営学
- ☐ 【保健】医学・歯学・薬学・看護学
- ☐ 【家政】家政学・食物学・栄養学・被服学
- ☐ 【教育】教育学・教員養成
- ☐ 【芸術】美術・デザイン・音楽
- ☐ 【その他】教養学・国際学
- ☐ 【その他】ゲーム・マルチメディア・コンピュータ
- ☐ 【その他】美容・ヘアメイク・メイク・エステ
- ☐ その他:

*あなたが、現在、キャリアアップや資格取得のための自己学習や通信教育をしている・したいと考える理由はどのようなものですか。(回答はいくつでも)

② 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 教養を深めるため
- ☐ 今後の人生を有意義にするため
- ☐ 就職や転職のために必要性を感じたため
- ☐ 仕事上で必要性を感じたため
- ☐ 仕事以外で生活上の必要性を感じたため
- ☐ 他の人との親睦を深めたり、友人を得たりするため
- ☐ 自由時間を有効に活用するため
- ☐ 今持っている専門知識をさらに深めるため
- ☐ 通信制大学など、学べる手段が増えたため
- ☐ 流行っているから
- ☐ 以前、経済的な理由で進学できなかったため
- ☐ 以前、学力的な理由で進学できなかったため
- ☐ 以前、自分の希望する分野の学校に進学できなかったため
- ☐ その他:
- ☐ わからない
- ☐ 特になし

本調査＜社会人（3年次編入学）＞

あなたが、これからキャリアアップや資格取得のための自己学習などでインターネットによる通信教育で学ぶ場合、どのような教育機関で学ぶことを考えますか。（回答はいくつでも）

④ 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 大学
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門職大学
- ☐ 専門職短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 学校以外の社会通信教育機関（民間企業の通信教育講座など）

* あなたの、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（回答はいくつでも）

④ 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 私立
- ☐ 国立
- ☐ 公立

* あなたの、学びたいと考えている興味のある学問分野を以下の中から選択してください。（回答はいくつでも）

④ 該当するものにチェックを入れてください

- ☐ 【工学】 電気通信工学
- ☐ 【工学】 経営工学
- ☐ 【工学】 その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）
- ☐ 【工学】 機械工学、土木建築工学、応用化学
- ☐ 【理学】 数学・物理学・化学・生物学
- ☐ 【農学】 農学・水産学
- ☐ 【人文科学】 文学・哲学・史学
- ☐ 【社会科学】 法学・政治学・商学・経済学・社会学
- ☐ 【保健】 医学・歯学・薬学・看護学
- ☐ 【家政】 家政学・食物学・被服学
- ☐ 【教育】 教育学・教員養成
- ☐ 【芸術】 美術・デザイン・音楽
- ☐ 【その他】 教養学・国際学など
- ☐ あてはまるものはない

本調査<社会人(3年次編入学)>

*あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。（回答は1つ）

② 回答を1つ選択

- ☐ 第一志望として受験する
- ☐ 第二志望として受験する
- ☐ 第三志望以降として受験する
- ☐ 受験しない

*あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（回答は1つ）

② 回答を1つ選択

- ☐ 入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ 入学しない

*開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）への受験や入学意向を尋ねるアンケートに2024年11月以降に回答したことはありますか。

② 回答を1つ選択

- ☐ ない（今回が初めて）
- ☐ ある



アンケートはこれで終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

開志創造大学 御中

開志創造大学 情報デザイン学部
情報デザイン学科
[通信教育課程]
(仮称・設置構想中)
学生確保アンケート調査

【2028年設置・3年次編入学意向】

調査結果報告書

2025年2月

株式会社リクルート

株式会社アンド・ディ

・目次	2
<調査結果>	3
・入学意向者数:3年次編入学(2028年設置)	4
・入学意向まとめ:3年次編入学(2028年設置)	5
・単純集計:3年次編入学(2028年設置)	7

【調査概要】

- 調査目的
開志創造大学が計画している情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程](2026年4月1年次入学、2028年4月3年次編入)の設置について、編入学資格を持つ社会人に受験意向・入学意向をアンケート調査し、学生確保の見通しを確認する。
- 調査概要

<3年次編入に関する調査>

調査方法	法人の保有リストに対するWeb調査	社会人Web調査
	法人の保有するリストを用いたインターネット調査	一般のインターネットパネルを利用した調査
調査対象	法人の保有するリスト	20～59歳の高校卒業以上の学生・社会人
調査期間	2024年12月～2025年2月	2024年12月～2025年1月
有効回答数 スクリーニング調査 本調査	385件 304件 ※本調査は重複回答を除く	67,503件 23,196件 ※本調査は重複回答を除く
調査機関	株式会社アンド・ディ	
報告書作成	株式会社リクルート、株式会社アンド・ディ	

▶新設組織の概要

- 情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]
 - 1年次 入学定員 800名 ※2026年開設
 - 3年次 編入学定員 200名 ※2028年開設

<調査結果>

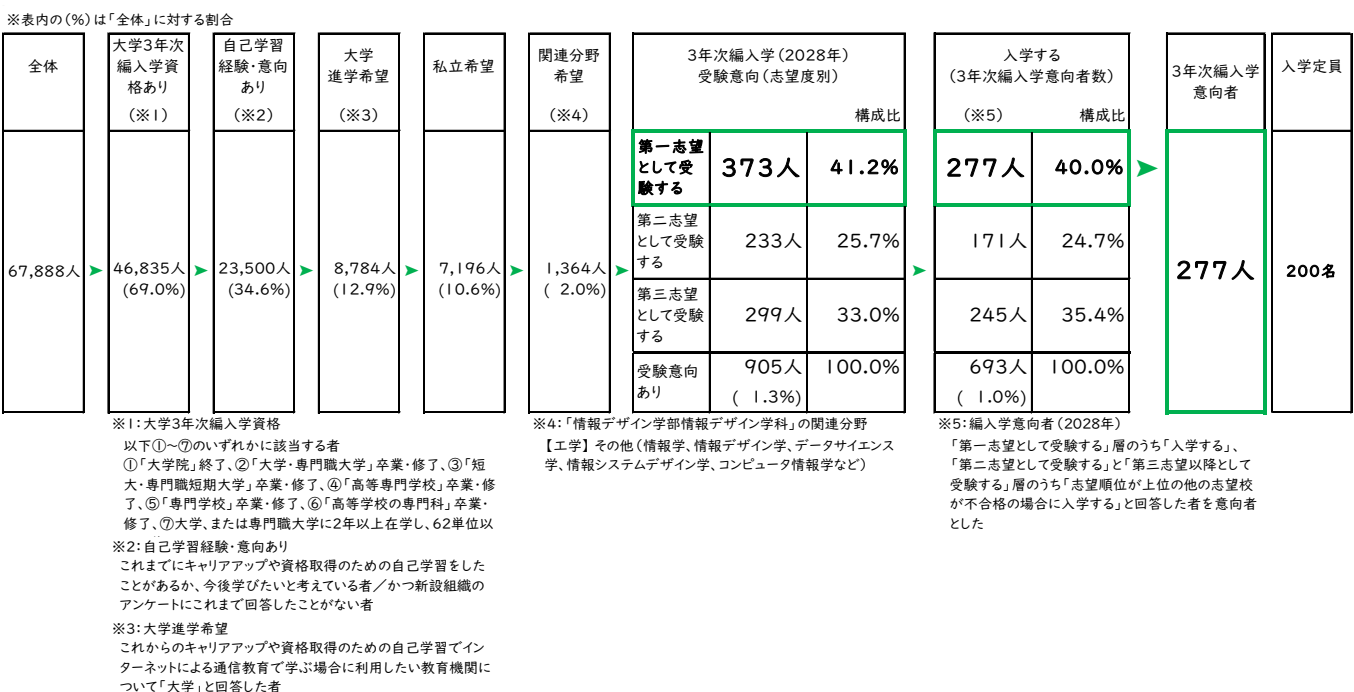
【資料25】入学意向者数:3年次編入学(2028年設置)

・情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程](3年次編入学定員200名)への受験・入学意向者は277人。

大学3年次への編入資格があり(46,835人)、かつキャリアアップ・自己学習のための自己学習の経験者または意向者23,500人のうち、大学(通信教育)進学を希望する者は8,748人。

- ・ 上記のうち、希望する大学の設置者で「私立」を選択したのは7,196人であった。
- ・ また、興味のある学問分野を複数回答で尋ねたところ、情報デザイン学部情報デザイン学科の関連分野である「【工学】その他(情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など)」を選択したのは、上記のうち1,364人であった。
- ・ さらに、情報デザイン学部情報デザイン学科への受験意向を尋ねたところ、「第一志望として受験する」と回答したのは373人、2028年に設置される3年次への編入学の意向を尋ねたところ、「入学する」と回答したのは277人であった。
- ・ 以上のとおり、情報デザイン学部情報デザイン学科への3年次編入学意向者数は、入学定員200名を上回っている。
- ・ また、第二志望として受験し、入学すると回答したのは171人、第三志望以降として受験し、入学すると回答したのは245人であった。

社会人調査



入学意向まとめ:3年次編入学(2028年設置)①

【資料25】

- ・ 第一志望受験の入学意向についてプロフィールを確認すると、
 - ・ 性別をみると、第一志望受験の入学意向者277人のうち、男性が213人、女性が63人と、男性の方が人数が多い。
 - ・ 年齢は40代以上が多いものの、20～30代も合計で80人近くとなった。
 - ・ 居住エリアは、南関東が最も多く114人、次いで関西48人が多い。
 - ・ 就業状況別にみると、就業者が255人に上り、現在就業中の社会人が多い92.1%を占める。
 - ・ また、業種別にみると、ソフトウェア・情報サービス業の従事者が52名、それ以外の業種が合計で203人となっている。

		性別			年代					居住地										居住地			調査手法	
		男性	女性	その他・不明	20歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	甲信越	新潟	山梨	長野	北海道	東北	北関東	南関東	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	大学保有リスト調査	社会人Web調査
情報デザイン学部 情報デザイン学科		調査数																						
2028年・3年次編入学意向者・計	N 693	538	150	5	57	119	209	308	22	15	2	5	29	30	26	304	12	63	105	43	59	15	678	
	%	77.6	21.6	0.7	8.2	17.2	30.2	44.4	3.2	2.2	0.3	0.7	4.2	4.3	3.8	43.9	1.7	9.1	15.2	6.2	8.5	2.2	97.8	
入学意向者（第一志望受験）	N 277	213	63	1	34	44	87	112	11	9	0	2	12	9	9	114	3	25	48	20	26	9	268	
	%	76.9	22.7	0.4	12.3	15.9	31.4	40.4	4.0	3.2	—	0.7	4.3	3.2	3.2	41.2	1.1	9.0	17.3	7.2	9.4	3.2	96.8	
条件付き入学意向者（第二志望受験）※1	N 171	136	32	3	13	34	49	75	6	3	1	2	8	8	5	73	2	23	25	10	11	1	170	
	%	79.5	18.7	1.8	7.6	19.9	28.7	43.9	3.5	1.8	0.6	1.2	4.7	4.7	2.9	42.7	1.2	13.5	14.6	5.8	6.4	0.6	99.4	
条件付き入学意向者（第三志望受験）※1	N 245	189	55	1	10	41	73	121	5	3	1	1	9	13	12	117	7	15	32	13	22	5	240	
	%	77.1	22.4	0.4	4.1	16.7	29.8	49.4	2.0	1.2	0.4	0.4	3.7	5.3	4.9	47.8	2.9	6.1	13.1	5.3	9.0	2.0	98.0	

			就業状況・業種				希望する学校の設置者 関心のある分野																			
			就業者・その他・計	ソフトウェア・情報	上記以外の業種・計	非就業者・計	私立	国立	公立	【工学】その他※2	【工学】電気通信工学	【工学】経営工学	【工学】機械工学、土木建築工学、応用化学	【理学】数学・物理学・化学	【農学】農学・水産学	【人文科学】文学・哲学・史学	【社会科学】法学・政治学・商学・経済学・社会学	【保健】医学・歯学・薬学・看護学	【家政】家政学・食物学・被服学	【教育】教育学・教員養成	音楽	【芸術】美術・デザイン・など	【その他】教養学・国際学	あてはまるものはない		
情報デザイン学部 情報デザイン学科			調査数																							
2028年・3年次編入学意向者・計			N 693	625	110	515	68	693	561	484	693	170	177	148	137	86	120	218	99	86	84	149	102	0		
			%	90.2	15.9	74.3	9.8	100.0	81.0	69.8	100.0	24.5	25.5	21.4	19.8	12.4	17.3	31.5	14.3	12.4	12.1	21.5	14.7	—		
入学意向者（第一志望受験）			N 277	255	52	203	22	277	218	185	277	87	81	69	73	49	58	80	45	41	41	73	41	0		
			%	92.1	18.8	73.3	7.9	100.0	78.7	66.8	100.0	31.4	29.2	24.9	26.4	17.7	20.9	28.9	16.2	14.8	14.8	26.4	14.8	—		
条件付き入学意向者（第二志望受験）※1			N 171	155	23	132	16	171	133	118	171	44	41	30	22	16	24	52	25	21	14	27	18	0		
			%	90.6	13.5	77.2	9.4	100.0	77.8	69.0	100.0	25.7	24.0	17.5	12.9	9.4	14.0	30.4	14.6	12.3	8.2	15.8	10.5	—		
条件付き入学意向者（第三志望受験）※1			N 245	215	35	180	30	245	210	181	245	39	55	49	42	21	38	86	29	24	29	49	43	0		
			%	87.8	14.3	73.5	12.2	100.0	85.7	73.9	100.0	15.9	22.4	20.0	17.1	8.6	15.5	35.1	11.8	9.8	11.8	20.0	17.6	—		

※1：条件付き入学意向者：各志望順位での受験意向があり、かつ「志望順位が上位の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者
※2：新設組織の関連分野『【工学】その他』は、調査票上では『【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）』として提示
※表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

入学意向まとめ:3年次編入学(2028年設置)②

【資料25】

- 第一志望受験の入学意向について、過去にどのような学習経験があるかを確認すると、
 - 「『大学・専門職大学』卒業・修了」(158人)が最多。以下「『大学院』修了」「『専門学校』卒業・修了」。
 - 最後に在籍していた学校で主として学んでいた分野については、新設組織の関連分野である「【工学】その他(情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など)」の学習経験者が最も多く54人(19.5%)。次いで「【工学】電気通信工学・情報処理」「【社会科学】商学・経済学・経営学」「【工学】機械工学、土木建築工学、応用化学」などが30人以上。全体的に【工学】分野を学んでいたとする割合が高いことがわかる。
 - キャリアアップや資格取得のための自己学習や通信教育をしている・したいと考える理由を尋ねたところ、「今後の人生を有意義にするため」「教養を深めるため」が上位。次いで「試験や転職のために必要性を感じたため」「仕事上で必要を感じたため」など、仕事上のスキルアップの必要性をあげる意見が多い。
 - 第一希望受験での入学意向者では、「通信大学など、学べる手段が増えたから」が30.0%と、他の層と比較して特徴的に高く、<通信教育課程であること>が学び直しの意向を促進したと考えられる。

情報デザイン学部 情報デザイン学科	調査数	最終学歴						
		「大学院」修了	「大学・専門職大学」卒業・修了	「短大・専門職短期大学」卒業・修了	「高等専門学校」卒業・修了	「専門学校」卒業・修了	「高等学校の専門科」卒業・修了	大学、または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得
2028年・3年次編入学意向者・計	N 693	86	410	40	22	80	34	21
	%	12.4	59.2	5.8	3.2	11.5	4.9	3.0
入学意向者(第一志望受験)	N 277	36	158	14	12	30	14	13
	%	13.0	57.0	5.1	4.3	10.8	5.1	4.7
条件付き入学意向者(第二志望受験)※1	N 171	14	98	12	6	24	11	6
	%	8.2	57.3	7.0	3.5	14.0	6.4	3.5
条件付き入学意向者(第三志望受験)※1	N 245	36	154	14	4	26	9	2
	%	14.7	62.9	5.7	1.6	10.6	3.7	0.8

情報デザイン学部 情報デザイン学科	調査数	最後に在籍していた学校で主として学んでいた分野																
		工学	工学	工学	工学	理学	農学	人文科学	社会科学	社会科学	保健	家政	教育	芸術	その他	その他	その他	その他
		電気通信工学・情報処理	経営工学	情報学、その他(情報学、システムデザイン、情報デザインなど)	機械工学、応用化学、土木建築工学	数学・物理学・化学・生物	農学・水産学	文学・哲学・史学	法学・政治学・社会学	商学・経済学・経営学	医学・歯学・薬学・看護	学・家政・被服・食物学・栄養	教育学・教員養成	美術・デザイン・音楽	教養学・国際学	アグ・コム・マルチメディア	美容・エステ・メイク・メイク	その他
2028年・3年次編入学意向者・計	N 693	85	11	115	83	34	12	37	74	97	20	9	21	23	14	21	7	30
	%	12.3	1.6	16.6	12.0	4.9	1.7	5.3	10.7	14.0	2.9	1.3	3.0	3.3	2.0	3.0	1.0	4.3
入学意向者(第一志望受験)	N 277	42	5	54	33	12	6	11	21	34	5	4	6	14	6	12	3	9
	%	15.2	1.8	19.5	11.9	4.3	2.2	4.0	7.6	12.3	1.8	1.4	2.2	5.1	2.2	4.3	1.1	3.2
条件付き入学意向者(第二志望受験)※1	N 171	23	2	31	22	4	3	10	18	27	8	1	6	3	2	3	1	7
	%	13.5	1.2	18.1	12.9	2.3	1.8	5.8	10.5	15.8	4.7	0.6	3.5	1.8	1.2	1.8	0.6	4.1
条件付き入学意向者(第三志望受験)※1	N 245	20	4	30	28	18	3	16	35	36	7	4	9	6	6	6	3	14
	%	8.2	1.6	12.2	11.4	7.3	1.2	6.5	14.3	14.7	2.9	1.6	3.7	2.4	2.4	2.4	1.2	5.7

		キャリアアップや資格取得のための自己学習や通信教育をしている・したいと考える理由															
		教養を深めるため	今後の人生を有意義にするため	就職や転職のために必要を感じたため	仕事上で必要を感じたため	仕事以外で生活上必要を感じたため	他の人との友人の親睦を得たため	自由時間をも有効に活用するため	今持っている専門知識をさらに深めるため	通信制大学など、学べる手段が増えたため	流行っているから	以前、経済的な理由で進学できなかったため	以前、学力的な理由で進学できなかったため	以前、自分の希望する分野の学校に進学できなかったため	その他	わからない	特にな
調査数		380	373	278	262	148	99	159	196	142	33	54	44	49	5	2	6
2028年・3年次編入学意向者・計	N 693 %	54.8	53.8	40.1	37.8	21.4	14.3	22.9	28.3	20.5	4.8	7.8	6.3	7.1	0.7	0.3	0.9
入学意向者（第一志望受験）	N 277 %	53.8	55.2	43.0	41.9	24.9	19.9	24.5	31.0	30.0	9.4	13.0	11.2	10.5	—	—	0.4
条件付き入学意向者（第二志望受験）※1	N 171 %	55.0	53.8	43.3	35.1	21.1	11.7	21.6	31.0	17.0	2.3	5.8	4.1	4.7	0.6	—	0.6
条件付き入学意向者（第三志望受験）※1	N 245 %	55.9	52.2	34.7	35.1	17.6	9.8	22.0	23.3	12.2	1.2	3.3	2.4	4.9	1.6	0.8	1.6

※表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE 202

単純集計:3年次編入学(2028年設置)

▶スクリーニング調査の有効回答(67,888件)の単純集計

■調査種別

A1. 調査種別

【全体／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		大学保有リスト 調査	社会人We b 調 査
全体 (n=67888)	N	385	67503
	%	0.6	99.4

■性別

SC1. あなたの性別をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		男性	女性	その他	回答しない
全体 (n=67888)	N	39073	26801	256	1758
	%	57.6	39.5	0.4	2.6

■年代

SC2. あなたの年代をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳
全体 (n=67888)	N	1404	2115	3397	5592	8385	12006	17450	17539
	%	2.1	3.1	5.0	8.2	12.4	17.7	25.7	25.8

■居住エリア

SC3. 現在住んでいる都道府県をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		甲信越	新潟	山梨	長野	北海道	東北	北関東	南関東	北陸	東海	関西	中国・ 四国	九州・ 沖縄
全体 (n=67888)	N	2565	1399	300	866	3246	4387	3137	23848	1329	7505	11720	5006	5119
	%	3.8	2.1	0.4	1.3	4.8	6.5	4.6	35.1	2.0	11.1	17.3	7.4	7.5

■職業

SC4. 職業をお答えください。

【全体／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		会社員	パート・ア ルバイト	会社役 員・管 理職	公務 員・団 体職員	派遣・ 契約社 員	自営業	自由 業・専 門職	無職	専業主 婦・専 業主夫	専門学 校生・ 短期大 学生・	高校生	その他
全体 (n=67888)	N	27141	10646	2255	3548	3621	3446	2354	6599	6063	638	0	1577
	%	40.0	15.7	3.3	5.2	5.3	5.1	3.5	9.7	8.9	0.9	—	2.3

■就業先の業種

SC5. 就業先の業種をお答えください。

【就業者／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		業・農 業・林 業・漁	建設 業	製造 業	出版 業・印 刷関連	供給 業・ガ ス・熱	電気 給電 業・輸 送業	旅行 業	電気 通信 業	卸 売・小 売業	飲食 店	金融 業	保険 業	不動 産	サー ビス 業	放送 業	情 報 ソフ トウ エス 業	業 調 査・ 広告 代理	医療 業	関 連 組 合・ 公務 員教 育	そ の 他・ 不明
就業者 (n=54588)	N	606	3096	9319	504	732	3463	171	647	5738	1507	1156	678	1020	7727	160	3004	308	3381	4535	6836
	%	1.1	5.7	17.1	0.9	1.3	6.3	0.3	1.2	10.5	2.8	2.1	1.2	1.9	14.2	0.3	5.5	0.6	6.2	8.3	12.5

表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

単純集計:3年次編入学(2028年設置)

▶スクリーニング調査の有効回答(67,888件)の単純集計

■大学3年次への編入資格の有無

SC8. 以下のうち、あなたについてあてはまるものをお選びください。(回答は1つ)

【全体/単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		「大学院」 修了	「大学・専門職大学」 卒業・修了	「短大・専門職短期大学」 卒業・修了	「高等専門学校」 卒業・修了	「専門学校」 卒業・修了	「高等学校の専門科」 卒業・修了	大学、または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得	「高等学校」 卒業・修了	あてはまるものはない
全体 (n=67888)	N	3054	23270	5265	2035	8715	3145	1351	16751	4302
	%	4.5	34.3	7.8	3.0	12.8	4.6	2.0	24.7	6.3

■キャリアアップ・資格取得のための自己学習実態・意向

SC9. あなたは、キャリアアップや資格取得のための自己学習をしていますか。またはしたいと思っていますか。

【大学3年次への編入資格あり/単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		すでに自己学習をしている	これから自己学習をしようと思っている	自己学習をする準備(資料請求など)をしている	興味はあるが、時間・費用などの点で迷っている	興味はあるが、あえて自己学習をしようとは思っていない	キャリアアップや資格取得には興味がない
大学3年次への編入資格あり (n=46835)	N	7127	3333	883	9275	7732	18485
	%	15.2	7.1	1.9	19.8	16.5	39.5

■インターネットでの学習意向

SC10. あなたは、インターネットによる通信教育で学んだことがありますか。またはインターネットによる通信教育で学ぶことに興味がありますか。(回答は1つ)

【自己学習への低関心層/単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		学んだことがある	学びたいと思っている	学んだことはないが、大いに興味はある	学んだことはないが、ある程度興味はある	学んだことはなく、あまり興味もない	インターネットによる通信教育には全く興味がない
自己学習への低関心層 (n=26217)	N	1318	200	336	2909	7115	14339
	%	5.0	0.8	1.3	11.1	27.1	54.7

表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

単純集計:3年次編入学（2028年設置）

▶ 本調査の有効回答（23,500件）の単純集計

※ 本調査の集計については、これまでにキャリアアップや資格取得のための自己学習の経験があるか、今後学びたいと考えている者 かつ 本アンケートへの回答経験のない者のみで集計

■アンケートへの回答経験

Q9. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科（仮称・設置構想中）への受験や入学意向を尋ねるアンケートに2024年11月以降に回答したことはありますか。

【全体／単一回答】 <社会人・3年次編入に関する調査>

		ない（今回が初めて）	ある
全体	(n=23500)	N 23500	0
		% 100.0	—

■最後に在籍していた学校（最終学歴）での学習分野

Q1S0. 最後に在籍していた学校であなたが主として学んでいた分野をお答えください

【全体／単一回答】 <社会人・3年次編入に関する調査>

		1	【工学】 工学・情報処 理通信	【工学】 経営工学	【工学】 土木建築工 学、応用化 学	【理学】 数学・生物 学、化学・生 物学	【農学】 農学・水	【人文科学】 文学・史学	【社会科学】 社会学・社会 学	【社会科学】 政治学・社会 学	【社会科学】 経済学・商 学	【保健・薬学・医 学・看護学・歯 学】	【家政学・栄養学・ 食生活学・服 飾学】	【教育】 教育心理学・ 音楽・芸術・デ ザイン	【その他】 国際学・教養	【その他】 マルチメディア ・ゲーム	【その他】 ヘアメイク・美 容・ファッション	その他	
全体	(n=23500)	N	1305	1478	278	2026	975	488	2125	2083	3523	1686	893	1130	1086	735	450	440	2799
		%	5.6	6.3	1.2	8.6	4.1	2.1	9.0	8.9	15.0	7.2	3.8	4.8	4.6	3.1	1.9	1.9	11.9

※1：新設組織の関連分野「【工学】その他」は、調査票上では「【工学】その他（情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など）」として提示

■キャリアアップや資格取得のための自己学習の実施理由

Q1S1. あなたが、現在、キャリアアップや資格取得のための自己学習や通信教育をしている・したいと考える理由はどのようなものですか。（回答はいくつでも）

【全体/複数回答】 <社会人・3年次編入に関する調査>

		必要職性を高めるため	教養を深めるため	今後の人生で有意義に	仕事の上で必要性を感じ	仕事で外で生活した上での	他の人との交友関係を深めるため	自由な時間を有効に活用	知識を深めるため	今の生活に満足していない	通信制大学に進学したい	流行っているから	ために進学できる	ために進学できる	で分前の分野の学校に進学	以前、自分の希望	その他	わからない	特にな
全体	(n=23500)	N 5171	9479	9638	6397	2283	1327	3090	3949	1003	192	477	304	339	158	351	1737		
		% 22.0	40.3	41.0	27.2	9.7	5.6	13.1	16.8	4.3	0.8	2.0	1.3	1.4	0.7	1.5	7.4		

■利用したい教育機関

Q1. あなたが、これからキャリアアップや資格取得のための自己学習などでインターネットによる通信教育で学ぶ場合、どのような教育機関で学ぶことを考えますか。（回答はいくつでも）

【全体／複数回答】 <社会人・3年次編入に関する調査>

		大学	短期大学	専門職大学	専門職短期大学	専門学校	学校以外の社会通信教育機関（民間企業の通信教育講座など）	あてはまるものはない
全体	(n=23500)	N 8784	1026	2303	1086	3423	10878	5576
		% 37.4	4.4	9.8	4.6	14.6	46.3	23.7

単純集計:3年次編入学(2028年設置)

▶ 本調査の有効回答(23,500件)の単純集計

※ 本調査の集計については、これまでにキャリアアップや資格取得のための自己学習の経験があるか、今後学びたいと考えている者 かつ 本アンケートへの回答経験のない者のみで集計

■希望する設置者

Q2. あなたの、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(回答はいくつでも)

【大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者／複数回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		私立	国立	公立
大学・短期大学・専門職大学・ 専門職短期大学進学希望者	(n=9659)	N 7606	5452	4457
	%	78.7	56.4	46.1

■興味のある学問分野

Q3. あなたの、学びたいと考えている興味のある学問分野を以下の中から選択してください。(回答はいくつでも)

【大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者／複数回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		【工学】 その他※1	【工学】 電気通信工	【工学】 経営工学	【工学】 土木建築 機械工学 応用	【工学】 理化学 数学・生物 物理学	【工学】 農学 農学・水産	【工学】 哲学・人文 社会科学 文学・	【工学】 政治学・社会 学・法学・法 経済学・	【工学】 学・保健 薬学・医学 看護学・歯	【工学】 物・家・政 学・被服学 家政学・食	【工学】 員・養・成 教育・教	【工学】 イン・芸 術・音楽 美術・デ ザ	【工学】 国・その 他など 国際学・ 教育学・	【工学】 い・あ てはま るもの はな
大学・短期大学・専門職大学・ 専門職短期大学進学希望者	(n=9659)	N 1829	731	785	803	720	632	1433	2502	1180	706	874	1126	1157	1964
	%	18.9	7.6	8.1	8.3	7.5	6.5	14.8	25.9	12.2	7.3	9.0	11.7	12.0	20.3

※1:新設組織の関連分野「【工学】その他」は、調査票上では「【工学】その他(情報学、情報デザイン学、データサイエンス学、情報システムデザイン学、コンピュータ情報学など)」として提示

■受験意向(2028年開設・3年次編入学に関して)

Q4. あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程] (仮称・設置構想中) が開設された場合、受験を希望しますか。(回答は1つ)

【大学進学希望者／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		第一志望として 受験する	第二志望として 受験する	第三志望以降と して受験する	受験しない
大学進学希望者	(n=8784)	N 1561	1257	1590	4376
	%	17.8	14.3	18.1	49.8

■入学意向(2028年開設・3年次編入学に関して)

Q5. あなたは、開志創造大学情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程] (仮称・設置構想中) を受験して合格した場合、入学を希望しますか。(回答は1つ) 【受験意向者ベース】

【大学進学希望者かつ受験意向者／単一回答】

<社会人・3年次編入に関する調査>

		入学する	志望順位が上位 の他の志望校が 不合格の場合に 入学する	入学しない
大学進学希望者かつ受験意向者	(n=4408)	N 1455	2479	474
	%	33.0	56.2	10.8

表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

人材需要アンケート

開志創造大学 情報デザイン学部情報デザイン学科〔通信情報課程〕（仮称）設置構想に関するアンケート＜人事採用ご担当者様＞

学校法人新潟総合学園では現在、変化する社会において求められる人材養成ニーズに対応するため、2026年4月に開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科〔通信教育課程〕（仮称）の設置を構想しております。

皆様の回答から得られた情報は、新設組織の構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

業務ご多用の折、大変お手数ではございますが、本調査の主旨をご理解の上、何卒ご協力いただきたくお願い申し上げます。

* 貴社・貴団体の主業種をお選びください。

● 回答を1つ選択

- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 情報・通信業
- ☐ 放送、新聞、出版業
- ☐ 運輸業
- ☐ 金融業、保険業
- ☐ 不動産業、賃貸業
- ☐ 卸売・小売業
- ☐ 飲食店、宿泊業
- ☐ 保健医療・社会福祉業
- ☐ 学校・学習支援業
- ☐ 生活関連サービス業、娯楽業
- ☐ その他サービス
- ☐ 官公庁・自治体・公共団体
- ☐ その他:

* 貴社・貴団体の所在地（本社・主たる事業所等）をお答えください。

● 回答を1つ選択

選択してください... ▼

* 貴社・貴団体の従業員規模として、あてはまるものをお選びください。

● 回答を1つ選択

- ☐ 20人以下
- ☐ 21～50人
- ☐ 51～100人
- ☐ 101～300人
- ☐ 301～500人
- ☐ 501～1,000人
- ☐ 1,001～3,000人
- ☐ 3,001人以上

人材需要アンケート

* 貴社・貴団体の本年度2024年4月入社の大学新卒採用状況についてお伺いします。大学卒の方の採用者数として、あてはまるものをお選びください。

④ 回答を1つ選択

- ☐ 大学新卒採用なし（0人）
- ☐ 1～9人
- ☐ 10～49人
- ☐ 50～99人
- ☐ 100人以上

* 貴社・貴団体の来年度2025年4月入社の大学新卒採用について、現時点でどのようにお考えですか。貴社・貴団体の方針にもっとも近いものをお選びください。

④ 回答を1つ選択

- ☐ 2024年度よりも増える
- ☐ 2024年度と同程度
- ☐ 2024年度よりも減る
- ☐ 大学新卒採用は行わない
- ☐ 未定・わからない

* 貴社・貴団体の今後10年程度の採用の見通しについてお伺いします。量的・質的な確保の難易度について、あてはまるものをお選びください。

	充足できる	どちらかというところ	どちらかというところ	充足できない
採用予定人数	☐	☐	☐	☐
必要な社会人基礎力を持った人材	☐	☐	☐	☐
必要な専門性を持った人材	☐	☐	☐	☐

人材需要アンケート

ここからは、開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科【通信教育課程】（仮称・設置構想中）についてお聞かせします。

次に提示される資料をよく読んで、以降の設問にお答えください。



これから進学を検討している方へ

東京進学はいくらかかる？

1年間あたりの学費比較

2,709,100円

学費の約1/10

学費 25万円

生活費

情報デザイン学部 (仮称・設置構想中)

通学制私立大学 (比較対象)

※東京・神奈川・埼玉・千葉・東京都立大学 (仮称・設置構想中)

※東京・神奈川・埼玉・千葉・東京都立大学 (仮称・設置構想中)

※東京・神奈川・埼玉・千葉・東京都立大学 (仮称・設置構想中)

学校法人 新潟総合学園 開志創造大学 [仮称]

情報デザイン学部

通信教育課程

1年次入学生数 800人 3年次入学生数 200人

今住んでいる場所で
今の生活スタイルを変えずに
新しく学び始めることができます



2026年4月 開設!

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

情報デザイン学部 情報デザイン学科

情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる能力を身につけた人材を養成

1年次 / 800人 3年次入学生 / 200人

情報技術に関する基礎知識と基礎スキル

- 情報技術を活用して、課題解決と価値創造ができる
- 地域社会、国際社会で活躍できるコミュニケーション力と多角的な視点
- 情報活用と創造性に関する基礎知識を身につける
- リーダーシップを発揮することができる

学部・学科の特徴

- AIなど最新の情報技術を駆使するエンジニアを目指す!
- ビジネス現場を知り、課題をITで解決できる人材を目指す!
- 自分の生活ベースにあわせて時間や場所に縛られない学び
- 課題解決実践で自分たちで考えて問題を解決する力を養う!

開設予定科目

情報工学系	ビジネス系
データサイエンス入門・発展 生成AI活用 プログラミング基礎・発展 デザイン基礎 コンピュータアーキテクチャ サイバーセキュリティ	マーケティング プロダクトマネジメント入門・発展 デジタルマーケティング 会計・簿記 リーダーシップ実践

想定される卒業後の進路

- ソフトウェア技術者
- サービス技術者
- データサイエンス
- セキュリティスペシャリスト
- 研究・開発職
- ITコンサルタント
- サービス・デザイナー
- ビジネスアーキテクト

オンライン完結型の学び

これから進学を検討する人も、今働いている人も、
今住んでいる場所で、今の生活スタイルを変えずに、新しく学び始めることができます。

POINT 1 スターリング(通学)は無し! 完全オンラインで大学を卒業

POINT 2 最先端を学ぶことでキャリアアップやキャリアチェンジも

POINT 3 通信制でも大学卒業の証「学士」は通学制と同等

情報デザイン学部 (80%)	一般的な通学制大学
全科目、自分の好きな場所で学べる	毎日キャンパスに通って授業
自分の好きな時間に授業を受ける	決められた時間に授業を受ける
103万円~	473万円~
学士	学士

POINT 4 これまでの学歴を活かして3年次から入学できる

以下のいずれかを卒業・修了した人、
大学・または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した人、
高等学校の専攻科

■設置の理念

17人材不足が懸念される、デジタル社会構築に必要な高度な知識とスキルを、全ての学生が習得できる環境を整え、社会に貢献できる人材を育てる。『情報技術を活用して、課題解決と価値創造ができる能力を身につけた人材の養成』を、卒業生が社会で活躍するための環境を整え、社会に貢献できる人材を育てる。

■アドミッションポリシー

情報デザイン学部は、学ぶ意欲のある、幅広い年齢層、様々な背景を持つ、大学で学ぶ準備が整った人を受け入れる。

●本学での学習や生活に必要とされる知識・スキルを身に付け、社会で活躍できる人材を育てる

●自分の考えや意見を他者に伝えることができる

●高度な専門知識を身に付け、大学での学習に必要な基礎知識を身に付ける

■養成できる人材像

データサイエンスや生成AI等の情報技術を活用することによって課題解決・価値創造を行い、地域社会や国際社会で活躍できる、コミュニケーション力と多角的な視点をもったリーダーシップを発揮できる人材

人材需要アンケート

*貴社・貴団体では、どのような能力（ジェネリックスキル）を修得した人材を採用したいですか。以下の項目の中からあてはまるものをお選びください。

② 該当するもの全てにチェックを入れてください。

- ☐ AI、サイバーセキュリティなど最先端の情報技術、知識を学んだ人材
- ☐ IT業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材
- ☐ 情報技術を活用してまだ世にない、新しい価値を生み出す人材
- ☐ 情報技術の知識とスキルを経営やマーケティングに応用できる人材
- ☐ デザイン思考を用いて課題を解決し、まだ世にない新しい価値を生み出す人材
- ☐ 企業戦略の立案の際、コミュニケーション能力と広い視野でリーダーシップを発揮する人材
- ☐ あてはまるものはない

*貴社・貴団体では、どのような専門分野の知識や技能を修得した人材を採用したいですか。以下の項目の中からあてはまるものをお選びください。

② 該当するもの全てにチェックを入れてください。

- ☐ コンピュータアーキテクチャ
- ☐ 言語処理技術
- ☐ サービスデザイン
- ☐ データサイエンス
- ☐ ヒューマンコンピュータインタラクション
- ☐ コンピュータグラフィックス・メタヴァース
- ☐ サイバーセキュリティ
- ☐ ソフトウェア開発
- ☐ 統計
- ☐ アルゴリズム・データ構造
- ☐ データエンジニアリング
- ☐ 通信工学・情報理論
- ☐ デジタルマーケティング
- ☐アントレプレナー
- ☐ プロジェクトマネジメント
- ☐ マーケティング
- ☐ その他:

人材需要アンケート

*開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科【通信教育課程】（仮称・設置構想中）で学んだ学生の新卒採用について、どのようにお考えですか。貴社・貴団体のお考えにもっとも近いものをお選びください。

④ 回答を1つ選択

- ☐ 採用対象になる
- ☐ おそらく採用対象になる
- ☐ 採用対象として検討してもよい
- ☐ あまり採用対象にならない
- ☐ 採用対象にならない

*「1.採用対象になる」「2.おそらく採用対象になる」「3.採用対象として検討してもよい」を選んだ方にお聞きます。何人程度の採用が見込めるか、お答えください。

④ 回答を1つ選択

- ☐ 1名
- ☐ 2名
- ☐ 3名
- ☐ 4名
- ☐ 5～9名
- ☐ 10～19名
- ☐ 20名以上
- ☐ 採用人数は未確定

*「1.採用対象になる」「2.おそらく採用対象になる」「3.採用対象として検討してもよい」を選んだ方にお聞きます。予定している採用方法や形態について、お答えください。

④ 該当するもの全てにチェックを入れてください。

- ☐ 部門別、コース別採用等で、専門性を早期に発揮できる活躍を期待する
- ☐ 地域限定採用等で、配属地の入社前確約を行う
- ☐ 通年採用等で、入社希望時期に柔軟に対応する
- ☐ 採用直結と明示したインターンシップ等からの採用を行う
- ☐ 卒後3年以内も新卒として扱い、十分な教育機会を提供する
- ☐ 高い専門性が確認できた場合は、初任給格差をつける
- ☐ 現住所での勤務が継続できるようテレワーク等の柔軟な働き方を尊重する
- ☐ あてはまるものはない

*リスケリング教育のために、貴社・貴団体に従事される方に、開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科【通信教育課程】（仮称・設置構想中）への進学をどの程度勧めたいと思いますか。

④ 回答を1つ選択

- ☐ とても勧めたいと思う
- ☐ まあ勧めたいと思う
- ☐ あまり勧めたいと思わない
- ☐ まったく勧めたいと思わない

開志創造大学 御中

情報デザイン学部 情報デザイン学科[通信教育課程] (設置構想中) 人材需要アンケート調査

【企業等への採用意向】

調査結果報告書

2025年2月

株式会社 リクルート

株式会社 アンド・ディ

・ 調査概要	2
<調査結果>	3
・ 採用意向まとめ	4
・ 採用意向企業等の特徴	5
・ 有効回答の単純集計	9

調査概要】

- 開志創造大学情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]の設置(2026年4月)について、卒業生の就職先として想定される企業などに卒業生の採用意向をアンケート調査し、人材需要を確認する。

調査方法	調査対象の企業・団体の人事・採用担当者にアンケートのURLを送付し、WEBにて回収。
調査対象	新設学部の卒業生の就職先として想定される企業 ※主として情報・通信・システム関連の企業
調査回答企業等	別添資料を参照のこと
調査期間	2024年12月16日(月) ～ 2025年2月7日(金)
配布数	1,614社
有効回答数	312社 (有効回答率 19.3%)
調査機関	株式会社アンド・ディ
報告書作成	株式会社リクルート、株式会社アンド・ディ

▶新設組織の概要

- 情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]

【入学定員】

- ・1年次入学:800名
- ・3年次編入:200名(※2028年4月設置予定)

<調査結果>

情報デザイン学部情報デザイン学科卒業生について「採用対象になる」と回答した企業等の採用意向人数合計は357人。

- 大学新卒採用予定ありと回答した299社（95.8%）に対して、情報デザイン学部情報デザイン学科卒業生の採用意向を尋ねたところ、「採用対象になる」と回答した企業等は169社（54.2%）。

※（）内の％はすべて有効回答全体に対する割合

- さらに、卒業生が「採用対象になる」とした169社に対し、採用意向人数を尋ねたところ、採用意向人数の合計は、357人となった。

59.5%が「採用対象になる」と回答しており、採

用意向人数は338人。

17社

（38.6%）、採用意向人数は19人。

111社が「採用対象になる」と回答し、採用意向人数は合計

282人となった。

情報デザイン学部情報デザイン学科		回答企業数	大学新卒採用意向あり・計 （※1）	採用対象になる	採用意向人数合計 （※2）
全体		312社	299社 95.8%	169社 54.2%	357人
業種別	建設業	1社	1社 100.0%	0社 0.0%	0人
	製造業	4社	3社 75.0%	2社 50.0%	8人
	情報・通信業	259社	247社 95.4%	154社 59.5%	338人
	放送、新聞、出版業	3社	3社 100.0%	1社 33.3%	1人
	金融業、保険業	2社	2社 100.0%	1社 50.0%	1人
	卸売・小売業	14社	14社 100.0%	3社 21.4%	2人
	保健医療・社会福祉業	2社	2社 100.0%	0社 0.0%	0人
	学校・学習支援業	3社	3社 100.0%	2社 66.7%	3人
	その他サービス	6社	6社 100.0%	1社 16.7%	0人
	その他 （※3）	18社	18社 100.0%	5社 27.8%	4人
回答企業の本社所在地別	甲信越	57社	50社 87.7%	23社 40.4%	23人
	新潟	44社	39社 88.6%	17社 38.6%	19人
	山梨	2社	2社 100.0%	2社 100.0%	2人
	長野	11社	9社 81.8%	4社 36.4%	2人
	北海道	2社	2社 100.0%	1社 50.0%	1人
	東北	6社	6社 100.0%	2社 33.3%	4人
	北関東	7社	7社 100.0%	6社 85.7%	9人
	南関東	187社	182社 97.3%	111社 59.4%	282人
	埼玉	5社	5社 100.0%	4社 80.0%	6人
	千葉	4社	4社 100.0%	2社 50.0%	4人
	東京	158社	153社 96.8%	93社 58.9%	257人
	神奈川	20社	20社 100.0%	12社 60.0%	15人
	北陸	17社	16社 94.1%	5社 29.4%	10人
	東海	5社	5社 100.0%	4社 80.0%	4人
	関西	8社	8社 100.0%	5社 62.5%	8人
	中国・四国	12社	12社 100.0%	4社 33.3%	5人
	九州・沖縄	11社	11社 100.0%	8社 72.7%	11人

（※1）2025年の採用について「採用しない」と回答した企業以外

（※2）1名～4名は選択肢通りの人数、5～9名＝7名、10～19名＝14名、20名以上＝20名、採用人数は未確定＝0名 で算出

（※3）「その他」には、サイクルシェアリング事業、モバイルリサーチ&マーケティング支援事業、EC・通販、タクシー配車システム開発などを含む

SUMMARY

採用意向企業等の特徴①

▶採用意向企業等の特徴

- ・情報デザイン学部情報デザイン学科卒業者について「採用対象になる」と回答した企業の主業種は、「情報・通信業」が最も多く、154社(91.1%)。
- ・採用意向企業等の所在地は、「東京都」が93社と最も多い。
- ・従業員規模は、100人以下が70社(41%)と多いが、1000人以上の規模の企業も17社(11%)にのぼる。

			主業種										従業員規模			
			建設業	製造業	情報・通信業	放送・新聞・出版業	金融業・保険業	卸売・小売業	保健医療・社会福祉業	学校・学習支援業	その他サービス	その他	100人以下	101~300人	301~1000人	1000人以上
情報デザイン学部情報デザイン学科																
該当学科卒者採用意向あり・計	N	289	1	3	245	2	2	8	2	3	5	18	130	75	53	31
	%		0.3	1.0	84.8	0.7	0.7	2.8	0.7	1.0	1.7	6.2	45.0	26.0	18.3	10.7
採用対象になる	N	169	0	2	154	1	1	3	0	2	1	5	70	50	32	17
	%		—	1.2	91.1	0.6	0.6	1.8	—	1.2	0.6	3.0	41.4	29.6	18.9	10.1
おそらく採用対象になる	N	86	0	0	72	1	1	5	0	0	0	7	43	16	16	11
	%		—	—	83.7	1.2	1.2	5.8	—	—	—	8.1	50.0	18.6	18.6	12.8
採用対象として検討してもよい	N	34	1	1	19	0	0	0	2	1	4	6	17	9	5	3
	%		2.9	2.9	55.9	—	—	—	5.9	2.9	11.8	17.6	50.0	26.5	14.7	8.8

情報デザイン学部情報デザイン学科			回答企業の本社所在地																
			甲信越	新潟	山梨	長野	北海道	東北	北関東	南関東		埼玉	千葉	東京	神奈川	北陸	東海	関西	中国・四国
該当学科卒者採用意向あり・計	N	289	44	34	2	8	2	6	7	179	4	4	152	19	15	5	8	12	11
	%		15.2	11.8	0.7	2.8	0.7	2.1	2.4	61.9	1.4	1.4	52.6	6.6	5.2	1.7	2.8	4.2	3.8
採用対象になる	N	169	23	17	2	4	1	2	6	111	4	2	93	12	5	4	5	4	8
	%		13.6	10.1	1.2	2.4	0.6	1.2	3.6	65.7	2.4	1.2	55.0	7.1	3	2.4	3	2.4	4.7
おそらく採用対象になる	N	86	11	9	0	2	1	4	1	48	0	1	42	5	6	1	3	8	3
	%		12.8	10.5	—	2.3	1.2	4.7	1.2	55.8	—	1.2	48.8	5.8	7.0	1.2	3.5	9.3	3.5
採用対象として検討してもよい	N	34	10	8	0	2	0	0	0	20	0	1	17	2	4	0	0	0	0
	%		29.4	23.5	—	5.9	—	—	—	58.8	—	2.9	50.0	5.9	11.8	—	—	—	—

※業種の「その他」には、サイクルシェアリング事業、モバイルリサーチ&マーケティング支援事業、EC・通販、タクシー配車システム開発を含む。

※表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE01

▶ 質的・量的な人材確保の難易度

- 卒業生を「採用対象になる」と回答した企業に、今後の[採用予定人数]の見通しを尋ねたところ、「充足できる」が約4割を占め、「どちらかというところまで含めると、4社中3社程度が充足できる見通しを示した。
- 質的な人材確保の面では、[必要な社会人基礎力を持った人材]は合計で79.9%、[必要な専門性を持った人材]は71.0%が充足できると回答した。
- ただし、[必要な専門性を持った人材]に関しては、「充足できる」と回答した企業が6.5%となっており、確実に充足できるとしている企業は1割に満たないことがわかる。

Q6. 貴社・貴団体の今後10年程度の採用の見通しについてお伺いします。量的・質的な確保の難易度について、あてはまるものをお選びください。

		a：採用予定人数					
		充足できる	どちらかというところまでできる	どちらかというところまでできない	充足できない	充足できる・計	充足できない・計
情報デザイン学部情報デザイン学科							
該当学科卒者採用意向あり・計	N 289	111	105	51	22	216	73
	%	38.4	36.3	17.6	7.6	74.7	25.3
採用対象になる	N 169	71	58	27	13	129	40
	%	42.0	34.3	16.0	7.7	76.3	23.7
おそらく採用対象になる	N 86	35	30	16	5	65	21
	%	40.7	34.9	18.6	5.8	75.6	24.4
採用対象として検討してもよい	N 34	5	17	8	4	22	12
	%	14.7	50.0	23.5	11.8	64.7	35.3

		b：必要な社会人基礎力を持った人材					
		充足できる	どちらかというところまでできる	どちらかというところまでできない	充足できない	充足できる・計	充足できない・計
情報デザイン学部情報デザイン学科							
該当学科卒者採用意向あり・計	N 289	62	164	51	12	226	63
	%	21.5	56.7	17.6	4.2	78.2	21.8
採用対象になる	N 169	40	95	26	8	135	34
	%	23.7	56.2	15.4	4.7	79.9	20.1
おそらく採用対象になる	N 86	17	53	14	2	70	16
	%	19.8	61.6	16.3	2.3	81.4	18.6
採用対象として検討してもよい	N 34	5	16	11	2	21	13
	%	14.7	47.1	32.4	5.9	61.8	38.2

		c：必要な専門性を持った人材					
		充足できる	どちらかというところまでできる	どちらかというところまでできない	充足できない	充足できる・計	充足できない・計
情報デザイン学部情報デザイン学科							
該当学科卒者採用意向あり・計	N 289	23	178	69	19	201	88
	%	8.0	61.6	23.9	6.6	69.6	30.4
採用対象になる	N 169	11	109	39	10	120	49
	%	6.5	64.5	23.1	5.9	71.0	29.0
おそらく採用対象になる	N 86	6	54	23	3	60	26
	%	7.0	62.8	26.7	3.5	69.8	30.2
採用対象として検討してもよい	N 34	6	15	7	6	21	13
	%	17.6	44.1	20.6	17.6	61.8	38.2

※表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE02_Q6

採用意向企業等の特徴③

▶【採用したい人材像(1) 修得してほしい能力(ジェネリックスキル)】

- 卒業生が「採用対象になる」と回答した企業においては、「IT業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材」(72.8%)が最も高く、次いで「企業戦略の立案の際、コミュニケーション能力と広い視野でリーダーシップを発揮する人材」(59.8%)が高い。
- 他の層と比較して全体的にスコアが高いが、中でも「IT業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材」が高く、求められる度合いが高い。

Q7. 貴社・貴団体では、どのような能力(ジェネリックスキル)を修得した人材を採用したいですか。以下の項目の中からあてはまるものをお選びください。

情報デザイン学部情報デザイン学科	情報・工学系・計				ビジネス系・計			あてはまるものはない
	AI、サイバーセキュリティなど最先端の情報技術、知識を学んだ人材	IT業界を中心としたスタートアップから大企業まで幅広いステージでの活躍を目指す人材	情報技術を活用してまだ世にない、新しい価値を生み出す人材	情報技術の知識とスキルを経営やマーケティングに活用できる人材	デザイン思考を用いて課題を解決し、まだ世にない新しい価値を生み出す人材	企業戦略の立案の際、コミュニケーション能力と広い視野でリーダーシップを発揮する人材		
該当学科卒者採用意向あり・計	N 289	135	182	122	118	127	172	5
	%	46.7	63.0	42.2	40.8	43.9	59.5	1.7
採用対象になる	N 169	89	123	73	68	77	101	3
	%	52.7	72.8	43.2	40.2	45.6	59.8	1.8
おそらく採用対象になる	N 86	33	45	37	31	33	49	1
	%	38.4	52.3	43.0	36.0	38.4	57.0	1.2
採用対象として検討してもよい	N 34	13	14	12	19	17	22	1
	%	38.2	41.2	35.3	55.9	50.0	64.7	2.9

※表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE03.Q7

採用したい人材像(2) 修得してほしい専門分野の知識・技能】

- 修得してほしい専門分野の知識・技能をみると、卒業生が「採用対象になる」と回答した企業では、【ビジネス系】の「プロジェクトマネジメント」(59.2%)が最も高く、次いで、【情報・工学系】の「ソフトウェア開発」(55.0%)が50%を超える。
- その他には、【情報・工学系】の「データサイエンス」(48.5%)、「サイバーセキュリティ」(40.2%)が40%以上で続く。

Q8. 貴社・貴団体では、どのような専門分野の知識や技能を修得した人材を採用したいですか。以下の項目の中からあてはまるものをお選びください。

情報デザイン学部情報デザイン学科	情報・工学系											
	コンピュータアーキテクチャ	言語処理技術	サービスデザイン	データサイエンス	ヒューマンコンピュータインタラクション	コンピュータグラフィックス・メタヴァース	サイバーセキュリティ	ソフトウェア開発	統計	アルゴリズム・データ構造	データエンジニアリング	通信工学・情報理論
該当学科卒者採用意向あり・計	N 289	50	60	81	125	11	21	109	148	33	61	67
	%	17.3	20.8	28.0	43.3	3.8	7.3	37.7	51.2	11.4	21.1	23.2
採用対象になる	N 169	29	39	51	82	8	15	68	93	18	39	47
	%	17.2	23.1	30.2	48.5	4.7	8.9	40.2	55.0	10.7	23.1	27.8
おそらく採用対象になる	N 86	14	12	24	33	2	5	29	37	11	16	11
	%	16.3	14.0	27.9	38.4	2.3	5.8	33.7	43.0	12.8	18.6	12.8
採用対象として検討してもよい	N 34	7	9	6	10	1	1	12	18	4	6	9
	%	20.6	26.5	17.6	29.4	2.9	2.9	35.3	52.9	11.8	17.6	26.5

情報デザイン学部情報デザイン学科	ビジネス系				その他
	デジタルマーケティング	アントレプレナー	プロジェクトマネジメント	マーケティング	
該当学科卒者採用意向あり・計	N 289	95	18	157	81
	%	32.9	6.2	54.3	28.0
採用対象になる	N 169	56	15	100	49
	%	33.1	8.9	59.2	29.0
おそらく採用対象になる	N 86	31	2	39	27
	%	36.0	2.3	45.3	31.4
採用対象として検討してもよい	N 34	8	1	18	5
	%	23.5	2.9	52.9	14.7

※表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE04.Q8

▶採用対象者に対して予定している採用方法や形態

- 卒業生への採用意向のある企業に対して、予定している採用方法や形態について尋ねた。
- 「採用対象になる」と回答した企業では、「現住所での勤務が継続できるようテレワーク等の柔軟な働き方を尊重する」(41.4%)、「部門別、コース別採用等で、専門性を早期に発揮できる活躍を期待する」(40.2%)が40%を超える。
- 以上の2項目は、いずれも「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」層と比較してスコアが高く、採用者のニーズに柔軟に対応することで活用を目指す意向が強いことがわかる。

Q11. Q9で、「1.採用対象になる」「2.おそらく採用対象になる」「3.採用対象として検討してもよい」を選んだ方にお聞きます。

予定している採用方法や形態について、お答えください。

情報デザイン学部情報デザイン学科			部門別、コース別採用等で、専門性を早期に発揮できる活躍を期待する	地域限定採用等で、配属地の入社前確約を行う	通年採用等で、入社希望時期に柔軟に対応する	採用直結と明示したインターンシップ等からの採用を行う	卒後3年以内も新卒として扱い、十分な教育機会を提供する	高い専門性が確認できた場合は、初任給格差をつける	現住所での勤務が継続できるようテレワーク等の柔軟な働き方を尊重する	あてはまるものはない	
該当学科卒者採用意向あり・計			N 289	108	90	107	36	62	13	97	23
			%	37.4	31.1	37.0	12.5	21.5	4.5	33.6	8.0
採用対象になる			N 169	68	58	65	22	36	3	70	10
			%	40.2	34.3	38.5	13.0	21.3	1.8	41.4	5.9
おそらく採用対象になる			N 86	32	31	28	7	20	7	22	6
			%	37.2	36.0	32.6	8.1	23.3	8.1	25.6	7.0
採用対象として検討してもよい			N 34	8	1	14	7	6	3	5	7
			%	23.5	2.9	41.2	20.6	17.6	8.8	14.7	20.6

※表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE04.Q11

- 卒業生への採用意向のある企業に対して、企業・団体等に従事する人のリスクリング教育のために「開志創造大学情報デザイン学部情報デザイン学科[通信教育課程]」への進学を勧めたいか尋ねた。

31.5%が「とても勧めたいと思う」と回答し、「まあ勧めたいと思う」まで含めると88.8%が推奨意向を示した。

Q12. リスクリング教育のために、貴社・貴団体に従事される方に、開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程] (仮称・設置構想中) への進学をどの程度勧めたいと思いますか。

情報デザイン学部情報デザイン学科			推奨意向あり・計		推奨意向なし・計		推奨意向あり・計	推奨意向なし・計
			とても勧めたいと思う	まあ勧めたいと思う	あまり勧めたいと思わない	まったく勧めたいと思わない		
該当学科卒者採用意向あり・計	N	289	91	156	38	4	247	42
	%		31.5	54.0	13.1	1.4	85.5	14.5
採用対象になる	N	169	81	69	17	2	150	19
	%		47.9	40.8	10.1	1.2	88.8	11.2
おそらく採用対象になる	N	86	8	69	8	1	77	9
	%		9.3	80.2	9.3	1.2	89.5	10.5
採用対象として検討してもよい	N	34	2	18	13	1	20	14
	%		5.9	52.9	38.2	2.9	58.8	41.2

※表内の%は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある

PROFILE04.Q12

▶ 回答企業の概要

■主業種

Q1. 貴社・貴団体の主業種をお選びください。

【全体／単一回答】

		建設業	製造業	情報・通信業	放送、新聞、出版業	金融業、保険業	卸売・小売業	保健医療・社会福祉業	学校・学習支援業	その他サービス	その他
全体 (n=312)	N	1	4	259	3	2	14	2	3	6	18
	%	0.3	1.3	83.0	1.0	0.6	4.5	0.6	1.0	1.9	5.8

■本社所在地

Q2. 貴社・貴団体の所在地（本社・主たる事業所等）をお答えください。

【全体／単一回答】

		甲信越	新潟	山梨	長野	南関東	埼玉	千葉	東京	神奈川	北海道	東北	北関東	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄
全体 (n=312)	N	57	44	2	11	187	5	4	158	20	2	6	7	17	5	8	12	11
	%	18.3	14.1	0.6	3.5	59.9	1.6	1.3	50.6	6.4	0.6	1.9	2.2	5.4	1.6	2.6	3.8	3.5

■従業員規模

Q3. 貴社・貴団体の従業員規模として、あてはまるものをお選びください。

【全体／単一回答】

		20人以下	21～50人	51～100人	101～300人	301～500人	501～1000人	1001～3000人	3001人以上
全体 (n=312)	N	52	55	39	79	29	26	19	13
	%	16.7	17.6	12.5	25.3	9.3	8.3	6.1	4.2

表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

有効回答の単純集計②

▶採用動向、採用したい人材像

■本年度の大学新卒採用者数

Q4. 貴社・貴団体の本年度2024年4月入社の大学新卒採用状況についておうかがいします。
大学卒の方の採用者数として、あてはまるものをお選びください。

【全体／単一回答】

		大学新卒 採用なし (0人)	1～9人	10～49人	50～99人	100人以 上	採用実績 あり・計
全体	(n=312)	N	59	143	82	10	253
		%	18.9	45.8	26.3	3.2	81.1

■来年度の大学新卒採用方針

Q5. 貴社・貴団体の来年度2025年4月入社の大学新卒採用について、現時点でどのようにお考えですか。貴社・貴団体の方針に
もっとも近いものをお選びください。

【全体／単一回答】

		2024年度 よりも増 える	2024年度 と同程度	2024年度 よりも減 る	大学新卒 採用は行 わない	未定・わ からない	大卒新卒 採用予 定・検討・ 計
全体	(n=312)	N	54	198	14	13	299
		%	17.3	63.5	4.5	4.2	95.8

■量的・質的な人材確保の難易度

Q6. 貴社・貴団体の今後10年程度の採用の見通しについてお伺いします。量的・質的な確保の難易度について、あてはまるもの
をお選びください。

【全体／単一回答】

		充足でき る	どちらか というど できる	どちらか というど できない	充足でき ない	充足でき る・計	充足でき ない・計	
a. 採用予定人数	(n=312)	N	119	111	56	26	230	82
		%	38.1	35.6	17.9	8.3	73.7	26.3
b. 必要な社会人基礎力を持った人材	(n=312)	N	68	174	52	18	242	70
		%	21.8	55.8	16.7	5.8	77.6	22.4
c. 必要な専門性を持った人材	(n=312)	N	28	185	74	25	213	99
		%	9.0	59.3	23.7	8.0	68.3	31.7

■採用したい人材像：修得してほしい能力（ジェネリックスキル）

Q7. 貴社・貴団体では、どのような能力（ジェネリックスキル）を修得した人材を採用したいですか。以下の項目の中からあてはまるものをお選びください。

【大学新卒採用意向企業／複数回答】

		情報・工学系・計			ビジネス系・計			あてはまるもの はない	
		AI、サイバー セキュリティなど 最先端の情報 技術、知識を 学んだ人材	IT業界を中心 としたスタート アップから大企 業まで幅広いス テージでの活躍 を目指す人材	情報技術を活用 してまだ世にな い、新しい価値 を生み出す人材	情報技術の知識 とスキルを経営 やマーケティング に活用できる 人材	デザイン思考を 用いて課題を解 決し、まだ世に ない新しい価値 を生み出す人材	企業戦略の立案 の際、コミュニ ケーション能力 と広い視野で リーダーシップ を発揮する人材		
大学新卒採用意向企業	(n=299)	N	138	185	123	122	128	179	8
		%	46.2	61.9	41.1	40.8	42.8	59.9	2.7

■採用したい人材像：修得してほしい専門分野の知識・技能

Q8. 貴社・貴団体では、どのような専門分野の知識や技能を修得した人材を採用したいですか。以下の項目の中からあてはまるものをお選びください。

【大学新卒採用意向企業／複数回答】

		情報・工学系・計										ビジネス系・計						その他	
		コン ピュータ アーキテ クチャ	言語処理 技術	サービス デザイン	データサイ エンス	ヒューマ ンコン ピュータ インタラ クション	コン ピュータ グラフィ ックス・メ タ ヴァース	サイバー セキュリ ティ	ソフト ウェア開 発	統計	アルゴリ ズム・ データ構 造	データエ ンジニア リング	通信工 学・情報 理論	デジタル マーケ ティंग	アントレ プレナー	プロジェ クトマネ ジメント			
大学新卒採用意向企業	(n=299)	N	52	62	84	126	13	21	112	150	34	62	69	31	97	18	161	82	9
		%	17.4	20.7	28.1	42.1	4.3	7.0	37.5	50.2	11.4	20.7	23.1	10.4	32.4	6.0	53.8	27.4	3.0

有効回答の単純集計

▶新設組織卒業者に対する採用意向

■採用意向【情報デザイン学部情報デザイン学科】

Q9. 開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]（仮称・設置構想中）で学んだ学生の新卒採用について、どのようにお考えですか。貴社・貴団体のお考えにもっとも近いものをお選びください。

【大学新卒採用意向企業／単一回答】

		採用意向・検討意向あり				採用意向・検討意向あり
		採用対象になる	おそらく採用対象になる	採用対象として検討してもよい	あまり採用対象にならない	採用対象にならない
大学新卒採用意向企業 (n=299)	N	169	86	34	6	4
	%	56.5	28.8	11.4	2.0	1.3

■採用意向人数／「採用対象になる」と回答した企業ベース【情報デザイン学部情報デザイン学科】

Q10_1. Q9で、「1.採用対象になる」を選んだ方にお聞きます。何人程度の採用が見込めるか、お答えください。

【卒業生採用意向企業：「採用対象になる」と回答した企業／単一回答】

		1名	2名	3名	4名	5～9名	10～19名	20名以上	採用人数は未確定
卒業生新卒採用意向企業「採用対象になる」と回答した企業 (n=169)	N	43	41	21	3	7	2	4	48
	%	25.4	24.3	12.4	1.8	4.1	1.2	2.4	28.4

換算人数 →		1人	2人	3人	4人	7人	14人	20人	—	合計	1社あたりの平均人数
採用意向人数 (n=169)		43	82	63	12	49	28	80	—	357人	3.0人

■予定している採用方法や就業形態【情報デザイン学部情報デザイン学科】

Q11. Q9で、「1.採用対象になる」「2.おそらく採用対象になる」「3.採用対象として検討してもよい」を選んだ方にお聞きます。予定している採用方法や形態について、お答えください。

【卒業生採用意向企業／複数回答】

		部門別、コース別採用等で、専門性を早期に発揮できる活躍を期待する	地域限定採用等で、配属地の入社前確約を行う	通年採用等で、入社希望時期に柔軟に対応する	採用直結と明示したインターンシップ等からの採用を行う	卒後3年以内も新卒として扱い、十分な教育機会を提供する	高い専門性が確認できた場合は、初任給格差をつける	現住所での勤務が継続できるようテレワーク等の柔軟な働き方を尊重する	あてはまるものはない
卒業生採用意向企業合計 (n=289)	N	108	90	107	36	62	13	97	23
	%	37.4	31.1	37.0	12.5	21.5	4.5	33.6	8.0

■企業・団体など就業者に対する進学推奨意向

Q12. リスキリング教育のために、貴社・貴団体に従事される方に、開志創造大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科 [通信教育課程]（仮称・設置構想中）への進学をどの程度勧めたいと思いますか。

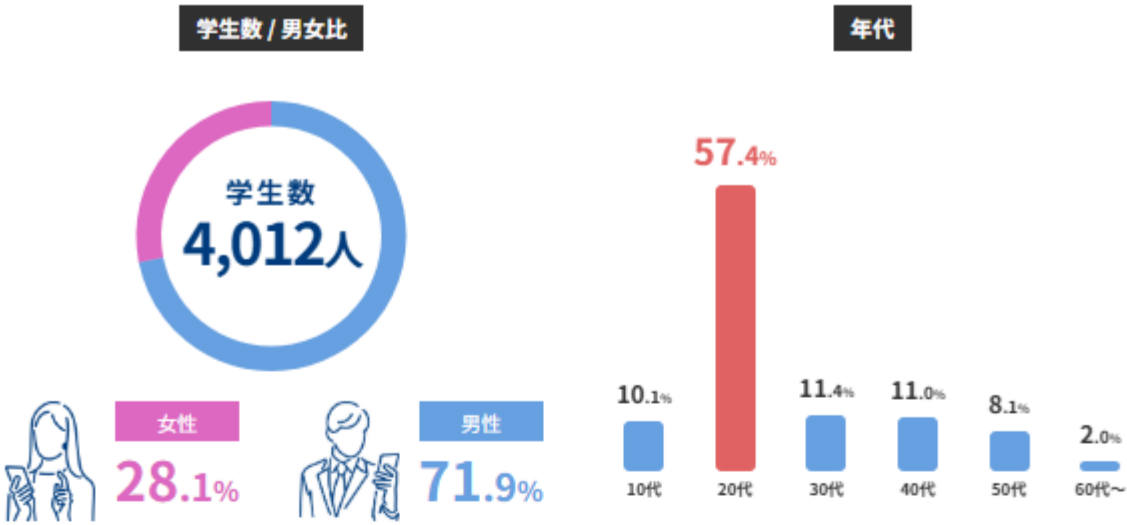
【大学新卒採用意向企業／単一回答】

		推奨意向あり・計		推奨意向なし・計		推奨意向あり・計	推奨意向なし・計
		とても勧めたいと思う	まあ勧めたいと思う	あまり勧めたいと思わない	まったく勧めたいと思わない		
大学新卒採用意向企業 (n=299)	N	92	160	40	7	252	47
	%	30.8	53.5	13.4	2.3	84.3	15.7

表内の％は四捨五入のため、各項目の合計値は100%にならない場合がある。

在 学 生 デ ー タ

2024年11月1日現在



職業別



https://www.cyber-u.ac.jp/about/aspect_curriculum.html#studentData

卒 業 生 デ ー タ

卒業生数

2024年11月1日現在

2024年度卒業生数

9月 230人

2023年度卒業生数

3月 456人

9月 252人

2022年度卒業生数

3月 371人

9月 190人

2021年度卒業生数

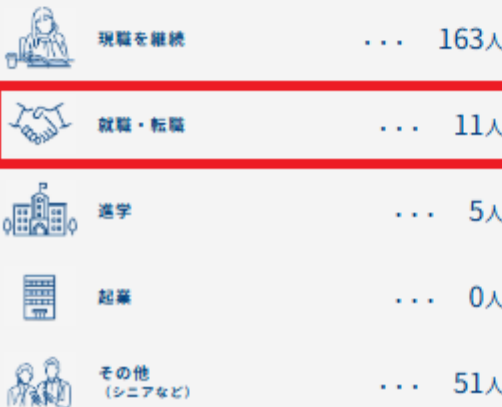
3月 384人

9月 173人

卒業生の進路

2024年11月1日現在

2024年9月



2024年3月





これから進学を検討している方へ

東京進学は いくらかかる？

1年間あたりの学費比較

2,709,100円

学費のみ
25万円

約 $\frac{1}{10}$

学費
+
生活費

情報デザイン学部
(仮称・設置構想中)

東京圏※

通学制私立大学
アパート等で一人暮らしの場合

※ 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県
■ 出典：「令和4年度学生生活調査」(日本学生支援機構)
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/2022.html

学費

※変更になる場合があります。

入学金	年間授業料	初年度納入金
30,000円	250,000円	280,000円

類似する他大学の学部 初年度納入金(入学金を含む)

■ サイバー大学 / IT総合学部	782,000円
■ 東京通信大学 / 情報マネジメント学部	441,000円

※各大学の学費については、教材費などを含んでいない場合があります。概算として参考にしてください。(2024年8月時点、各大学HPで調査)

設置場所/アクセス

〒950-0916 新潟県新潟市中央区米山三丁目1番46号
新潟駅南口より 徒歩7分

お問い合わせ

学校法人 新潟総合学園

情報デザイン学部設置準備室

〒950-0916 新潟県新潟市中央区米山三丁目1番46号
TEL 025-255-5533 E-MAIL info@kaishi.ac.jp

学校法人 新潟総合学園 **開志創造大学** [仮称]
※ 2026年4月、事業創造大学院大学は開志創造大学へと名称変更予定です。

HPはコチラから

■ 学校法人 新潟総合学園が設置・運営する大学



新潟医療福祉大学



新潟食料農業大学

学校法人 新潟総合学園 開志創造大学 [仮称]

情報デザイン学部 [仮称・設置構想中]

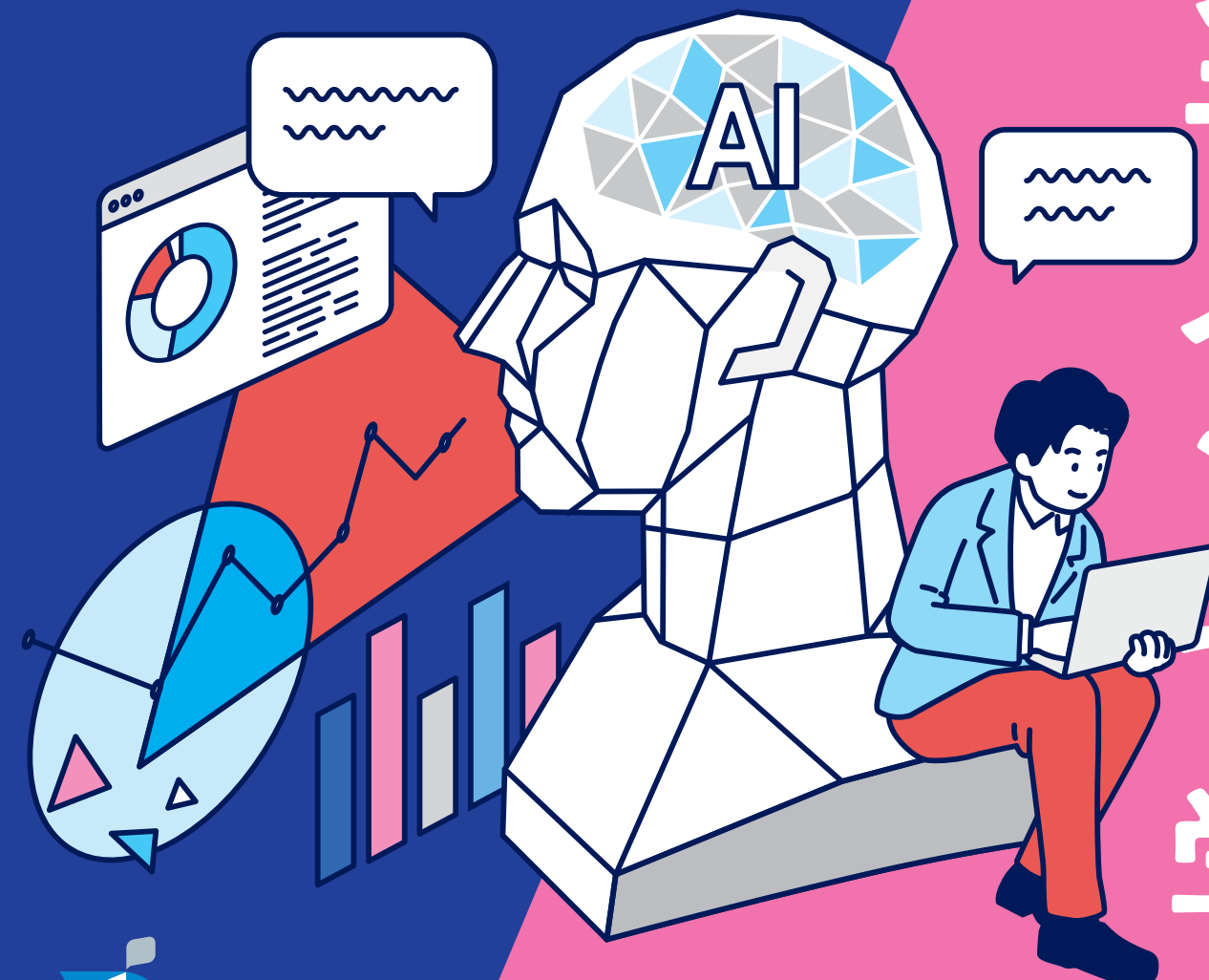
通信教育課程

1年次入学定員 800人 [予定] 3年次編入学定員 200人 [予定]

今住んでいる場所で

今の生活スタイルを変えずに

新しく学び始めることができます



**INFORMATION
DESIGN**

2026年4月開設! [予定]

時間や場所にとらわれず
完全オンラインで学ぶ

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

情報デザイン
学部の
〔仮称・設置構想中〕

時間や場所にしばられない オンライン完結型の学び

これから進学を検討する人も、今働いている人も、
今住んでいる場所で、今の生活スタイルを変えずに、新しく学び始めることができます。

POINT

1 スクーリング（通学）は無し！ 完全オンラインで大学を卒業

授業動画の視聴は自分の好きな時間に。
スマホでの視聴もOK！
質問もチャットで24時間以内に回答。



POINT

2 最先端を学ぶことで キャリアアップやキャリアチェンジも

今の仕事で必要とされるスキルの
大きな変化に適応していくことで、
キャリアアップやキャリアチェンジも可能に。

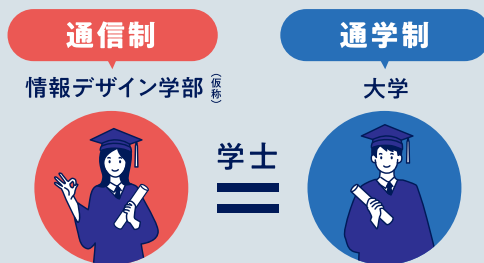


POINT

3 通信制でも大学卒業の証「学士」は通学制と同等

■ 通学制大学との違い

	情報デザイン学部 (仮称) 通信教育課程	一般的な 通学制 大学
学ぶ場所	自宅など、自分の好きな場所で勉強	毎日キャンパスに通って勉強
学び方	自分の好きな時間に授業動画を視聴 スクーリング (通学) は不要	決められた時間に授業を受講
卒業までに かかる学費 (4年間の総額)	103万円～	473万円※
学位	学士	学士



※文部科学省「令和5年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）の調査」より内訳は入学金24万806円、授業料95万9205円×4年分、施設設備費16万5271円×4年分。

POINT

4 これまでの学歴を活かして 3年次から入学できる

以下のA・Bに該当する方は、1年次からの入学だけでなく、途中の年次からの入学も可能です。

A	B
以下のいずれかを卒業・修了した人。	大学、または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した人。
大学・専門職大学	短期大学・専門職短期大学
高等専門学校	専修学校専門課程（専門学校）
高等学校の専攻科	



情報デザイン学部 情報デザイン学科

〔仮称・設置構想中〕

情報技術を活用して、情報社会における課題解決と 価値創造ができる能力を身につけた人材を養成

入学定員	1年次 / 800人 3年次編入学 / 200人	取得できる学位	学士 (情報学)
修得できる能力	1 情報技術に関する基礎知識と基礎スキル 2 情報技術を活用し、課題解決と価値創造ができる力 3 地域社会、国際社会で活躍できるコミュニケーション力と多角的な視点 4 情報活用の場となるビジネスに関する基礎知識を身につけ、リーダーシップを発揮することができる		



学部・学科の特徴

特徴

1 AIなど最新の情報技術を駆使する エンジニアを目指す！

情報技術についての基礎と専門知識を学び、それを応用できる能力までを身につけます。情報技術を活用することで問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができるエンジニアを目指します。



特徴

2 ビジネス現場を知り、 課題をITで解決できる人材を目指す！

情報をビジネスの意思決定に活用する、情報をマーケティングという側面からビジネスに活用する等、情報技術の知識、スキルを応用することでビジネスの課題解決や価値創造ができる人材を目指します。



特徴

3 自分の生活ペースにあわせた 時間や場所に縛られない学び

本学部は通信教育課程のため通学の必要がなく、場所や時間に縛られず学べるので、自分の生活にあわせたペースで効率的に学修を進められます。



特徴

4 課題解決実践で自分たちで考えて 問題を解決する力を養う！

新しいアイデアやアプローチを活用した問題解決やイノベーションを促進するための手法の一つであるデザイン思考を用いて、様々な課題の解決を実践する授業を行います。



開設予定科目

情報・工学系	ビジネス系
情報技術の理解に必要な基礎や最新の情報技術の動向を知る科目群	情報技術の活用場として、組織・企業の経営管理やプロジェクト管理について学ぶ科目群
データサイエンス入門・発展 生成AI活用 プログラミング基礎・発展 デザイン思考 コンピュータアーキテクチャ サービスデザイン 他	経営学基礎 マーケティング プロジェクトマネジメント入門・発展 デジタルマーケティング 会計・簿記 リーダーシップ実践 他
PBL入門 / DX実践Ⅰ～Ⅲ / ポートフォリオⅣ / 消費者行動心理 / デジタル時代の人体表現技巧 / 英語リスニングⅡ / 英語コミュニケーション 他	

想定される卒業後の進路

- ☐ ソフトウェア技術者
- ☐ サービス技術開発者
- ☐ データサイエンティスト
- ☐ セキュリティスペシャリスト
- ☐ 研究・開発職
- ☐ ITコンサルタント
- ☐ サービス・デザイナー
- ☐ ビジネスアーキテクト など

■ 設置の理念

IT人材不足が懸念され、デジタル化推進が企業の喫緊の課題となり、全ての職種でデジタル人材が求められるこれからの世の中において、「情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる能力を身につけた人材の養成」を、学ぶロケーションや時間の制約がない環境にて実現することが設置の理念である。

■ アドミッション・ポリシー

情報デザイン学部は、学ぶ意欲のある、幅広い年齢層、様々な職業の方に、大学での学修環境を提供することを基本方針とし、次のような人材を受け入れます。

- 本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人
- 本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人
- 自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人
- 高等学校での学修を踏まえた、大学での学修に必要な基礎知識を有している人

■ 養成する人材像

データサイエンスや生成AI 等の情報技術を活用することによって問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、コミュニケーション力と多角的な視点をもって組織においてリーダーシップを発揮できる人材

情報技術の知識とスキルを応用することによるビジネスの課題解決や価値創造ができ、コミュニケーション力と多角的な視点をもってリーダーシップを発揮できる人材

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

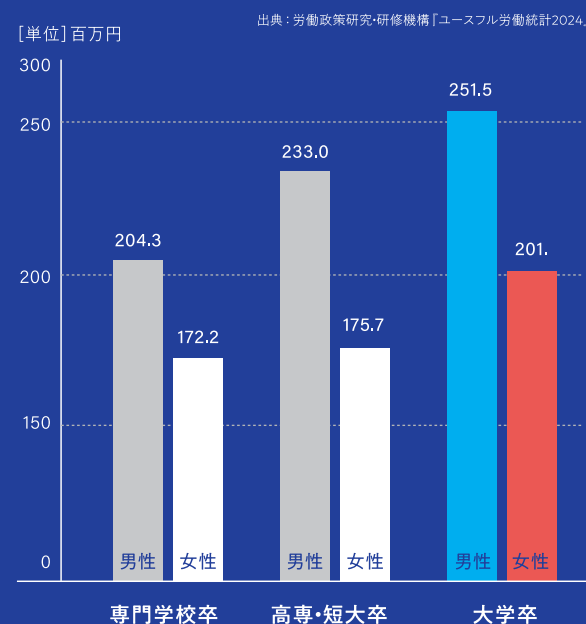


学び直しを検討している方へ

生涯賃金の違いは？※

※学校を卒業してただちに就職し、その後、60歳で退職するまでフルタイムの正社員を続ける場合(同一企業継続職業とは限らない)(定年まで、退職金を含めない、2023年)

生涯賃金の比較



学費

※変更になる場合があります。

入学金	年間授業料	初年度納入金
30,000円	250,000円	280,000円

類似する他大学の学部

初年度納入金 (入学金を含む)

■ サイバー大学 / IT総合学部	782,000円
■ 東京通信大学 / 情報マネジメント学部	441,000円

※各大学の学費については、教材費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にしてください。(2024年8月時点、各大学HPで調査)

設置場所/アクセス

〒950-0916 新潟県新潟市中央区米山三丁目1番46号
新潟駅南口より 徒歩7分

お問い合わせ

学校法人 新潟総合学園

情報デザイン学部設置準備室

〒950-0916 新潟県新潟市中央区米山三丁目1番46号
TEL 025-255-5533 E-MAIL info@kaishi.ac.jp

学校法人 新潟総合学園 **開志創造大学** [仮称]

※ 2026年4月、事業創造大学院大学は開志創造大学へと名称変更予定です。

HPはコチラから



■ 学校法人 新潟総合学園が設置・運営する大学



新潟医療福祉大学



新潟食料農業大学

学校法人 新潟総合学園 開志創造大学 [仮称]

情報デザイン学部 [仮称・設置構想中]

通信教育課程

1年次入学定員 800人^[予定] 3年次編入学定員 200人^[予定]

2028年4月より **3年次編入学** 受入開始予定

最短2年で「学士」取得!

今住んでいる場所で

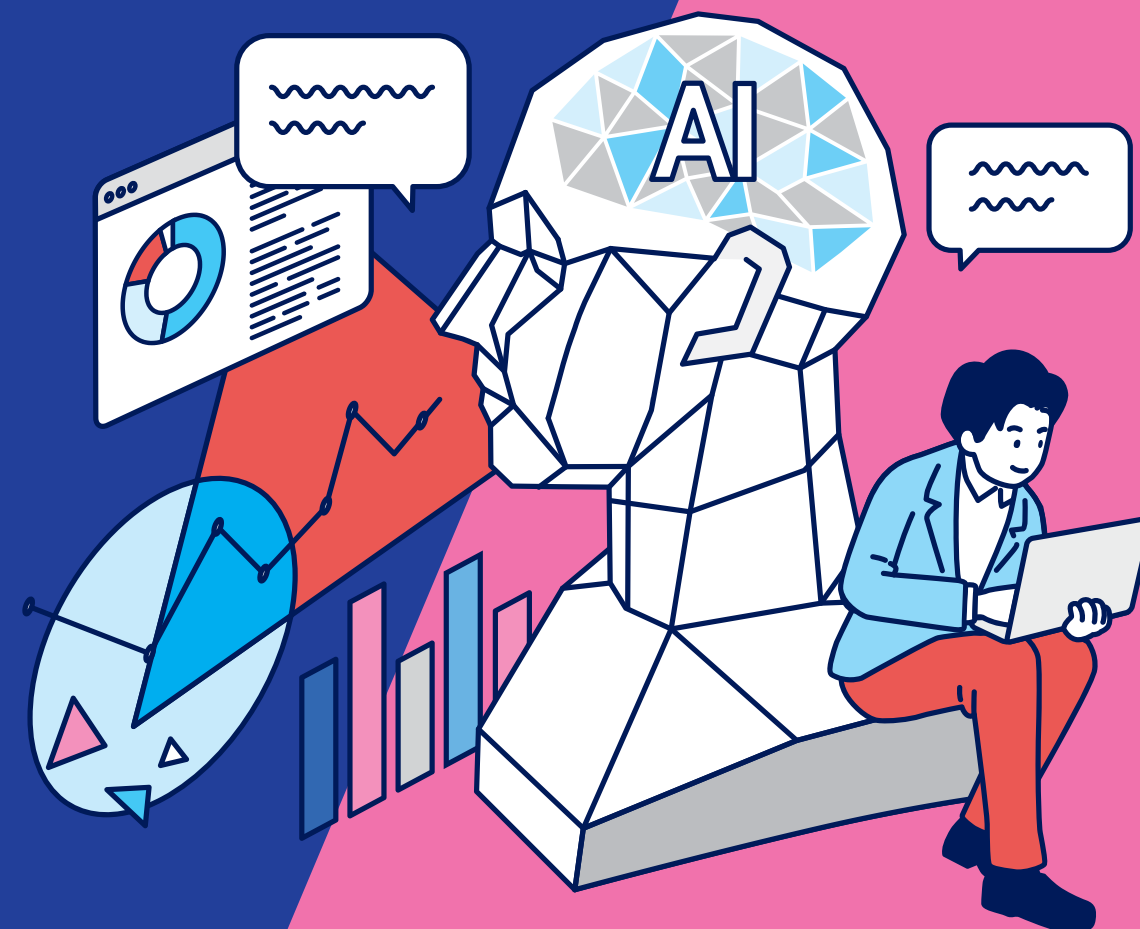
今の生活スタイルを変えずに

新しく学び始めることができます

完全
オンラインで

学び直し 大人の

今からでも遅くない



2026年4月開設! [予定]

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

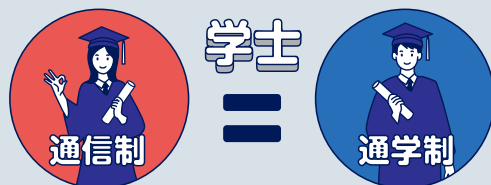
情報デザイン
学部の
[仮称・設置構想中]

3年次編入学で 最短2年で卒業！ 1度も通学しないオンライン完結型の学び

2028年4月より 3年次編入学 受入開始予定

POINT 1 給与・年収に満足してる？

1 オンラインで「学士」取得



情報デザイン学部 [取得できる学位] 学士(情報学)

POINT 2 経済的に続けられるか不安!?

2 学びやすい学費 ※変更になる場合があります。

年間授業料 25万円

入学金 30,000円 初年度納入金 280,000円

POINT 3 ライフスタイルを変えたくない!?

3 通学なしだから
働きながら学べる

授業動画の視聴は自分の好きな時間に。
1回の授業動画は15分。
スマホでの視聴もOK!



POINT 4 今のスキルのままで大丈夫!?

4 デジタル技術を学び
DX・AI人材へ

最先端のデジタルスキルを身につけ、これからの社会でも活躍し続ける人材へ。
転職やキャリアアップも!



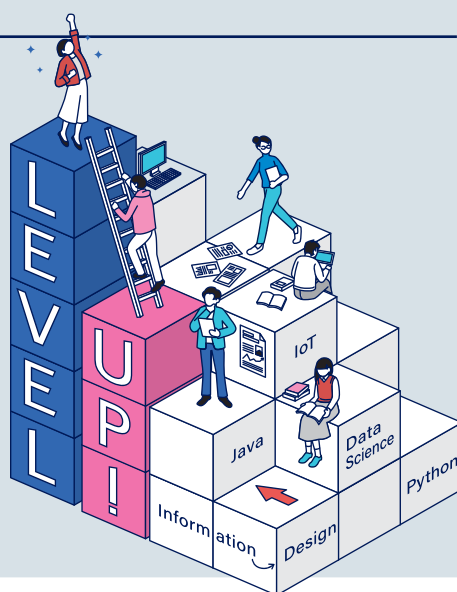
POINT 5 これまでの学歴を生かす!

5 3年次編入学で最短2年で卒業

以下のA・Bいずれかに該当する方は3年次編入学の対象となります

工業系などの大学卒業者も対象

A	B
以下のいずれかを卒業・修了した人。	大学、または専門職大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した人。
大学・専門職大学 短期大学・専門職短期大学	
高等専門学校 専修学校専門課程(専門学校)	
高等学校の専攻科	



情報デザイン学部 情報デザイン学科 [仮称・設置構想中]

情報技術を活用して、情報社会における課題解決と
価値創造ができる能力を身につけた人材を養成

入学定員 1年次 / 800人 3年次編入学 / 200人 取得できる学位 学士(情報学)
2028年4月より 3年次編入学 受入開始予定

修得できる能力 1 情報技術に関する基礎知識と基礎スキル
2 情報技術を応用し、課題解決と価値創造ができる力
3 地域社会、国際社会で活躍できるコミュニケーション力と多角的な視点
4 情報活用となるビジネスに関する基礎知識を身につけ、リーダーシップを発揮することができる

学部・学科の特徴

特徴 1 AIなど最新の情報技術を駆使する
エンジニアを目指す!

情報技術についての基礎と専門知識を学び、それを応用できる能力までを身につけます。情報技術を活用することで問題発見・分析を行い、課題解決と価値創造ができるエンジニアを目指します。



特徴 2 ビジネス現場を知り、
課題をITで解決できる人材を目指す!

情報をビジネスの意思決定に活用する、情報をマーケティングという側面からビジネスに活用する等、情報技術の知識、スキルを応用することでビジネスの課題解決と価値創造ができる人材を目指します。



特徴 3 自分の生活ペースにあわせた
時間や場所に縛られない学び

本学部は通信教育課程のため通学の必要がなく、場所や時間に縛られず学べるので、自分の生活にあわせたペースで効率的に学修を進められます。



特徴 4 課題解決実践で自分たちで考えて
問題を解決する力を養う!

新しいアイデアやアプローチを活用した問題解決やイノベーションを促進するための手法の一つであるデザイン思考を用いて、様々な課題の解決を実践する授業を行います。



開設予定科目

情報・工学系	ビジネス系
情報技術の理解に必要な基礎や最新の情報技術の動向を知る科目群	情報技術の活用場として、組織・企業の経営管理やプロジェクト管理について学ぶ科目群
データサイエンス入門・発展 生成AI活用 プログラミング基礎・発展 デザイン思考 コンピュータアーキテクチャ サービスデザイン 他	経営学基礎 マーケティング プロジェクトマネジメント入門・発展 デジタルマーケティング 会計・簿記 リーダーシップ実践 他
PBL入門 / DX実践Ⅰ～Ⅲ / ポートフォリオⅣ / 消費者行動心理 / デジタル時代の人体表現技巧 / 英語リスニングⅡ / 英語コミュニケーション 他	

想定される卒業後の進路

- ☐ ソフトウェア技術者
- ☐ サービス技術開発者
- ☐ データサイエンティスト
- ☐ セキュリティスペシャリスト
- ☐ 研究・開発職
- ☐ ITコンサルタント
- ☐ サービス・デザイナー
- ☐ ビジネスアーキテクト など

■ 設置の理念

IT人材不足が懸念され、デジタル化推進が企業の喫緊の課題となり、全ての職種でデジタル人材が求められるこれからの世の中において、「情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる能力を身につけた人材の養成」を、学ぶロケーションや時間の制約がない環境にて実現することが設置の理念である。

■ アドミッション・ポリシー

情報デザイン学部は、学ぶ意欲のある、幅広い年齢層、様々な職業の方に、大学での学修環境を提供することを基本方針とし、次のような人材を受け入れます。

- 本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人
- 本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人
- 自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人
- 高等学校での学修を踏まえた、大学での学修に必要な基礎知識を有している人

■ 養成する人材像

データサイエンスや生成AI 等の情報技術を活用することによって問題発見・分析を行い、課題解決と価値創造ができ、コミュニケーション力と多角的な視点をもって組織においてリーダーシップを発揮できる人材

情報技術の知識とスキルを応用することによるビジネスの課題解決と価値創造ができ、コミュニケーション力と多角的な視点をもってリーダーシップを発揮できる人材

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

学校教育法の一部を改正する法律の概要

趣旨

専修学校は、学校教育法において、「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ること」が目的とされ、医療、福祉、工業等の分野において、実践的な職業教育機関として人材を輩出してきた。

人生100年時代やデジタル社会の進展の中で、職業に結びつく実践的な知識・技能・技術や資格の修得に向けて、リスキリング・リカレント教育を含めた**職業教育の重要性**が高まっていること等を踏まえ、**専修学校における教育の充実**を図るため、専門課程の入学資格を厳格化するとともに、専修学校における専攻科の設置に係る規定の創設、一定の要件を満たす専門課程の修了者への称号の付与、専門課程を置く専修学校への自己点検評価の義務付け等の措置を講ずる。

概要

大学等との制度的整合性を高めるための措置

- ① 専修学校の**専門課程の入学資格**について、**大学の入学資格と同様**の規定とする。

※専門課程の入学資格について、高等学校等を卒業した者に「準ずる学力があると認められた者」から、高等学校等を卒業した者と「同等以上の学力があると認められた者」に改める。

※専修学校専門課程の在籍者の呼称を「生徒」から「学生」に改める。

- ② 専修学校となるために**最低限必要な学習時間に関する基準**を、大学・高等専門学校と同様に「**単位数**」により定めることができるようにする。

専門課程修了者の学修継続の機会確保や社会的評価の向上のための措置

- ③ 一定の要件を満たす専門課程（以下「**特定専門課程**」という。）を置く専修学校には、**専攻科を置くことができる**こととする。

※専攻科は、特定専門課程を修了した者等が、より深く学び・研究することを目的とした課程。

※一定の要件を満たす専修学校の専攻科については、短期大学及び高等専門学校の認定専攻科と同様に、大学等における修学の支援に関する法律に基づく修学支援制度の対象に含める。

- ④ **特定専門課程**の修了者全てについて大学編入学資格を認めるとともに、当該**修了者は専門士と称する**ことができることとする。

教育の質の保証を図るための措置

- ⑤ 専門課程を置く専修学校に**大学と同等の項目での自己点検評価を義務付ける**とともに、**外部の識見を有する者による評価を受ける努力義務**を定める。

施行日

令和8年4月1日

【資料 32】ZEN 大学 学生確保状況

ZEN 大学 知能情報社会学部 知能情報社会学科

	令和 7 年度（2025 年度）	
入学定員	3,500	
	4 月入学	10 月入学
志願者	4,371	出願受付中※
入学者	3,380	
入学定員充足率	96.6%	

出典：ZEN 大学公式ホームページより

※2025 年 6 月 23 日現在